

# 昭和21年

## 全関西、蹴球勝つ

【大阪発】全関西対関西学生選抜軍の蹴球試合は六日午後二時から西宮球場で進行、全関西勝つ。全関西 4-1-1 学生選抜軍

S 2/1/18

アチス対全日本蹴球引分 アチス(聯合重慶訳通訳部)対全皇稻田の蹴球試合は二十九日午後二時から東大球場で進行、接戦の末4-4の引分に終つた

アチス 4-2-1 1 4 全皇稻田

S 2/1/30

## 東西学生蹴球引分け

【大阪発】関東対関西学生選抜対抗蹴球試合は十一日午後一時より西宮球場で進行、二対一の引分に終つた

関東 2-1-1 2 0 2 関西

S 2/1/12

## 関東蹴球選手 本社後援権大会組合せ

【関東発】関東蹴球選手権大会は東西対抗の接戦を兼ねて来る二十一日から開始されるが、その第二回戦組合せは左の如く決定した

◇第一部 立夫対東京一師、豊島対湘南日立対浦和、栃木対駿台  
◇第二部 東京五中对付属中、浦和中対湘南中、都高専対付属中

S 2/1/31 17

関東蹴球選手権大会 本社後援  
関東蹴球選手権大会第一日は二十一日午前九時より東大球場で第一部(大専、高専、実業団)第一回戦六試合を進行成瀬左の通り、なほ第二回戦は二十四日午前九時より東大球場で行はれる

◇第一回戦  
文理大 3-1-2 東京一師  
湘南俱 2-1-2 豊島サ  
栃木俱 6-1-1 駿台俱  
マツタ俱 11-0 聖栄一ル  
栃木師 不戦勝 関東学院俱  
浦和俱 不戦勝 日立本社

S 2/1/31 23

関東蹴球大専 本社後援関東蹴球選手権大会第一回は廿四日東大球場で第一部第一回戦を進行、成瀬左の通り  
全皇大 10-1 栃木俱

S 2/1/31 25

## 全皇大、全皇大勝る

【関東発】関東蹴球選手権大会は本社後援関東蹴球選手権大会第五日は三日、東大球場で第一、二部進決勝を進行、ベスト・フオアが覇権をめぐり白熱戦を展開したが一部では全皇大と全皇大、二部では都五中と付属中が勝ち残つた

◇第一部進決勝  
全皇大 6-3-3 1 東 蹴  
全皇大 3-1-2 1 2 全皇大  
都五中 4-3-0 0 0 第一師  
付属中 不戦勝 湘南中

S 2/1/41 4

## 全皇大、附属中勝つ

【関東発】関東蹴球選手権大会は終日は六日東大球場で決勝を進行、一部では全皇大、二部では延長戦の末付属中が制覇を遂げた

全皇大 2-1-1 1 0 0 全皇大  
付属中 2-1-0 1 0 1 都五中

S 2/1/41 7

## 東高優勝

【関東発】関東蹴球選手権大会は終日は四日午後二時から東大球場で東京高専対都立高専の決勝戦を進行、東高が優勝した

東京 2-1-0 0 0 都立

S 2/1/51 5

## 全皇大、附属中優勝

【全日本蹴球選手権大会】本社後援全日本蹴球選手権大会決勝戦は五日午後一時より東大球場で進行、一般の部では関東の覇者全皇大がアワガシメン以来の奮心のプレーを展開して関西代表神経大俱を一方的に破り、中等後の部では東京高師付属中が見事な奮志とチーム・ワークで前半五分に得点した一点のリードを最後まで押切り覇権争い一中を屈した

全皇大 6-5-1 1 1 2 神経大俱  
付属中 1-0-1 0 0 0 神戸一中

S 2/1/51 6

## 七日の運動

蹴球(東大球場)  
東京ウェ 4-3-0 0 0 慶大  
タリンス 1-0-0 0 0 慶大

S 2/1/91 8

## 十四日の運動

蹴球 東京選手権第二日(東大)  
◇第一回戦  
聖栄一ル 俱 湘 T D O  
西片前俱 7-0 第一師範  
◇第二回戦  
M T R 3-2 駿台  
全武蔵 1-1 全一高

S 2/1/91 15

## 二十一日の運動

蹴球 東京選手権第三日(東大)  
◇中等後第一回戦  
付属中 6-0 八中  
九中 1-1 一師後科  
(抽籤)  
二中 2-0 青學中

S 2/1/91 22

## 二十八日の運動

蹴球 東京選手権進決勝(東大)  
東大 9-4 0 0 M T R  
全皇大 2-0 2 1 全皇大

S 2/1/91 29

二十九日の運動

◇蹴球 東京選手権決勝(東大)  
 ◇中等校の部  
 附属中 1000 0 都立中  
 0000

▽一般の部  
 全東大 2  
 10000 10  
 00000 10  
 1 全東大

S 2/19/30

九日の運動

◇蹴球 関東大リーグ(東大)  
 早大 3 12 0 1 文大 6  
 2 6 0 0 立大 8

S 2/10/10

十一日の運動

◇蹴球 関東大リーグ(東大)  
 千代田 2 0 0 0 立大 0

S 2/10/12

十六日の運動

◇蹴球 関東大リーグ(東大)  
 文大 2 1 1 1 0 1 立大 1  
 東大 11 7 4 0 0 0 立大 0

S 2/10/17

十七日の運動

◇蹴球(東大)  
 早大 1 0 1 0 1 立大 6

S 2/10/19

◇蹴球 国民大対東日本選抜  
 勝  
 △中等校の部  
 二山中台 2 2 0 0 1 立大 2  
 湘南中 6 6 0 0 1 立大 2

△一般の部  
 湘南中 2 2 0 0 1 立大 2  
 早大 2 2 0 0 1 立大 2  
 全東大 2 2 0 0 1 立大 2  
 △全国選抜対選抜(東大)  
 一高 5 0 0 0 立大 5  
 六高 6 0 0 0 立大 6

S 2/10/20

二十一日の運動

◇蹴球 関東大リーグ(東大)  
 六高 6 2 2 0 1 立大 1

S 2/10/22

二十六日の運動

◇蹴球 関東大リーグ(東大)  
 早大 6 1 5 0 0 立大 6  
 立大 3 2 1 0 0 立大 3

S 2/10/27

二十七日の運動

◇蹴球 関東大リーグ(東大)  
 早大 5 4 1 0 0 立大 6

S 2/10/28

◇蹴球(東大)  
 東京ヘテ 2 1 1 0 0 立大 2  
 ラス 2 1 1 0 0 立大 2

S 2/10/29

国民体育大会  
 ◇蹴球 中東対西対抗  
 湘南中 2 2 0 0 1 立大 2  
 △二般対抗  
 早大 2 2 0 0 1 立大 2

S 2/11/4

◇蹴球 関東大リーグ(東大)  
 早大 2 2 2 0 0 立大 2  
 早大 3 2 1 0 0 立大 3  
 千代田 2 2 0 0 1 立大 2  
 明大 不戦勝 立大 不戦勝

S 2/11/11

二十八日の運動

◇蹴球 関東大リーグ(東大)  
 早大 2 2 2 0 0 立大 2  
 早大 3 2 1 0 0 立大 3

S 2/11/18

早大勝つ 東海学生蹴球  
 東西対抗蹴球 リーグ一位対  
 抗早大対神奈川戦は八日午後一  
 時半から東大球場で進行、早大勝つ

早大 2 2 0 0 0 立大 2

橋谷口井田龍村木島口田  
 (高) 藤原(小田) 高橋(古) 3 3 3 9  
 (早大) W B B B K K K K  
 (神奈川) F F F F C F G  
 木川武蔵 木島朝田 藤原 4 4 4 5  
 青島則多 多藤 藤原 山平

八日の運動

◇蹴球 関東大リーグ(東大)  
 日本電業 5 0 0 0 0 立大 0

S 2/12/9

◇蹴球 早大対立大(二回)  
 朝日 1 1 0 0 1 立大 1  
 朝日 1 1 0 0 1 立大 1

S 2/12/16

蹴球

昭和二十一年 昭和二十一年  
 12月 2日 早大蹴球部創立十周年記念大会(西宮)  
 昭和二十一年  
 1月 6日 関西OB 4-1 関西学生(西宮)  
 2月 4日 「学生選抜」 3-1 全関西(西宮)  
 ◇11日 「東西対抗及学生対抗」 全関東 1-0 1-0  
 1-1 1-1 全関西、関東学生 2-1 1-0、1-1 2-2  
 2 関西学生  
 3月 25日 「全日本選手権大会関西選抜」 早大 2-2  
 1-1 関大OB、京大 1-0 大日龍男、明星 3-1  
 京大、関大 10-0 同高崎



サッカー

大阪府対一関

S 22 11 1

東海	0	0	東北
近畿	1	0	近畿
(東大)	1	0	近畿
北陸	5	0	北陸
北陸	5	0	北陸
中部	3	1	大破
(金沢)	3	1	大破

サッカー(四管)

S 22 11 1

神戶	1	1	兵庫
神奈川	1	1	兵庫
北海道	1	1	五畿
北海道	1	1	五畿
中国	3	1	北陸
中国	3	1	北陸
早大	3	0	金沢
早大	3	0	金沢

サッカー(四管)

S 22 11 1

神奈川	6	0	北陸
神奈川	6	0	北陸
(神奈川)	6	0	北陸
早大	6	0	北陸
早大	6	0	北陸
(早大)	6	0	北陸
早大	6	0	北陸
早大	6	0	北陸

サッカー(四管)

S 22 11 1

早大	1	0	神奈川
早大	1	0	神奈川
(早大)	1	0	神奈川
早大	1	0	神奈川
早大	1	0	神奈川
(早大)	1	0	神奈川
早大	1	0	神奈川
早大	1	0	神奈川

サッカー(四管)

S 22 11 1

早大	1	0	神奈川
早大	1	0	神奈川
(早大)	1	0	神奈川
早大	1	0	神奈川
早大	1	0	神奈川
(早大)	1	0	神奈川
早大	1	0	神奈川
早大	1	0	神奈川

關東 2 1 1 2 關西

關東のスレバーから見て前半に二  
 三点はリードして優勢するものと  
 予想されたが、現役の多い關西の  
 スピーディなペースに乗せられて  
 疲れ、まを予想外の相手バックス  
 の好守に阻まれ、日本一と期待さ  
 れた關東FWもその本領を発揮す  
 るに至らなかつた、前半1-0の  
 リードからGK金沢が關西に献上  
 した一点で勝勢を逸したといえよ  
 る、全体に關東は後半ゲームを改  
 イにしたあたりの動きを除き低調  
 で關西の善戦が光つていた(大橋)

關東 2 1 1 2 關西

關東	2	1	1	2	關西
關東	2	1	1	2	關西
(關東)	2	1	1	2	關西
關東	2	1	1	2	關西
關東	2	1	1	2	關西
(關東)	2	1	1	2	關西
關東	2	1	1	2	關西
關東	2	1	1	2	關西



十四日の記録

○サッカー	東京選手権第百	三
(一師 東大)		三
○中	東中	3-0
○明	明中	0-0
○立	立中	1-1
○中	中無	抽二
○七	中無	抽二
○一	中無	抽二
○立	立中	1-1
○全	全大	2-5
○立	立大	2-5
○M	M大	1-2
○W	W大	1-2
○W	W大	1-2
○W	W大	1-2
○W	W大	1-2
○W	W大	1-2
○W	W大	1-2

今日の記録

○中	中日	1-1
○大	大日	0-0
○中	中日	1-1
○大	大日	0-0
○中	中日	1-1
○大	大日	0-0
○中	中日	1-1
○大	大日	0-0
○中	中日	1-1
○大	大日	0-0

二十八日の記録

○中	中	2-1
○大	大	2-1
○中	中	2-1
○大	大	2-1
○中	中	2-1
○大	大	2-1
○中	中	2-1
○大	大	2-1
○中	中	2-1
○大	大	2-1

二十六日の記録

○中	中	4-2
○大	大	4-2
○中	中	4-2
○大	大	4-2
○中	中	4-2
○大	大	4-2
○中	中	4-2
○大	大	4-2
○中	中	4-2
○大	大	4-2

九日の記録

○中	中	2-1
○大	大	2-1
○中	中	2-1
○大	大	2-1
○中	中	2-1
○大	大	2-1
○中	中	2-1
○大	大	2-1
○中	中	2-1
○大	大	2-1

二日の記録

○中	中	4-1
○大	大	4-1
○中	中	4-1
○大	大	4-1
○中	中	4-1
○大	大	4-1
○中	中	4-1
○大	大	4-1
○中	中	4-1
○大	大	4-1

○中	中	1-1
○大	大	1-1
○中	中	1-1
○大	大	1-1
○中	中	1-1
○大	大	1-1
○中	中	1-1
○大	大	1-1
○中	中	1-1
○大	大	1-1

○中	中	1-1
○大	大	1-1
○中	中	1-1
○大	大	1-1
○中	中	1-1
○大	大	1-1
○中	中	1-1
○大	大	1-1
○中	中	1-1
○大	大	1-1

十六日の記録

◇サッカー 関東大学(東大)  
 千原大 2 1 0 1 勝大  
 文大 1 0 1 0 1 勝大  
 早大 2 0 1 0 1 勝大  
 早大は試合開始後2分、ナイトウイング武田1点を先取して試合を楽に迎えて攻勢をつづけ東大は時々逆襲からの速攻で早大守備陣をついたがきまらず、早大が分センター加納のクリンシュートで1点を追加した。後半早大の動きがなくなったのに伴い早大攻勢をつづけて20分ブッシュで1点をかえした。なお上は早大優勝した。(通記)  
 △全国中等学校優勝(西宮)  
 東京第一 1 1 0 0 京 都

S 22 1 11 17

三十日の記録

◇サッカー 中等大会東京地区決勝(石神井中)  
 都立 3 2 0 0 親立  
 五中 3 2 0 0 九中  
 △全国高校決勝(東大)  
 高 3 0 0 1 1 0 1 2 勝大  
 S 22 1 12 11  
 ◇サッカー 実業リーグ(石神井)  
 日 銀 2 1 1 朝日新聞

S 22 1 12 18

三十一日の記録

◇サッカー 実業リーグ(東大)  
 朝日新聞 2 1 1 1 勝大

S 22 1 12 1 22

早大優勝す 関西学生

◇サッカー  
 関西学生サッカー一位決定試合は十四日西宮球場で進行、早大が関学を破って優勝した  
 早大 4 3 1 0 1 関学  
 早大  
 田口 藤田 村岡 田村 谷 登  
 津地 寺原 田 野村 高加 藤光  
 R U H B F W  
 O P G K R  
 田川 田川 本田 村岡 田村 谷 登  
 松田 関根 杉山 堀本 柴 工 工  
 1 1 0 0 1 1 0 0 1 1 0 0 1 1 0 0

S 22 1 12 1 15

二十三日の記録

◇サッカー 全国中等学校(西宮)  
 二回戦  
 尼崎中 1 2 2 0 0 0 仙台二中  
 京大 1 3 0 0 0 0 関南中  
 松山中 1 2 0 0 0 0 富山中  
 水 工 1 1 0 0 0 0 滝々  
 △全国中等学校(西宮)  
 関本 土 堀 堀 堀 堀  
 神尾 藤田 堀 堀 堀 堀  
 山口 藤田 堀 堀 堀 堀  
 東北 藤田 堀 堀 堀 堀  
 1 3 0 1 2 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1 0

S 22 1 12 1 24

二十四日の記録

◇サッカー 全国中等学校(西宮)  
 準々決勝  
 甲府中 0 1 0 0 0 0 刈谷中  
 藤田中 2 2 0 0 0 0 小園中  
 付島中 2 2 0 0 0 0 小園中  
 尼崎中 2 2 0 0 0 0 高畑中  
 水戸工 1 1 0 0 0 0 松紅中  
 △全国中等学校(西宮)  
 北 藤田 堀 堀 堀 堀  
 神尾 藤田 堀 堀 堀 堀  
 東北 藤田 堀 堀 堀 堀  
 1 1 0 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1 0

S 22 1 12 1 25

二十五日の記録

◇サッカー 全国高校決勝(西宮)  
 東北 3 1 2 2 0 2 神戸  
 三位決定  
 山口 藤田 堀 堀 堀 堀  
 △全国中等学校(西宮)  
 藤田中 3 3 0 0 0 0 甲府中  
 付島中 2 2 0 0 0 0 甲府中  
 尼崎中 1 0 1 0 0 0 沓工  
 S 22 1 12 1 26

S 22 1 12 1 27

二十六日の記録

◇サッカー 全国中等学校(西宮)  
 藤田中 3 3 0 0 0 0 尼崎中

東日本優勝サッカー

第一回日本優勝サッカー選手権大会は二月三日から七日まで、東京(球技会館)で行われたが、参加資格は、大学以下は高等学校、専門学校、私立学校、大学予科で十二月一日まで、所定の申込書に参加費、出場料を添えて申し込む。決勝は十二月二十七日午後三時、茶社で明かされる。なお大会優勝チームには本誌からたてが贈られる。

S 22 1 12 1 5

# 昭和23年

**響よる決闘** 本社後援  
 高橋サッカークラブ 日本陸軍サ  
 ヲカークラブ 大塚大 第四日 六月 午  
 後二時から 大塚大 球場で 決闘 結果  
 行 積浪工専と東京第一師團 決  
 闘に勝ち残った  
 流沢勝

工樹 2 1001 10010 I 山梨  
 工樹 2 1001 10010 I 山梨

S 23 1 / 17

**東一師が優勝** 高橋サ  
 本社後援 第二回 日本 陸軍サ  
 ヲカークラブ 大塚大 球場で 決闘 結果  
 行 積浪工専と東京第一師團 決  
 闘に勝ち残った

東一師 3 1 0 0 0 工樹  
 東一師 3 1 0 0 0 工樹

S 23 1 / 18

十八参加チーム中 優勝はチー  
 ム・ワータを 見せた 東一師の 優  
 勝は 当然 であつた、小粒 であつ  
 たが 素質 が キビシイ した プレ  
 ー、むらの ない コンビ は 大会 第  
 一の 任務 で チーム の 勝利 目標  
 を 物 につ けて いた

**朝日サッカークラブ 第一日**  
 大塚大 球場 復讐 朝日 招待 サッカ  
 ー大会 第二日 午後二時から 西  
 宮 球場 で 東京 大 対 東京 大 章  
 大 対 東京 大 の 試合 見 行

東京大 1 3 0 0 0 東京大  
 東京大 1 3 0 0 0 東京大

S 23 1 / 11

大塚大 3 2 1 2 3 東京大  
 大塚大 3 2 1 2 3 東京大

**朝日サッカークラブ 第二日**  
 大塚大 球場 復讐 朝日 招待 サッカ  
 ー大会 第二日 午後二時から 西  
 宮 球場 で 東京 大 対 東京 大 章  
 大 対 東京 大 の 試合 見 行

東京大 2 0 0 0 0 東京大  
 東京大 2 0 0 0 0 東京大

S 23 1 / 12

共 同 立 門 會、日 本 陸 軍 第 三 師 團  
 山、高 橋 サ ヲカ ー ク ラ ブ の 協 賛、朝 日  
 報 の 協 賛、二 時 開 演、三 時 開 演  
 大 塚 大 対 日 本 陸 軍 第 三 師 團  
 日 本 陸 軍 第 三 師 團 第 一 生 徒 會  
 大 塚 大 対 日 本 陸 軍 第 三 師 團  
 日 本 陸 軍 第 三 師 團 第 一 生 徒 會  
 大 塚 大 対 日 本 陸 軍 第 三 師 團  
 日 本 陸 軍 第 三 師 團 第 一 生 徒 會

**朝日サッカークラブ 第三日**  
 大塚大 球場 復讐 朝日 招待 サッカ  
 ー大会 第三日 午後二時から 西  
 宮 球場 で 東京 大 対 東京 大 章  
 大 対 東京 大 の 試合 見 行

東京大 2 0 0 0 0 東京大  
 東京大 2 0 0 0 0 東京大

S 23 1 / 13

大塚大 2 1 1 2 3 東京大  
 大塚大 2 1 1 2 3 東京大

共 同 立 門 會、日 本 陸 軍 第 三 師 團  
 山、高 橋 サ ヲカ ー ク ラ ブ の 協 賛、朝 日  
 報 の 協 賛、二 時 開 演、三 時 開 演  
 大 塚 大 対 日 本 陸 軍 第 三 師 團  
 日 本 陸 軍 第 三 師 團 第 一 生 徒 會  
 大 塚 大 対 日 本 陸 軍 第 三 師 團  
 日 本 陸 軍 第 三 師 團 第 一 生 徒 會  
 大 塚 大 対 日 本 陸 軍 第 三 師 團  
 日 本 陸 軍 第 三 師 團 第 一 生 徒 會

S 23 1 / 14

共 同 立 門 會、日 本 陸 軍 第 三 師 團  
 山、高 橋 サ ヲカ ー ク ラ ブ の 協 賛、朝 日  
 報 の 協 賛、二 時 開 演、三 時 開 演  
 大 塚 大 対 日 本 陸 軍 第 三 師 團  
 日 本 陸 軍 第 三 師 團 第 一 生 徒 會  
 大 塚 大 対 日 本 陸 軍 第 三 師 團  
 日 本 陸 軍 第 三 師 團 第 一 生 徒 會  
 大 塚 大 対 日 本 陸 軍 第 三 師 團  
 日 本 陸 軍 第 三 師 團 第 一 生 徒 會

**朝日サッカークラブ 第四日**  
 大塚大 球場 復讐 朝日 招待 サッカ  
 ー大会 第四日 午後二時から 西  
 宮 球場 で 東京 大 対 東京 大 章  
 大 対 東京 大 の 試合 見 行

東京大 2 0 0 0 0 東京大  
 東京大 2 0 0 0 0 東京大

S 23 1 / 15

大塚大 2 1 1 2 3 東京大  
 大塚大 2 1 1 2 3 東京大

共 同 立 門 會、日 本 陸 軍 第 三 師 團  
 山、高 橋 サ ヲカ ー ク ラ ブ の 協 賛、朝 日  
 報 の 協 賛、二 時 開 演、三 時 開 演  
 大 塚 大 対 日 本 陸 軍 第 三 師 團  
 日 本 陸 軍 第 三 師 團 第 一 生 徒 會  
 大 塚 大 対 日 本 陸 軍 第 三 師 團  
 日 本 陸 軍 第 三 師 團 第 一 生 徒 會  
 大 塚 大 対 日 本 陸 軍 第 三 師 團  
 日 本 陸 軍 第 三 師 團 第 一 生 徒 會

S 23 1 / 16

共 同 立 門 會、日 本 陸 軍 第 三 師 團  
 山、高 橋 サ ヲカ ー ク ラ ブ の 協 賛、朝 日  
 報 の 協 賛、二 時 開 演、三 時 開 演  
 大 塚 大 対 日 本 陸 軍 第 三 師 團  
 日 本 陸 軍 第 三 師 團 第 一 生 徒 會  
 大 塚 大 対 日 本 陸 軍 第 三 師 團  
 日 本 陸 軍 第 三 師 團 第 一 生 徒 會  
 大 塚 大 対 日 本 陸 軍 第 三 師 團  
 日 本 陸 軍 第 三 師 團 第 一 生 徒 會



# 昭和24年

サッカー 日本選手権大会第一日(前六)

△第一回戦

千歳師 2 0 1 0 2 成 隊

山 梨 6 4 1 0 0 0 郡 高

△第二回戦

明 季 不 取 勝 聖 米 師

明 季 4 1 1 2 3 立 本 季

S 24 / 1 / 3

三日の記録

サッカー 日本選手権大会 大会百戦大

▽第一回

東 二 師 12 4 0 0 0 千 歳 師

一 高 2 1 2 1 1 2 聖 米 師

東 師 8 0 8 0 0 0 聖 米 師

早 高 1 0 0 0 0 0 工 山 師

▽第二回戦

東 京 大 4 0 0 0 0 0 京 都 知 川

大 阪 油 田 6 1 0 0 0 0 聖 米 師

S 24 / 1 / 4

サッカー 日本選手権大会 大会百戦大

東 二 師 8 3 5 0 0 0 山 梨 師

明 季 4 3 1 0 1 1 一 高

早 高 2 2 0 0 1 1 中 本 季

早 高 2 2 0 0 0 0 聖 米 師

△第三回戦 大会百戦大

三 北 3 0 1 1 0 0 聖 米 師

三 北 3 0 1 1 0 0 聖 米 師

三 北 3 0 1 1 0 0 聖 米 師

S 24 - 1 - 5

早高優勝す

△日本選手権サッカー

本大会最終日早高対東二師の決勝戦は六日午後一時から聖米球場で進行、観客の七分は昨年の優勝早稲一師はさすがに気味の早高陣を任し西ブル・パンツ隊の2ゴイ

ルを得て優勢だったが、後半は立直を各陣に用いられ好調の早高陣田にうま、打ちのシフトを許して惨敗した(大勝)

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

二試合が引分け

△大阪第一回戦

本大会最終日早高対東二師の決勝戦は六日午後一時から聖米球場で進行、観客の七分は昨年の優勝早稲一師はさすがに気味の早高陣を任し西ブル・パンツ隊の2ゴイ

ルを得て優勢だったが、後半は立直を各陣に用いられ好調の早高陣田にうま、打ちのシフトを許して惨敗した(大勝)

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

文、優勝す

△大阪第一回戦

本大会最終日早高対東二師の決勝戦は六日午後一時から聖米球場で進行、観客の七分は昨年の優勝早稲一師はさすがに気味の早高陣を任し西ブル・パンツ隊の2ゴイ

ルを得て優勢だったが、後半は立直を各陣に用いられ好調の早高陣田にうま、打ちのシフトを許して惨敗した(大勝)

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

早 高 6 1 0 2 2 東 二 師

S 24 - 1 - 5

S 24 / 1 / 8

S 24 / 1 / 7

S 24 / 1 / 9

S 24 / 1 / 10

S 24 / 1 / 31

六日の記録

サッカー 日本選手権大会 大会百戦大

早 大 7 5 2 0 0 0 明 大

早 大 6 0 0 0 0 0 交 大

早 大 6 0 0 0 0 0 交 大

早 大 6 0 0 0 0 0 交 大

S 24 / 1 / 10

早 大 12 5 0 0 0 0 立 大

早 大 8 0 0 0 0 0 明 大

早 大 8 0 0 0 0 0 明 大

早 大 8 0 0 0 0 0 明 大

早 大 8 0 0 0 0 0 明 大

早 大 8 0 0 0 0 0 明 大

早 大 8 0 0 0 0 0 明 大

早 大 8 0 0 0 0 0 明 大

早 大 8 0 0 0 0 0 明 大

早 大 8 0 0 0 0 0 明 大



サッカー 関西代戦

「大阪朝」関西サッカー協会は、三月十一日東京行われ、大阪朝新聞の関西代戦の模様を掲載した。

○大阪朝新聞の関西代戦の模様を掲載した。  
 ○大阪朝新聞の関西代戦の模様を掲載した。  
 ○大阪朝新聞の関西代戦の模様を掲載した。

○大阪朝新聞の関西代戦の模様を掲載した。  
 ○大阪朝新聞の関西代戦の模様を掲載した。  
 ○大阪朝新聞の関西代戦の模様を掲載した。

十三日の記録

○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。  
 ○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。  
 ○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。

二十日の記録

○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。  
 ○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。  
 ○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。

二十七日の記録

○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。  
 ○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。  
 ○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。

○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。  
 ○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。  
 ○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。

○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。  
 ○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。  
 ○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。

○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。  
 ○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。  
 ○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。

学生は関西が快勝

関西代戦の模様を掲載した。  
 関西代戦の模様を掲載した。  
 関西代戦の模様を掲載した。

○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。  
 ○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。  
 ○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。

○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。  
 ○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。  
 ○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。

○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。  
 ○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。  
 ○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。

○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。  
 ○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。  
 ○サッカー 関西代戦の模様を掲載した。





# 昭和25年

S25-2-6

大東大	早大	立大	東大	関大	神大	京大	神大	関大	立大	早大	大東大
教早	本口	稲岡	田形	松山	田南	三高	木田	木田	木田	木田	木田
教早	本口	稲岡	田形	松山	田南	三高	木田	木田	木田	木田	木田
3	5	17									

【東軍】  
東軍 1 10 1 0 0 0 西軍

【西軍】

S25-1-9

全東大	3	1	2	1	0	1	全關学
全東大	2	0	2	1	0	1	全關学

東大、早大勝つ  
朝日招待サッカー

【大阪発】朝日招待サッカー第二日は八日西宮球場で挙行、全東大は全神戸大に優勝、全東大と全關学は好試合を演じ全東大が辛勝した

東軍が辛勝 学生選抜対抗サッカー

カー戦は五日後一時から西宮球場で挙行、1-0で東軍が辛勝した

二十五日の記録

◇サッカー(横浜)  
W M W 2-1 Y O A C  
▽関東OBリーグ(東大)  
東大 L B 3-0 法反ク  
S 25. 2. 26

五日の記録

◇サッカー 關東大学OBリーグ 最終日(東大)  
東 隊 2 2 0 1 1 B R B  
▽順位 關東3勝1分2敗 B R B  
3勝1敗 聖ポール3勝1敗 西松全2勝1分1敗 W M W 2勝2敗 法友 東大 L B 3勝白  
S 25. 3. 6

十八日の記録

◇サッカー(東大)  
代東 表東 4 2 2 0 0 東大  
S 25. 3. 19

## 英チーム快勝

關東学生サッカー戦  
關東初の国際サッカー戦、英母ユニオン対關東学生選抜隊の試合は二十日後三時半から後楽園球場で挙行、雨でどよんこのフィールドで好技は見られなかつたが、ユニオンは鋭いシュート、見事なボールさばき、まをまつたチームワーク、巧みなフットボールで後半学生選抜の追撃を退け8-2で快勝した

東早	明	立	東	関	神	京	神	関	立	早	大東
本口	山	山	田	田	田	田	田	田	田	田	田
本口	山	山	田	田	田	田	田	田	田	田	田
4	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1

S 25. 4. 21

# 慶を追う早、東、立

## 15日 開幕 関東大学サッカー

関東大学サッカー・リーグは十五日から後援競技場で早中戦を皮切りに開幕する。今シーズン  
は二部から昇格した中大を入れて早、慶、東、立、敷、中の六校で優勝が争われるが、戦後五年OB  
選手をしのぐほど向上した学生選手により充実した試合が期待される。

慶應義塾のトップは関大でこれを  
追う早、東、立の三位争いが興味  
を呼んでいる。

関大イレブンはこのといた主  
カブレイヤはいないがバラン  
スのとれたチームで快足のフォ  
アワーズはリーグ随一といえよ  
う。今までまわったヘッドイ  
ングが上選したことは強味で、  
もの強いダッシュをもつ竹崎  
眞松のウイング。ブレイや円熟  
味を留した菅原、両角、早川ら  
の爽快なブレイは今シーズンの  
見ものだろう。ハーフは無難だ  
がダブルバックに少し弱み  
が見られる。

昨年リーグと東西学生対抗の王座  
を占めた早大は高橋、田村、岡田  
岸本の四中心選手を失ったのは痛  
手で、バックは名手畑口を中心に  
まどまどしているがFWが劣る。F  
Wのホープは松永一八で彼を生か

すが早大の問題だ。慶大と比べ  
ては反対にバックのチームで得点  
力は落ちる。

東大も昨年のチームから海老  
原、丸山、大島の余ハーフ陣と  
FW松平が抜けて弱体化してい  
る。エース大塚(LI)を中心  
としたFWラインには岡野、菊  
井、中條らの新人が出るがどれ

ほどの得点力を示すか早大のF  
Wラインと共に注目されること  
る。こゝもバックがかなりまど  
まどしており、早大と同形のチ  
ームであるが、傳統のネバリ陣さ  
が危惧されるは案外好試合を見  
せよう。

昨年二部から上つて一躍二位を占  
めたタイクホース立大はCH柳原  
を失ったが、二年目の大飛躍  
をねらってハリきつている。FW  
には堅実な竹村、竹下の両ウイン  
グに春日部高の名コンビ高林、鈴  
木潔の新人が起用されているのが  
異色であるが、なんといつても強  
味はCH鈴木吉の健在な点で、相  
変らずのエネルギッシュなブレイ  
で広範囲のカバーリングを見せよ  
う。関大と似た動きの多い攻撃チ  
ームで早慶東に上つてはうるさい  
チームである。(大橋)

# 東、立互角の力戦 関東大学 サッカー

関東大学サッカー・リーグは今週  
は第二週に入つて二十二日午後一  
時から後援競技場で関大対教育  
大、東大対立大の二試合が行われ  
る。

関大は関大の優勝が予想され  
関大ではないが、東立戦は両者  
互角で接戦が予想される。こと  
にこの結果いかんではビッグ  
スリーに懸れるか否かの大事な  
一戦だけに両チームの闘争を随  
けての力戦が期待される。

東大の新陣容は海老原、丸山、大  
島の余ハーフ陣とFWから松平G  
立大の小谷の方が上だが、バック

Kの本気が抜けて、FWラインの  
頼みはLI大塚一人でこの大塚を  
どう生かすかが東大得点力のキ  
・ポイントとなる。大塚を支援す  
る者としてはW秋山は無難だが  
センターに新人岡野(小石川高出)  
その右に菊井、中條と並べた左陣  
は未経験者ぞろいだけに不安だ。  
片や立大は関大に次ぐ竹村、竹下  
の名ウイングとLIの星は無難  
だがセンターとLIに高林、鈴木  
潔(兩人共春日部高出)の二新人  
の配置に難色がある。キーパーは  
立大の小谷の方が上だが、バック

又は東大にやゝ有利と見られる。  
恐らく立大としてはハリキリ。  
ホーイのH鈴木吉(全日本代  
表選手)をFWに上げて得点力  
の強化を図るだろう。そこへく  
ると東大のエース大塚は攻撃面  
にインシアチウをとれないだけ  
に向サイドの交換がゆるわなけ  
れば東大の得点力は期待とすべ  
る。走力にすぐれた動きの多い  
立大を傳統のネバリ陣の東大チ  
ームがどう運ぶか興味ある一  
戦だ。

昨年立大がリーグで快勝して二  
位へ躍進の好成績をつかんだが果  
して東大の戦況なるか。(大塚)

S 25. 10. 20

昨年立大がリーグで快勝して二  
位へ躍進の好成績をつかんだが果  
して東大の戦況なるか。(大塚)

### 慶、立勝つ

関東大学サッカーリーグ第2回は二十日午後二時から後援園地で開戦、東立の二試合を進行優勝を予想された慶大はFW小崎で苦戦した。東立戦はスピーディでキックの巧い立大が東大を圧倒、優勝候補となった。(大橋)

慶大 1 0 0 0 敵大

立大 4 2 0 0 敵大

村三内 永松上スハ大區高 GK FB HB FW CK FK 3 1 2

田井 田木 沢岡村 島川原角松 GK FB HB FW CK FK 0 4 17

立大 4 2 0 0 敵大

立大 4 2 0 0 敵大

立大 4 2 0 0 敵大

立大 4 2 0 0 敵大

立大 4 2 0 0 敵大

立大 4 2 0 0 敵大

立大 4 2 0 0 敵大

### 早教、慶東引分け

関東大学サッカーリーグ第五回は五日午前十一時から後援園地で早教、中立、慶東の三試合を進行、優勝候補の早教が敵東の苦戦にきり引分に持ち込まれる苦戦を受けた。

早大 3 2 1 3 敵大

早大 3 2 1 3 敵大

早大 3 2 1 3 敵大

早大 3 2 1 3 敵大

早大 3 2 1 3 敵大

早大 3 2 1 3 敵大

早大 3 2 1 3 敵大

早大 3 2 1 3 敵大

早大 3 2 1 3 敵大

早大 3 2 1 3 敵大

早大 3 2 1 3 敵大

早大 3 2 1 3 敵大

早大 3 2 1 3 敵大

### 十二日の記録

早大 3 2 1 3 敵大  
中 大 2 1 1 1 敵大  
早 大 3 2 1 3 敵大

S 25 11 13

### 慶、立を破る

関東大学サッカーリーグ敵大対中大、慶大対立大、東大対早大の三試合は十九日午前七時半から武蔵野サッカー場で進行。

慶大 2 0 2 0 敵大  
早大 0 0 0 0 敵大

S 25 11 20

### 早大優勝す

関東大学サッカー

関東大学サッカーリーグ合季の取分け立大2勝3敗、東大1勝3敗を決する早大戦は二十六日午後二時半から武蔵野球場で東、敵戦に引つぎ、急行、予想に反し、早大FW振わず前半早に8ゴールを許し勝敗を決し、後半反発してその第一点に追ったがおよぼす3-2で敗れ、惜しくも一位を逸した。

早大 1 0 0 0 敵大  
早大 3 0 2 0 敵大

S 25 11 27

立大 4 2 0 0 敵大  
早大 0 0 0 0 敵大

早大 0 0 0 0 敵大

S 25 11 6

# 早大FWの活躍目ざまし

## 地を抜く村岡(教大)の好技

### サッカー リーグ戦評

十月半ばから後半、闘争もたらしめたものには、W農田、團塊、駒形および武蔵野で行われた今シーズンの関東大学サッカーリーグ戦は、二十六日の早大戦で閉幕、早大の連勝に終わった。

予想を裏切り駒形大を破って優勝した早大は早立戦以来シリ上りの好調を見せたのが幸し、もので、一位決定戦となった対慶大戦では、Wが今シーズン第一の好調を見せて慶大を降した。チームはO、松永、O、堀口がクンと光り、この二人を中心としたFWとバックスが伝統のフアイトを対慶大の大事な試合に発揮出来た点に開戦が輝いた。シーズン後半の好

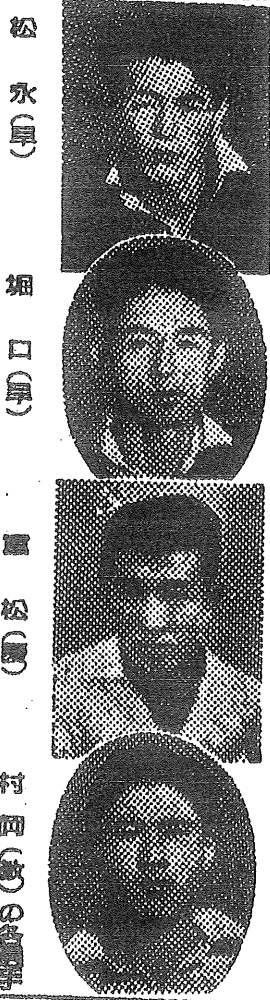
調をもち、相手手を研究した作戦が必要だと指摘した。

早大は大逆のワン・マン・チームながら今季開幕早、慶に引分け二部リーグを免れたのはやはり名門の傳統を守ったチームの闘志によったところである。勝戦したといえよう。大逆に次いでO、H海老

いう故敵者編出で、ベスト・メンバーを出し得ず、六分の勝者味を予想されながら日ごの実力を出し得ず敗した。対早大戦で見られた慶大フアイトの欠点として、さきの頃、立を相手に示された、後半の陣味を余りに頼り過ぎ前半をおろそかにした観があった。優勝を目前にして成功しなかった慶大

開戦前は編成難を傳えられ、あるいは二部リーグと思われた教大の三立陣は意外であった。早と引分け、立、中を破ってダイクホース、立大のお株を奪った感のある教大は、これまた中心選手には欠けていたが、全員の基本技術のキック・エンド・ラッシュを裏板として精戦したところ、彼らの努力が報われたのだ。特にこのチ

シーズン第一戦に早大に圧倒的に勝った立大が、第二戦の対教大に惨敗早、慶にも敗れてわずか最下位の中大に二度目の白星を得たのはまったく予想外であった。結局H、鈴木(吉)のワン・マン・チームに終わったわけだが、体力に恵まれ走力に秀でた立大の不振は田舎の中学放子チームと同様然策のないのが欠点で、大学のしかも一都チーム



※右下からつづく

ではもっと相手手を研究した作戦が必要だと指摘した。

早大は大逆のワン・マン・チームながら今季開幕早、慶に引分け二部リーグを免れたのはやはり名門の傳統を守ったチームの闘志によったところである。勝戦したといえよう。大逆に次いでO、H海老

原、O、吉田が光り将来を期待される。

開戦前は編成難を傳えられ、あるいは二部リーグと思われた教大の三立陣は意外であった。早と引分け、立、中を破ってダイクホース、立大のお株を奪った感のある教大は、これまた中心選手には欠けていたが、全員の基本技術のキック・エンド・ラッシュを裏板として精戦したところ、彼らの努力が報われたのだ。特にこのチ

ラがあり、その目その目でチーム力が衰えていたことをた。これからは昨年よりや、進歩は認められたが戦前の学生サッカーよりはまた格別。国際関係のなかで今年、学生選手の大ものが期待されるのけ切であり、このためにも精進、研究を第一にして、実力をつけてきたチ

ームの出現を祈って止まない。(大橋)

※左へつづく







**全日本サッカー 音**

全日本選手権組合せ 本音  
 ヲカノ選手権関東予選は二十一日から十五日(人参加)で、東伏見、武蔵野両球場で行われるが、十七日夜本社合宿室で開かれた主催会談の結果、組合せは次の如くであった。

△二回戦試合対慶大二軍、中大 A 対大泉ク、東大 LB 対第一生命、浦和対全日立(以上東伏見)、東大対 W MW 二軍、立大対明大、中大 B 対 B B 二軍、数本不戦勝(以上武蔵野)  
 △二回戦四月二十九日(以下球場は武蔵野)▽準決勝五月六日▽決勝五月十三日。

**サッカー 全日本選手権予選々決勝(武蔵野)**

中大 A 3-1 慶大 B  
 東大 LB 2-0 浦和ク  
 全立大 8-5 東大 B  
 数大 3-0 中大 B

S 26. 4. 30

**サッカー 全日本選手権関東予選決勝(武蔵野)**

全立大 4-1 2 東大 LB  
 △同関西予選決勝(西宮)  
 大阪ク 6-2 京都ク

S 26. 5. 14

**五輪候補決る**

**サッカー**

日本蹴球協会は、千日第一、次サッカー・オリンピック候補選手を次の如く発表した。なお第一次強化合宿練習を八月五日から十二日まで信州松本県菅野球場で行う。  
 ◇ヘッドコーチ竹腰重丸▽コーチ川本泰三、二宮洋一◇候補選手 GK 津田(慶大)中垣内(東文出)渡辺(国学院出)▽バックス岡田(早出)松永(東文出)杉本(関学出)富田(早出)有馬(東大出)鈴木(立)田村(早出)山形(関大出)岩沼(仙台)鈴木(慶)小田島(早)宮崎(早)阿江(神大)▽FW 藤田(関学出)賀川太(神大)岩谷(早出)加納(早出)和田(関大出)鹿井(仙台)木村(関学)大益(東大出)則武(神大出)早川(慶)重松(慶)松永(早出)柴田(関学)長沼(関学)竹村(立)

S 26. 7. 21

**早、中大を破る**

**関東大学サッカー**

関東大学サッカー・リーグ第一日 早大対中大戦は七日午後三時から武蔵野球場で進行、早大は七分の球をキープし中大を圧したが、右サイドが劣り、わずかにレイバ井が独りで二点をあげて早大を唯一の勝ちに導いた。名インナー鹿井を入れて期待された中大はライオン共自大に劣り、タイムアップ一分前 LF 原本がシュートして零敗を免れた凡戦だった。(大橋)

早大 3-0 1 中大

S 26. 10. 8

**サッカーは慶大勝つ**

関東大学サッカーリーグ第二日 慶大対中大の試合は十二日午後三時から武蔵野球場で進行、3-1 で慶大が快勝した。

慶大 3-1 2 1 中大  
 法大 0-1 0 1 中大

S 26. 10. 14

**サッカー 関東大学リーグ(神宮)**

数大 4-2 2 1 東大  
 立大 7-0 7 0 1 中央  
 慶大 6-4 2 0 2 明大  
 △実業団リーグ(東京海上)  
 東京海上 3-0 3 0 0 0 第一生命

S 26. 10. 21

**サッカー 関東大学リーグ(武蔵野)**

明大 4-3 1 1 2 0 2 立大

S 26. 10. 28

**中大、早大勝つ**

**関東大学サッカー**

関東大学サッカー・リーグは二十日午後二時から神宮競技場で東大対中大、早大対東大の二試合を進行、中大は東大を破ってシーズン初の白星をあげ、また早大は数大に辛勝した。

中大 5-4 1 1 2 東大  
 早大 2-0 0 1 1 数大

S 26. 10. 30

**サッカーは明、東大**

**関東大学サッカー・リーグ第三日**

は十四日午後二時から東大球場で早明、東立の二試合を進行、二試合とも予想を裏切つて明、東がそれぞれ勝った。

明大 3-2 1 0 0 0 早大  
 東大 2-1 1 0 1 1 立大

S 26. 10. 15

二部から上って一部初登場の明大は、どろんこの悪フィールドに即したキックアンドラッシュで大分のキープ力を発揮、見事強敵早大を倒した。特に新人 OF 熊谷(北高出)は早大 OF 山崎の消極的な守りに恵まれ独り三ゴールをあげ初陣をかざった。早大のシ・ト・パス戦法は効を奏せず後半に少し好機をゆえただけで全然勝味はなかった。結局はキッキングとランニングに優れた明大の勝ちは当然だった。  
 足跡でピカ一鈴木吉吉を使えない立大は意外な東大の個闘に会い苦戦、後半高林が一点を報いたのみで惜敗した。フィールドの悪条件に両軍パス・ワーク意とならず、先取点をあげたサイドがよく試合を制する結果となった。(大橋)

**サッカーチーム来日**

**スウェーデンから**

スウェーデン・サッカー選手団二十四名の一行は日本蹴球協会の招待(本社後援)により十一月下旬来日、約一週間の予定で日本サッカー・チームと対戦する。来日選手団はスウェーデンで有名なヘルシングボリー・クラブで、同クラブ員からは一九四八年ロンドン・オリンピックに優勝したメンバーも出ている。日本での試合予定は次のとおり。

▽11月23日対全関西(京都西京)  
 極)▽25日対全日本(西宮)▽28日対全九州(八幡)▽12月1日対全慶大(場所未定、東京付近)▽2日対全日本(神宮)

**十四日にサッカー祭**

サッカー界の年中行事である第三回サッカー祭は十四日神宮サッカー場で行われるが組合せは次の通り決った。

▽高校の部(十時)北園高対教大付風高▽社会人の部(十一時半)三共本社対第一生命▽入場式(十二時半)▽大学リーグ(一時半)早大対明大、立大対東大

S 26. 10. 12

**明大、中大に勝つ**

**関東大学サッカー**

関東大学サッカー・リーグ明大対中大の試合は十日午後二時から武蔵野球場で進行、さきに強敵東大を倒した中大と今シーズン二部からあがつて第二位の好調にある明大の対戦で興味を惹いた。

明大 2-1 1 0 0 0 中大

S 26. 11. 11

# 早慶、立て王座争い

## 関東大学サッカー予想

関東大学サッカー・リーグは七日から武蔵野球場、ビッグ・ゲームは神宮競技場で行われる。今シーズンからは大学チームが多いため、部数を増やす従来の六校制を七校制とし試合数を多くして選手への技術向上をねらう。昨年はしり上りの好調を示した早大が強敵慶大を抑えて優勝したが、チームに変動があり、昨年のような強さを持っていない。むしろ今季はチームに異動の多い慶大、立大に拵があると思われる。結局王座は早慶立の争いで、教大、東大がどこまでこのビッグ・スリーを追うかにも興味がある。

◇慶大 C F菅原の抜けたあとに新人岩淵(宇都宮高)を起用、馬力のある鈴木がL I、足の故障で出られないハーフ植村の穴へL I両角がまわるほかは姿はない。七大学一の名ワインガー竹島、重松を持ちそのFWラインは最強と見られ対早大ナイター戦に思わぬ敗北を喫して以来鳴かず飛ばすで猛練習を積んでいるだけに十三日の対中大でのデビューは楽しみだ。中心選手はいないのが欠点だが粒ぞろいでコンビのよい点もずば抜けており、対早大戦にますますかなければ優勝は保証されよう。弱点はキーパー。

◇立大 F B沢、H B新井が出たきりで変動は少い。さきの都国体予選でこのチームの中心R H鈴木(吉)の欠場で、火の消えたようなプレーをしていたが、鈴木も足も回復したので去年同様うるさいチームとならう。得意のキック・アンド・ラッシュも板についたが、まだゴール前の決定力に欠けている。

◇早大 アジア大会選手松永

掘口を失ったのは痛手だ。強力なバック陣に対し、FWは慶、立よりも落ち、さきの関学定期戦にも一点もとれず惨敗している。頼みのセンター・スリーも不調で、見られるのはL I伯井のみ。FWは両翼の出来如何がカギとならうが余程努力の払われない限り連勝は困難だろう。

◇教大 昨年三位のこのチームからは名物男R Wスジョン、C F大淵と二人もエースをなくしたのは大きい。この穴には山中、深沢の二人が起用されかなりまとまっております。国体予選では立大と善戦引分けている。リーグ一の名キーパー村岡を擁し、バックスは充実しているのに反し得点能力は低い。伝統の団結力を生かせば、去年同様タークホースぶりを発揮し得よう。

◇東大 FWからエース大森を失い、チーム力は昨年よりずっと落ちる。こゝもバック陣はおとろないが、FWには人がいない。たゞ伝統のねばりがどこまで上位チームを庄するか。

◇明大 昨年二部で53-0とい

う無敗記録を立て昇格したが、市川、宮坂がFWラインから欠け、こゝもFWが弱体。だがC F能勢(浜松一中)小柳(志大中)新井(不動岡)は新人の活躍が見もの。

◇中大 仙台クラブの全日本級選手鹿井を入れてFWは強化されたが反対にバック陣は落ちていく。しかしFWラインでは鹿井とC F吉崎が見られるので、鹿井のワン・マン・チームとなる危険が濃い。(大橋)

S 26 . 10 . 3

# 慶、勝ち続く

## 関東大学 サッカー 早も立に快勝

関東大学サッカー・リーグ慶大対教大、早大対立大の二試合は十二日午後零時三十分から小雨の神宮競技場で挙行、無敗の慶大は優勝候補の實績を示し教大を6-0で下し、またシーステン当初不調の昨年の王者早大はようやく立直りを見せ強敵立大に4-0で快勝した。

慶大 6-0 教大  
4-0-0

○：慶大のままとつた、かつスピーディーなFWは教大を一方的に押し倒して優勝した。前半は竹島のゴキールに過ぎなかったが、後半は教大ゴールを左右に連続ゆきより18分目川にゴールから始まり、22分にはLH両角のきれいな40ヤード・ロング・シュートもきまり会心のFWアレイを見せ堂々押しきった。教大は前半32分から5分ばかり慶大ゴールをおびやかしたが宮原、二柳のシュートは決定力を欠いて空しく同点にする好機を逸した。その後は慶大FWのスピーディーなパス・ワークに圧倒され防戦に追われて惨敗した。

早大 4-0 立大  
3-1-0

○：早立共に上位に残れるかどうかの大勝負な二戦で、両軍よくオーブン戦に出、両ゴール間を激しく往來して接戦を展開した。しかし

F加納きめて4-0と離した。○：立大はゴール・ゲッター竹村の欠場は大きく響き、鈴木吉の活躍も縦パスのみの単調な戦法で、特にゴール前の決定力に鋭さなく零敗に終わった。

○：早大は立大より各ラインと、や、優り時に広いカバーリングと鋭い寄せにチャンスをつくった小田原の健闘が光っていた。これでRWに人を得れば優勝をねらう慶大に強敵となり得よう。(大橋)

### 廿二日に羽田着

日本蹴球協会への入電によれば、来日するスウェーデンのヘルシングボリーユ・サッカー・チームは十日ストックホルムを出発、空路極東遠征の途に上ったが、途中香港に立ち寄り十四日から二十一日まで滞在、三試合を行ない、二十一日午後香港発のQAT機で二十日早朝羽田に到着する。

(教大)

岡浦 田木 矢柳 羽沢 島原	5 7 13	城原 本吉 上村 林 塚下	3 3 8 0
村二 小中 松上 一 広 深水 昌	CKFKK	木 星 崎	
GK FB HB FW	CKFKK	木 星 崎	
CF GK	CF GK	木 星 崎	
9 8 13	9 8 13	木 星 崎	
木田 竹沢 岡角 島川 淵本 松	GK FB HB FW	三 賢 渡 富 山	6 9 19 1
井 井	GK FB HB FW	岡 田	
茂士 長 黒 松 岡 竹 早 岩 錦 重	GK FB HB FW	桑 小 加 伯 中	
(慶大)		(早大)	

### 中大、教育大を破る

関東大学サッカー・リーグ中大対教大戦は十七日午後二時三十分から武蔵野球場で挙行、2-0で中大が勝った。

中大 2-0 教大  
2-0-0

### 早、優勝つ

関東大学サッカー・リーグ早大対東大、慶大対立大の二試合は十九日午後零時半から神宮競技場で挙行、早慶とも接戦のち勝った。

早大 4-0 東大  
4-0-0

### ◇サッカー 関東大学リーグ (武蔵野)

東大 2-1 明大  
2-1-1

S 26 . 11 . 25

ヨソホテルに小休後同日午後の「はと」で京都に向い、翌二十三日同市西京橋競技場で全関西と第一戦を交える。

なお十一月一日大宮で行われる対全慶大と二日神戸での対全日本の二試合の前売切符(六日は五百円、百五十円、百円、神宮は五百円、二百円、二百円の各三種)は銀座四丁目自來本運動具店、プレイカイト、日本橋赤木屋、神田小川町美津濃、新宿駅西口前フサイ体協内協会事務所、本社受付で売出中。

小中学生の団体割引は学校長の申出による二十名までを一単位とし、小学生は一単位六百円、中学生は千円、引率者は一名に限って無料として来る二十日締切で蹴球協会が直接取扱っている。

S 26 . 11 . 13

S 26 - 11 - 13

S 26 . 11 . 18

S 26 . 11 . 20



# 1-1-0 早慶を破る

## 首位決定戦へ持込む

### 関東大学 サッカー

関東大学サッカー  
1.リーグ戦最  
終日は九日午後  
零時半から神宮  
競技場で立大対  
慶大、早大対慶  
大の二試合を奉  
行。王座決定の早慶戦はシーズン  
最後をかきめる熱戦を演じたが、タ  
イムアップ六分前早大はCF加納  
が決勝の一点をあげ、1-0で勝つ  
た。これで早慶両チームは5勝1  
敗の同成績となり両チームで近く  
首位決定戦を行うことになった。

早大 1-0-0 慶大

(慶大)

木田 沢岡 角島 川淵 木松  
井 井  
茂土 長瀬 松岡 竹内 岩崎 重  
GK FB HB FW  
井本 辺 崎 路 井 田 尾 納 井 野  
三 菅 渡 宮 山 長 泰 小 加 伯 中  
(早大)

一部順位 ●早大、慶大 5勝1敗  
●明大 4勝1敗1分 ●立大、中大  
2勝4敗 ●東大 1勝4敗1分 ●教  
大 1勝5敗

【評】快風無風の好コンディション



後半34分慶大CF岩淵、早大ゴール左前に殺到した三井にさばかれ好機を逸す。左端は早大LB渡辺

シ下に慶大のキックオフで開始  
慶大FWが鋭い出足と巧みなパス  
ワークを見せれば、早大FWも  
鋭いな寄せで対抗、両ゴールを激  
しく往來する熱戦を展開したが、  
回れもゴール前の決定力に欠け無  
得点。後半に入るも両軍旧仲の懸  
勢は変わらず、無得点引分けに終  
ると見えたが、ようやく39分自陣  
でフリーキックの球をクリアし  
た早大は逆襲に移り、RW桑田の  
右への大きなクロスパスをLI伯  
井慶大陣前右でこれを受け、中央  
へ返せば、CF加納はキーパーの  
出過ぎで空となったゴールへ身体  
ごと躍り込んでブツッ、ここに  
早大決勝の一点をもたらした。

引分けても優勝出来る慶大陣の  
ゆるみを働いた早大FWの個個  
はよく伝統のわばりを発揮した  
ものと賞賛される。FWの個個  
と共に終始強力な慶大FWの両  
とそ、いたジョーティングを好  
防した早大バックスの奮戦も光  
っていた。

中盤の動きにも早大を圧していた  
慶大FWが早大ゴールを一回も攻  
略し得なかつたのはジョーティン  
グを早めたことで、今二、三歩持  
つて放てばもつと効果的だったろ  
う。さらに両チームともコーナー  
・キックに慎重さが欠けていたの  
が目立ち、一点の先取が試合を大  
きく支配するだけに考慮を要しよ  
う。両軍とも80分間一瞬もゆるみ  
なく攻防の限りを尽しシーズン最  
後をかき取るにあつた。好試合で  
あつた。(大備)

# 早大輝く三連勝

## サッカー首位決定戦 慶大後半に崩る

関東大学サッカーリーグの王座を決定する早慶戦は十六日午後一時から神宮競技場で早大のキックオフで開始、両軍接戦を演じ、前半一〇の同点から早大は後半引分RW桑田が中央突破、快心のゴールをあげ二―一で再度慶大を破り三連勝した。

これで早大は来たる二十二日西宮で行われる対関学との東西学生一位決定戦に出場する。

### ▽一部首位決定戦

早大 2 1 慶大

二度目の首位決定戦で両軍固くなり、前回は快調味は見られなかったが一点を争う激しい攻防戦は伝統の大試合に恥じなかった。前半14分竹島の見事なシュートで先取得点をあげたころの慶大には早大攻め成るの感架があったが、28分RB北島の与えずもがなのゴールで同点とされてからは、早大に回復のチャンスを与え次第に優勢の位置を代えてしまった。後半31分逆襲より球を得た早大はOF加納がRW桑田へ好

### 早大

井木辺崎路 井田島納井計

三青渡宮山長桑小加伯加

GK B B

GF F H B

木島竹沢岡角島川淵木松

茂北長真松岡竹早岩錦重

【慶大】

パスをえれば、桑田は強引なドリブルで松岡、黒沢両慶バックスを抜き中央を突破、正面から鋭いシュートを放って慶大ゴール右を割

り慶大にとどめを刺した。この早大の決勝点は前の試合同様早大得意の逆襲よりチャンスを得たもので慶大バックスはこの日も走力の劣勢から急激なディフェンス陣を布き得ず、老巧桑田にまんまと中央を割られつづれた。結局このバックスの優勢が試合を左右した。

この日の慶大FWは前回同様シュート数でも早の9本に対し11本を記録し優勢を示したが肝心のゴールゲッターLW重松は早大RB青木のマークで完全に抑えられ、五、六回放ったシュートも日ごろの鋭さを見せていなかった。重松と共に期待されたLI鈴木、RI早川も早バックスの厚いディフェンスにシュートティングを阻まれていた。慶大バック陣には前回の試合で肩の骨にヒビの入った土井田を返け、経験の少ない北島をRBに起用しなければならなかったのも不運であった。(大橋)

### ▽一、二部入替戦

教大 7 4 1 工大  
二部 3 4 0 1 二部



早慶優勝決定戦一前半42分早大ゴール前、右端慶LW重松シュートするもゴールアウトとなる

# 早、編成替えに奏効

## 惜しい慶防衛陣の亂れ

優勝候補の慶大が早大に食われるなど波乱に富んだ今年の関東大学サッカー・リーグ戦は十六日早大の輝く三連勝に幕を閉じた。大学チーム中戦後初めて「実力」を持つチームとして何人も許した慶大が、十一年ぶりになるかとみられた優勝を早大には奪まれるとはそれが予想したろう。しかも開幕早々、一部から返り新参の明大に3-0でシャットアウトされた早大が、非力ながらたくましい闘志に、強敵慶大を二度も逆転勝ちで下し、栄冠を収めたその試合巧者には今までの伝統の強さを感じさせた。(大橋)

### 関東大学サッカー総評

**早大** フォワードに加え、攻防にソツのないボジションのとりかた、ねほり強いつぶりなど、中でもRB巨漢濱野、LB渡辺、OH山崎、RH宮崎の進境はめざましかった。

結局早大の勝利には強力バックの奮闘によるところが多い。

**慶大** このチームの強みはFWにあった。スピードでキープ力強く、パス・ワークのうまい慶大FWは五人が五人共シューティングに優れ、威力があった。特にL.I.鈴木、L.W.重松はすばぬけて強く、この左サイドが右サイドよりチャンス・メーカーだった。また黒沢、松岡、両角のハーフ陣もあつには岡が入るなど大きな編成替えが行われた。この小田島FW起用は成功だった。加納をほさむ小田島、伯井の両イン

ナーの動きは早大FWに活発な活動力を与え、それ以後の後半戦をかぎった。バック陣は弱体FWと反対で、FWラインの強化と兵に益々濃厚

対早大戦まで五勝無敗を記録するまでは大した乱れも見せなかつた。が対早大戦では一度とも

逆襲を受けて急速なタイプエンスが布けず、これが慶大の命取りとなった。しかし強力FWがあつたまま、残る来シーズンに多大の期待がかけられよう。

**明大** 今季の異色は、一部から上つてよく三位を占めた明大の躍進ぶりである。特に光ったのは広範囲のカバーリングで攻防に好プレイを見せたRH山口主将と、強引な突破力で得点をかぎった新人能勢(浜松北高)だった。

**立大** 春の全日本選手権と団体選手権に好試合を演じた立大にはもっと期待されるものがあつたが、中大と共に四位に終わった。これはチームの原動力鈴木主将が足の故障でフルに使えなかつたこと、ゴールゲッターL.W.竹村が後半休んだことにある。それにしてもキック・エンド・ラッシュの一点はオフェンスに難があり、バックに入

を得てないだけに、この結果も致しかたない。

**中大** 開幕当初の不振から後半に入り東大、教大を倒して昨年の最下位から四位に上つた中大にとっては善戦のシーズンといえよう。このチームの花形選手はRI鹿井で、彼を生かすFWのコンビ、ハーフ陣のフィードが今後の課題となる。

**東大** 往年早、慶と並んだビッグ・スリーの面影はミジンもなく、わずかに立大に一勝、明大と引分けて一部転落を免れた。見られるのはCF岡野、C江海老原ぐらいであった

**教大** スタートに東大を食ったあたりはよかったが、その後連敗して最下位に落ち、一部優勝校工大に勝って一部残留を死守した。昨年リーグ一の名キープラーを見せた村岡も味方の不調で振わなかつた。またまたバック陣にひきかえFWはひどく落ちていた。

#### ◆.....◆

総体に昨年よりはレベルは向上したが、依然第一線はOB選手に占められ、対スウェーデン戦に選ばれた全日本チームには学生選手は鈴木(立)鹿井(中)の二人という寂しかった。ヘルシンキポリュ・チームのリーバーク氏は離日に当って『日本のサッカーは離日に当って『日本のサッカー』はヨーロッパの中とてこのチーム力を得るにはまだ六、七年かゝる』と批評していたことからも、今後学生選手に課せられた任務は大きい。



# 昭和27年

## 東軍メンバー決る

東西学生選抜サッカーは三月三日西宮で行われるが、東軍のメンバーはつぎのとおり。  
 △監督 横山(東大出) 主将 鈴木(立) △GK 村岡(教) 三井(早) 玉城(立) △DFB 鈴木(主将) 立青木(早) 石川(明) 土井田(慶) 徳辺(早) △HB 山口(明) 山路(早) 両角(慶) 海老原(東) 宮崎(早) 松岡(慶) 三村(中) 永島(教) △FW 伯井(早) 鈴木(慶) 重松(慶) 野井(中) 竹下(立) 早川(慶) 熊野(明) 岡野(東) 小田島(早) 村木(明) 竹島(慶) 高林(立)

## 一点の差で接戦?

### 西軍が依然優勢を維持

#### 東西学生選抜サッカー

東西学生選抜サッカー試合は三月午後二時から西宮球場で行われる。春の東西一位対抗でも、また正月の朝日招待でも

S27-2-2

S27.1.19

開東の早大、慶大が関西の雄関学にそれと敗れており関西側は関学中心だけに開東の勝味は薄い。  
 ○西軍は弱点のフルバックに関大の恒遠を入れるだけで他は関学プレーヤーをそっくり使うのは早、慶を下したチーム・ワークを買われているので当然で、この点では東軍の方がスター・プレーヤーを集めてはいるが肝心のFWのコンビは西軍より劣る。とくにセンター鹿井が不調で鈴木(起用も考えられてはいるが、そうするとRWに人なく横山監督も行き悩んでる。

○バック陣はかなり期待出来るが、RBの青木は関学の鋭いゆさぶりに破たんを見せていたから、よほどのがんばりが必要だ。東軍の得点力で期待されているのは今シーズン進境を見せているRW鈴木とI伯井で、ハーフの支援如何では西軍ゴールを危機におとし入れよう。  
 ○西軍はそのままとまりあるチーム・ワークで盛んなキープ力を示そうが、こんどは早、慶以上の強いバック陣と対するだけにや、勝手が違おう。たゞし西軍のFW線はどこからでも攻撃出来、しかもシューターをそろえているだけに強味だ。  
 ○結局試合はハーフの活躍如何がキイ・ポイントとなるが、ホーム・グラウンドの利とチーム・ワークに優勢な西軍の勝は動

早、慶を下したチーム・ワークを買われているので当然で、この点では東軍の方がスター・プレーヤーを集めてはいるが肝心のFWのコンビは西軍より劣る。とくにセンター鹿井が不調で鈴木(起用も考えられてはいるが、そうするとRWに人なく横山監督も行き悩んでいる。  
 ○バック陣はかなり期待出来るが、RBの青木は関学の鋭いゆさぶりに破たんを見せていたから、よほどのがんばりが必要だ。東軍の得点力で期待されているのは今シーズン進境を見せているRW鈴木とI伯井で、ハーフの支援如何では西軍ゴールを危機におとし入れよう。  
 ○西軍はそのままとまりあるチーム・ワークで盛んなキープ力を示そうが、こんどは早、慶以上の強いバック陣と対するだけにや、勝手が違おう。たゞし西軍のFW線はどこからでも攻撃出来、しかもシューターをそろえているだけに強味だ。  
 ○結局試合はハーフの活躍如何がキイ・ポイントとなるが、ホーム・グラウンドの利とチーム・ワークに優勢な西軍の勝は動

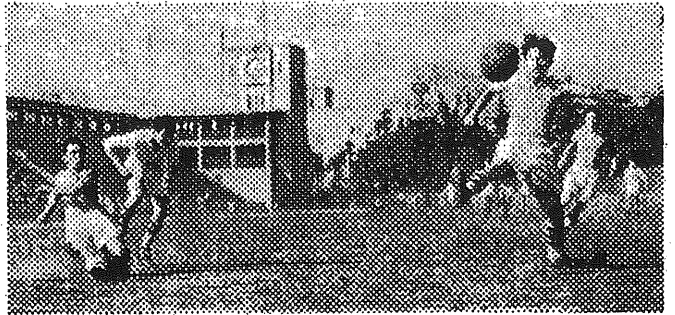
【西軍】		【東軍】	
生駒(関学)	GK	村岡(教大)	大
平木(関大)	FB	青木(早大)	大
田上(関学)	HB	山口(早大)	大
柴玉井(関学)		山路(慶大)	大
木長村(関学)	FW	木川井井松(慶中)	大
木長村(関学)		鈴木(早大)	大

### 一対一で引分け

【大阪路】第七回学生選抜東西対抗サッカー試合は曇天無風、良コンディションの三月午後二時から西宮球場で挙行。接戦の末、1-0の同点で引分け。二度目の引分試合で三勝二敗三引分の同成績となった。

東軍 1-0 西軍

S27.2.4



東軍ゴール前、木村(左端)のシュートを掘口(右端)がカット  
せんとする瞬間―後半16分

# 全関東惜敗す 東西対抗サッカー

第二十二回東西対抗サッカー試合は六日午後二時から神宮競技場で行われ、全関東は善戦したが全関西FWに圧せられ2-1で惜敗した。これに対抗成績は全関東11勝、全関西6勝(引分)うち中止三回)となった。

【評】全関東出足よく最初から関西陣を圧したが、ゴール前の決定力に欠けチャンスをもがすうち、22分逆に全関西は関東陣左コーナー近くのフリーキックからRW木村のリターンパスをLI岩谷中央でうまくひっかけ全関西最初のゴールをあげる。さらに全関西は後半9分に関東ゴール前の混戦から岩谷の左へ出したパスをLW和田キーパーのブラインドをうけて2-0と離して試合を決定的なものとした。全関東は23分に

全関西 2-1 全関東

【全関東】	大出出出出出出出出出出	7	8	12
【全関西】	山岡岡岡岡岡岡岡岡岡岡岡	7	9	15
FW	FW	CK	CK	CK
HB	HB	FK	FK	FK
CB	CB	GK	GK	GK
FW	FW	CK	CK	CK
HB	HB	FK	FK	FK
CB	CB	GK	GK	GK

## 全日本メンバー決る

対香港華人サッカー

二十八日夜来日する香港華人サッカー・チームと六月八日神宮競技場で対戦する全日本軍のメンバーは次の通り。

▽監督 竹腰重丸▽GK 津田(慶出) 村岡(教大)▽バックス 岡田(早出) 田村(早出) 加藤(東出) 土井田(慶大) 松本(東出) 山形(関大出) 山口(明出)▽FW 大巻(東出) 柴田(関学出) 川本(早出) 若井(関学) 賀川(神経出) 岩谷(早出) 加納(早出) 木村(関学)

S 27. 5. 28

## 全関東のメンバー決る

七日神宮で対戦する全関東学生選抜チームのメンバーは次の通り決まった。

▽監督 加藤健(早出)▽GK 村岡(教大) 玉城(立)▽FW 土井田(慶) 青木(早) 石川(明)▽バックス 山路(早) 海老原(東) 高橋(早) 小田島(早) 松本(教大) 水島(教大) 三村(中) 大村(立) 杉本(明)▽FW 鈴木(慶) 早川(慶) 鹿井(中) 伯井(早) 藤松(慶) 竹下(立) 竹島(慶) 熊野(明) 岡野(東) 高林(立) 桑田(早) 鈴木(立) 清水(早) 岩淵(慶)

S 27. 5. 29

# 全関東学生引分く

## 対全香港華人サッカー

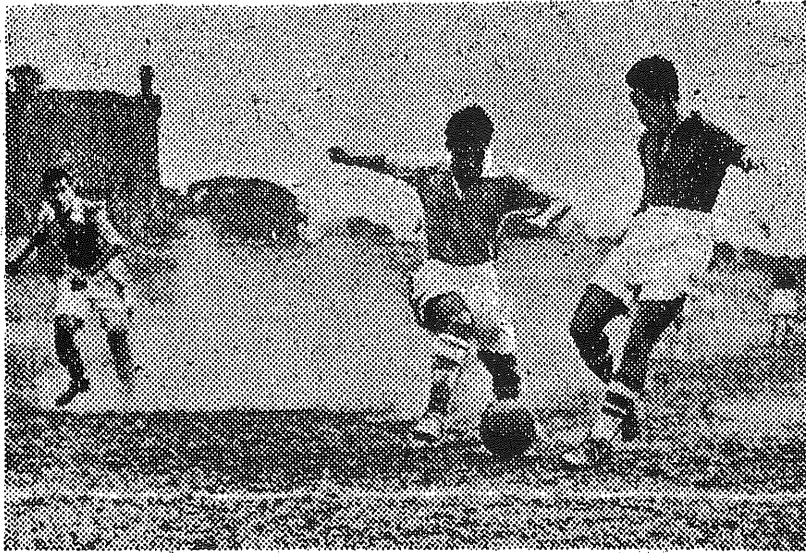
全香港 0-0-0-0 全関東 学生

全香港華人選抜サッカー軍の東京での第一戦対全関東学生選抜軍の試合は七日午後一時半から神宮競技場で進行された。快晴微風でコンディションは選手良好。劣勢を予想されていた全関東学生は激しい動きで予想外に健闘し、試合を互角に進めて0-0で引分けた。これで全香港の来日以来の成績は2勝2分となり、八日最後の試合として全日本軍と対戦する。

【神】香港は連戦の疲労で精彩を欠いて、五日試合中一番強い袖手と見られた関東学生にゴールも得ず引分けた。香港は風上を有利して例によつてきれいなパス。ワークで学生陣を圧倒、前半15分頃から3分までL.I.金、B.I.藤、O.F.徐がシュートを浴びせたが、いずれもゴールをわずかにそれてむなしかった。後半18分、R.W.陳のセンターリングをL.I.金がノーマークで学生ゴール前で受ける。この日最高の好機に思われたが、金のシュートはバーに当たる不運に終わった。ついで2分にも左からのパスを受けたO.F.徐のシュートも再びバーに当たって不成功に終わった。

学生軍は前半一方的の劣勢から後半には風上に戻つてO.F.藤、L.I.伯井が活躍して、感心にチャンスをつくつたが、香港バックスの堅陣を抜き得なかつた。

学生も前半の劣分伯井から出たパスを藤井受けてノーマークとなったチャンスを迎えたが、腰くだけて凡シュートに終わった。シュート数は香港12学生軍で、この香港の強さをよく示している。この日の好守はバックスの藤岡と共に光っていた。ノーマークに終わったとはいえ、香港のきれいなキックを生かしてのボジション、プレイのよさはスタンドを十分興奮させた。(大橋)



香港対関東学生サッカー 前半32分学生ゴール前左から香港L.I.金(右)シュートせんとするもL.B.石川にはとまる。左端はC.H.山路

タックル

張春土	GK	張春土	6
李振興	FB	李振興	8
李振興	HB	李振興	14
李振興	FW	李振興	10
李振興	CK	李振興	2
李振興	FK	李振興	6
李振興	GK	李振興	10

S 27.6.8

# 香港はじめて敗る

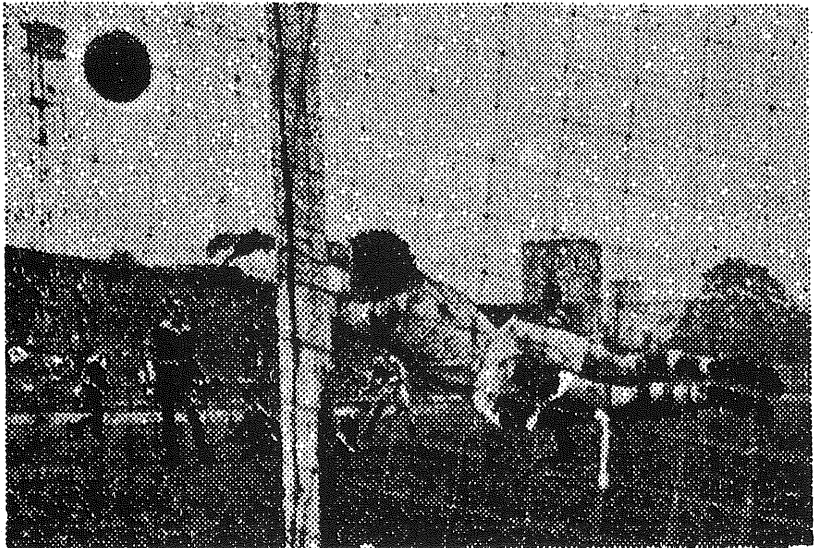
## サッカー 対全日本選抜

【神】同日になること三たび最後まで平手を許さなかつたが陸軍軍の連戦PRで全日本がたゞ一つの勝を獲つたが、後半を除いては終始優勢を示した全日本軍の勝は当然であつた。雨の悪コンディションながら日本FWはよく動き、特に加納、岩谷、川本の左サイドの好コンビは香港のアナである右のバックを思へずまに刺つて得意顔をつくつた。これを助けたL.H.大空の攻撃への動きも光つていた。バック陣では、岡田が不調のほかは藤岡、特に前半は単騎な香港FWアフリズの攻撃に優先を制し全然危なげなかつた。

香港FWは連戦のあとで好調とはいへなかつたが後半に得意のフットワークを生かしてよくがんばり、B.I.藤と岡田に迫つたあたりの迫力はさすがと云ふすが、このPRWの勢もO.H.貝のラフ・プレーで無になつた。前日まで健闘を誇り、またクリン・ゲームで開始した香港バックスもこの日は真逆半が日本のゴール・ゲッター加納を食い止めようとおもつたあけく、形手番から警告をうけること二回、再三のファウルを犯して、最後には加納にツヤンピング、ファウルしてPRをとりられ日本に決勝点を許し、それまで勝戦した香港チームに最後の試合で敗北を喫したのは惜しまれる。しかし雨中でいよいよのフィールドに追いつ追われつた白熱戦は昨秋のヘルシングボリー以来の好試合であつた。敗れたりとはいへず、惜みのきめた三つのゴールは何れもが文句ないきれいなもので、香港選手の見聞の場には深く印象に残される。(大橋)

全香港 4-2-1-2-3 全日本

加納山松	GK	加納山松	10
加納山松	FB	加納山松	11
加納山松	HB	加納山松	7
加納山松	FW	加納山松	2
加納山松	CK	加納山松	11
加納山松	FK	加納山松	17
加納山松	GK	加納山松	11
加納山松	FK	加納山松	17



全香港華人対全日本選抜軍サッカー 後半34分香港ゴール右前からRW加納のシュートをGK張セービングにはとむ

S 27.6.9



# 大学サッカー

を抱かせる。

## 早慶の野望成るか

### 慶大対中大 優勝かける好試合

慶大はシーズン二度目の試合で、さきの対教大戦にはO.F.岩淵の欠場もあって昨年のような鋭い動きは見られなかった。一方中大は昨年は敗れた立大、明大を撃ちし好調でタークホースぶりを発揮している。もしもここで慶大を食えば一躍優勝候補の位置を奪うことも出来る。

中大の強みは全日本選手級のR.I.鹿井と新たに彼を補佐する新人八重樫をセンターに得たこと。明の二試合であげた計七ゴールの大部分はこの二人のシュートできめられた。慶大は強敵を迎えてベスト・メン

バーで臨むと思われるが、対教大戦のようなゲームぶりでは中大にやられる可能性が多い。順当に行けば中大より強い竹島、重松の両ウイングをそろえ、まとまっている鈴木、岩淵、早川センター・スリーを持つ慶大FW線に二、三本の優位が見られるが、二、三選手は就職試験で練習不足でコンビネーションを得ていないだけに不安が感ぜられる。FWの出来如何が試合を決定しよう。

ており弱いと侮った東大に散々な目にあつた。新人で固めた弱体なバックスではFWへのフィードも悪く、頼みの小田島、吉田、伯井のセンター・スリーも大したことはなかつた。立大は中大に敗れたが、教大に危うく勝っている。中心選手鈴木(吉)の卒業で、まともはよいが、FWにシューターがいらないのが欠点。しかし立大のよきは最後まで忠実に動く点にあり、タイムアップ直前にR.I.星があげた決勝点で教大を破つたあたりこの感を深くした。順当に行けば早大の勝利だが、早大が対東大戦のようなプレーをしておれば立大に乗せられる恐れは多分にある。(大橋)

## 慶、早勝つ サッカー

関東大学サッカーリーグ戦、慶大対中大、早大対立大の試合は二十

田尾川島村野井傳中	比	2 5 15
福松石茅三中日暁八吉田	重	
GK FB HB FW	CK FK GK	
橋田島川竹井 松浦木山沢		4 4 17
井 北荒良小 田右輪早松		

中大 3-2-0

S 27.10.27

○いかなり強い風が驟にフィールドを吹きまくり、トスに勝つて風上に立った慶大の有利は明らかで、前半は慶大がほとんど立大陣のみでプレーを進め、慶大GR山崎が球を蹴り出したのはわずか三回という優勢であった。練習不足で欠場の竹島に代つてもLWをやる重松が右に回り、重松のあたりには新人松沢(付高田)が起用されたが、松沢はよく動き7分にはOR鈴木がパスを受けてシュート、また25分にはゴール前の混戦

からヘッドイング・シュートをきめ慶大を2-0のリードに導いた。○後半に入つても慶大は風下ながらよくキープし、28分中大ゴトみ、R.I.岩淵のシュートから中大バックに当つてはね返るのをOR鈴木シュートして3-0と離し大勢を決した。中大は前半の苦戦で疲労し、特に頼みのR.I.鹿井が精彩を欠き後半風上の有利を生かし得ずに終つた。

早大 3-2-0 立大

○早大は前半3分立大RB大村のハンドでPRをとり順位に立てるチャンスに伯井主将無造作にキーパー正面に球を早してものにしなかつたが、19分ORより逆球をLH宮崎見事にヘッドイングできめ一点を先取した。この一点のリードは後半の立大の猛反撃の前に危なかつたが、34分と25分に

伯井のつくつたチャンス。ボールを中央に回つていたRW清水が連続きめて勝利を不動のものとした。○後半早大に2-0のリードを許したまでの立大の反撃はめざましかったが、シュート力に劣る立大FWとしてはあの辺が精いっぱいといったところ。早大FWは後半の終りごろを除いては清水の不調で大したことなく、むしろ立大を無得点に抑えたバックスの善戦が光っていた。(大橋)

城村本田杉泉崎木村	早中	4 5 10 0
玉大寺浜小沼鈴高	田	
GK FB HB FW	CK FK GK	
井木井島路崎水沢田井計		4 8 19 1
三賢長小山宮浦福吉伯加		



慶大、中大サッカー 前半7分慶大LW松沢 中大ゴール左前からシュートきまり最初の一点をあぐ



# 中大、早大を食うか

## 慶大 興味はスコアの開き

### 関東大学サッカー予想

関東大学サッカー・リーグは星取り争いの大事な中盤戦に入つて十五日午後十一時三十分から神宮競技場で早大対中大、慶大対東大の二試合が行われる。早大は今季東大と引分け先通はまた不覚にも明大に敗れ

のフイードも活発さがほしい。バックスは命取りとなるようなPKを献上しないようラフプレーを慎みリーグ一を誇る本来の巧味あるボクシン・プレーを展開すべきだ。

中大の望みはR・I・鹿井、O・F・八重樫のキープ力だが早大FWと比べてはバランスが劣るため歩が悪い。中大としては持ち味の活動力を生かして小細工をもうせず積極的にキック・エンド・ラッシュで

が、対明大戦のような不調では首位慶大には敗れたが明、立教を破って好調の波に乗っている中大に食われる可能性もある。シーズン半ばに至つてもフット・ウィングに人を得てない早大FWとしては対立大戦で二点をかせいだ気は弱いがスピードのある清水を起用してベストメンバーで臨むべきだろう。伯井、塩沢の両インナーはもっと積極的にチャンスをつくらねばならないし、ウィング・ハーフ

攻め比較的大である早大はFBを衝くべきであろう。早大が名譽は

の回のため奮い立てば少くとも二点は差をつけて勝つて見たい。慶大早大が現在三位におち優勝工事が楽になった慶大とテールエンド東大との試合は問題なく慶大のもので、むしろ興味は好調の鈴木を中心としたFWが対明大戦に取めた今季最大のスコア7-0をどのくらい上回るかにかかっている。重松、鈴木、早川の強シューターに加えて新鋭FW松原らの巧みなパス・ワークとシュートはスタンドを震

ませよう。しかし東大も捨身にかゝれば弱い慶大GKから一、二点はとれないこともない。(大橋)

# 慶の優勝確定

## 早大は中大と引分け

関東大学サッカー

関東大学サッカー・リーグ早大対中大、慶大対東大の二試合は十五日午後一時半から神宮競技場で挙行、早大は相変らずの不調で苦戦し、やっと中大と引分けた。慶大は東大の善戦に会い二点の少数得点に終わったが、これで5勝無敗となり対早大戦の結果如何を問わずリーグ優勝が確定した。

早大 1-0-1-0-1 中大

【中大】  
田尾川島村山井藤崎中  
福松石茅三中内藤八吉田8 8 11 1  
GK FB HB FW GK GK K  
GK FB HB FW GK GK K  
井本井 階崎田島沢井田2 8 17 0  
福貴長 山宮桑小塩白石

慶大 2-0-0-0 東大

【東大】  
石田浦原見兄井野島津  
立原 味老 沼石 岡中根  
GK FB HB FW GK GK K  
木田島井竹川島淵木山松  
井坂 小長荒竹岩鈴重直

【評】慶大はRW竹島、GK茂木も共に復帰してベスト・メンバー

で臨んだがテール・エンド東大の善戦に会いわずか二点の得点に止った。しかも東大は前半の大半を慶大陣でゲームを進める優勢を示し慶大に苦戦を与えた。しかし東大にはたよれるのはO・F・岡野一人で全然実を結ばずに終わったが、あつたりに東大が慶大から一点をあげておれば試合はもっと興味深いものとなつたろう。慶大は46分LW重松の右へのクロス。パスをRW竹島ハッティングで中央へかえし、L・I・早川さらにハッティングでシュートしてやっとリードに立った。

○：後半慶大はキープ力よくほとんど東大陣でプレーを進め味方キーパーが球を処理した数はたった一回という優勢を示したが、東大バックスの鋭いつぶしに会い空しく、ようやくタイム・アップ前の44分に左OKから東大陣の混戦と

関東大学サッカー	リーグ成績(15日)	勝	分	点
慶大	○	5	0	10
中大	○	3	1	7
早大	○	2	2	6
明大	○	2	2	4
立教	○	1	0	2
東大	○	1	0	2
慶大	○	5	5	10
中大	○	4	4	8
早大	○	4	4	8
明大	○	4	4	8
立教	○	4	4	8
東大	○	4	4	8
慶大	○	1	1	2
中大	○	1	2	3
早大	○	1	2	3
明大	○	1	2	3
立教	○	1	2	3
東大	○	1	2	3
慶大	○	1	1	2
中大	○	1	1	2
早大	○	1	1	2
明大	○	1	1	2
立教	○	1	1	2
東大	○	1	1	2

# 明・立共に辛勝

関東大学サッカー

関東大学サッカー・リーグ戦大対明大、東大対立大の二試合は廿二日午後零時半から神宮競技場で挙行、明大、立大が共に辛勝した。

明大 2-1 立大

野岡野橋塚山田 野木井

牧赤高高大石神 能村荒

GK FB HB FW CK FK GK

岡沢宮島木原沢淵林原中

村小小永松宮深大若福山

立大 1-0 東大

石田弟原見兄井島野井

立大 1-0 東大

立大 1-0 東大

GK FB HB FW CK FK GK

城泉本村杉田崎 下木林

玉小寺大小浜沼 竹鈴高

立大 1-0 東大

S 27 11 23

# 中大勝ち二位決定

## 立大も明大を破る

関東大学サッカー

関東大学サッカー・リーグ戦大対中大、明大対立大の試合は二十九日午後零時四十分から神宮競技場で挙行、中大と立大がそれぞれ順当に勝った。この結果中大の二位が決定した。早、立、明は三位に同率となったが、三十日の早慶戦の結果で三、四位が決定する。中大は六位に終り、今季低調の東大は正十三年リーグ加盟以来初の最下位の七位となった。

中大 4-2-1 東大

石田弟原見兄井島野井

立大 1-0 東大

野岡野橋塚山田 野木井

牧赤高高大石神 能村荒

GK FB HB FW CK FK GK

岡沢宮島木原沢淵林原中

村小小永松宮深大若福山

立大 1-0 東大

石田弟原見兄井島野井

立大 1-0 東大

GK FB HB FW CK FK GK

城泉本村杉田崎 下木林

玉小寺大小浜沼 竹鈴高

立大 1-0 東大

石田弟原見兄井島野井

立大 1-0 東大

GK FB HB FW CK FK GK

城泉本村杉田崎 下木林

玉小寺大小浜沼 竹鈴高

立大 1-0 東大

石田弟原見兄井島野井

立大 1-0 東大

GK FB HB FW CK FK GK

チーム	勝	分	点
中大	4	2	10
立大	3	3	9
早大	2	5	6
明大	2	5	6
東大	1	5	5
慶大	0	1	0

【中大】前半七分の球を得、OK五本をとる優勢をつづけたのを、ようやく38分に至りLW田中のセンターリングをRW三浦へディング・シュートして一点、さらに39分08秒重撃クリン・シュートをきめ2-0とリードした。

【明大】野岡川橋塚山田 野木井 牧赤高高大石神 能村荒 GK FB HB FW CK FK GK 11 5 5 15 2 2 8 8

【立大】後半東大よく反撃し5分LW藤井のパスをRW柴沼兄きめてその差一点に迫ったが、36分と42分に中大RW藤井に連続二ゴールをきめられ敗れた。両軍ともバックスがどろんで足をとられハラハラさせるピンチを再三招いたが、藤井、八重樫、吉崎の好センター・スリーをもち教段上の中大FWの順当な勝ちに終わった。

【明大】明大は出足鋭くキック・オフから約10分間連続立大ゴールを押ししたがFWのコンビ悪く好機を逸し、逆に23分立大LW高林の好センターリングをゴール前に位置していたしん鈴木シュート、キーパーのはじくのをさきに鈴木突込んで先取得点をあげた。このころより立大盛んにキープ力を発揮、36分明大陣右にコーナー・キックを得、高林巧みに引っかけた後半を2-0とリード。後半に入って立大は13分明大陣右三十五秒からO且村上がロング・キックを放ち明大GK牧野飛び上ってセーブしようとしたが及ばず、パーすれずれに入って3-0として勝った。

【立大】立大は悪いフィールドに適したキック・エンド・ラッシュで適切に攻めたのに反し、明大はショット・パスを使ったが、そのパスが意の如くならず、その上ゴール前の決定力に欠けて惨敗を喫した。結局走力に優った立大の勝利は当然であった。(大橋)

S 27 11 30

順位	チーム	勝	分	点
1	東大	4	0	12
2	早大	2	5	9
3	明大	2	5	9
4	立大	1	5	8
5	慶大	0	1	0

S 27 12 8



# 早・慶熱戦して引分け

## 三位は早大 関東大学サッカー終る

関東大学サッカー・リーグ最終日 慶大と、慶大には勝とうとす  
早大対慶大の試合は三十日午後二  
時二十分から神宮競技場で早慶の  
B戦について進行、連勝をねらう  
も勝ち点三位に引き分け。



試合後昭和十五年以來初めて慶  
勝した慶大に美土路関東協会長  
から優勝カップが授与された。

【評】慶大はキックオフから早大  
ゴールを圧迫、早くも4分早大  
H山路のフツシングでペナルテ  
イ・キックを得る好機を迎えた  
が、慶大DF重松の右すみをねら

勝	分	点
①慶	6	5
②中	6	4
③早	6	2
④明	6	3
⑤立	6	3
⑥教	6	6
⑦東	6	6
敗	0	1

早慶サッカー後半十七分、早大コ  
ール前、慶大鈴木の左コーナー・  
キックを受け岩淵(背番号8)の  
ヘッドイング・シュートならず

つたキックは弱くG区福井倒れて  
止めてピンチを逃れた。その後も  
慶大依然優勢をつつと左サイドが  
好パスを呈したがRW鈴木不調で  
三回得点の好チャンス逃してい  
た。しかし22分慶大DF重松が早  
大陣中央で左から球を得、ゴール  
エリリア・ライン外のかかり遠  
距離から放ったロング・シュート  
は見事早大ゴール左上すみにさま  
つて慶大1-0とリード。だが2  
分おいて24分には早大もRB青木  
のセンターリングでチャンスを生  
み、球はLW塩沢からDF吉田へ  
回り、吉田がキーパー茂木の前進  
を右へさばいて無人のゴールへ  
ツディングで入れて同点とした。

後半は両軍とも疲労が目立ち前  
半ほどの動きは見せなかったが、  
依然オープンの接戦を展開、慶大  
優勢のうちにもいずれも無得点のま  
ま引分けた。後半では一点を加  
したものが試合を制する状況とな

- 【慶 大】
- 木田島井竹川木瀬松川沢
- 坂
- 茂土北小長荒鈴岩重早松71391
- GK FB HB FW
- 井木井 路崎田島田井沢417210
- 福留長 山宮桑小吉伯田
- 【早 大】

り、両ゴールを激しく往来する熱  
戦は五千のファンを喜ばした。こ  
のなかにも慶大が18分と20分に迎  
えた好機を逃したのには惜しかつ  
た。18分早大左バックを抜いたR  
I岩淵が早大キーパー福井と二対  
一の好チャンスとなったがゴール  
右下をねらった岩淵のシュートは  
福井が転んで好補してしまった。  
20分再び岩淵はLW早川からパス  
を得、シュートする寸前を福井に  
飛び込まれおろかして倒れてゴー  
ル左へ送られて二度目の好機  
を逃した。一方早大も28分RW桑  
田が右から強引に持ちこみ慶大右  
バックを抜きこいた早大キーパー  
I茂木と二対一の好機となった  
が、惜しくもシュートをゴール左  
へ逸して加点とならなかった。

慶大は大層得点をあげた対明大  
戦のラインアップで臨み、早大  
バックスの弱い左サイドを衝く作  
戦に出たが、早大バックスの善戦  
にははまれ、重松の一点に止まっ  
た。早大は今シーズン初めて早大  
らしい試合をした。FWはLW塩  
沢がやや不調だったが大きなクロ  
ス・キックをよく通して慶大ゴー  
ルを揺るがしたし、バックスが  
何れも果敢なタックルと強いヘッ  
ディングを交えた部厚いディフェ  
ンスを布いてよく慶大FWの攻撃  
を防いだ。特に慶大FWの記録し  
た十六本のシュートのうち一本を  
除き完全に防いだキーパー福井の  
好防は光っていた。早大FWライ  
ンは伯井、吉田がゴール前の鋭さ  
を見せただけで、わずかに七本のシ  
ュートを見せたに止まり、スピー  
ドと正確さに優る慶大FWとは劣  
ったが、この劣勢ながらもよく強  
敵を引分けにもちこんだのはパッ  
クスの健闘にあった。前半の激し  
い動きに比べ後半は凡戦に終わった  
が、やはり伝統に恥じないしかも  
今シーズンの最好試合であった。  
それにしても慶大にとっては重松  
がRWを逸したのはあきらめきれ  
ないものがあったろう。(大橋)

# 関東大学サッカー回顧

今シーズンの関東大学サッカー。リーグ戦は予想通り慶大の優勝に終わったが、期待された昨年の勝者早大が意外の不調で波乱多き試合となった。この中であって中大の二位躍進と東大の最下位陥落が目されたが、以下各チームの奮戦のあとをふりかえって見よう。

◇慶大 チーム力は昨年の方がすつとまとまっ

ており、むしろ今年の優勝は早大の低下に救われたとの感が深い。とはいえ、スナントをいきり得る要素はもつていた。それは何と云ってもリーグ一の強力FWラインを持った

ことで、前半は鈴木、後半は重松がセンターを牽り、スビド、パスワーク、シ

ュートに断然強味を見せた。とくに鈴木、重松のシユートイングは進境を見せ慶大の勝因として光っていた。

この二人を助けたのは、早川主将、岩淵のインナーよりも見逃せず、また後半竹島に代り起用された松沢も将来を期待されるウィング・プレーヤーの素質を十分發揮した。ウィング・

長竹 土井田 鈴木 早川 重松



プレーに行きつづまりの感のあった重松は後半センターに回されたも依然変わらぬ器用さを見せ重任を果した。彼はもう二年在学するので来年も依然慶大の重鎮として輝くだろう。慶大FWの今季の得点数は合計20・3で、二位の中大は13・9、三位早大は12・8で断然慶大の優位を物語っている。

これに比べればバック陣は昨年より落ち、CH長竹、RB土井田のヴェテランのほかは見栄えせず、わずかに3点の失点に止まったのは強力フォワードのカバーリングに助けられた感が深い。

◇中大 昨年の三位からよやく二位に躍進した陰には、R土井田、DF八重樫の深まらぬ活躍があつた。昨シーズンは鹿井のみに頼っていたが、今シーズンになって高校界で鳴らした名フォワード八重樫(盛岡一高)が加わって、この両選手のコンビで予想を裏切り強敵早大に1-1で引分けたのをはじめ、よく立、明の強襲を退け4勝1敗1分の好成績を取めた。八重樫、鹿井主将の奮闘とともに

## 慶の勝因は強力FW

### 失望させた早大の低調

を奪われピンチを招いていた。FW同様バックスもボレー・キックの必要を痛感した。

◇早大 今リーグ戦で一番ファンを失望させたのは早大の低調ぶりであった。バックスの充実しないうちか、DFのFW線がまとまらず、とくにライト・ウィングに人を得ず終始異なったラインアップで臨む始末であった。第一戦に昨年最下位の教大と苦戦し、第二戦には東

大にやうと引分ける醜態を演じ、昨年はシリ上りの好調を見せたのが逆にシリ下りの低調となり、その後は明大に思わぬ敗北を喫し(2-1)中大にも引分け(1-1)に持ち込まれる羽目に陥った。これはFW両翼の不ぞろいとLB長竹の弱さであった。しかし最終の対慶大戦ではさすがに伝統の意気に燃えてか、見違えるようなパス・ワークと強固なディ

フェンスを見せて強敵慶大を1-1の引分けにもちこんだのは上出来であった。ああいった試合ぶりをシーズン中に出しておれば、ああまで苦難をなめなかつたらうかと惜しまれた。

◇立大 中心選手だった名ハーフ鈴木(吉)を失った立大は、昨年と比べて意気の上がらないプレーに終始した。得意のキック・エンド・ラッシュもまとまりを見せず、ゴール・ゲッターOF竹下やLI福原の努力を生かすOFが余計難行した。しかし最後の対明大戦では持ち味の走力を發揮して明大をシャットアウトしたのは極めて感めだつた。

◇教大 昨年より数段チーム力が充実し、今季のリーグ戦を興味深いものにした努力は賞されてよい。だがバックスのチームで、FWラインが生彩を欠き、バックスの



伯井 小田島 青木 八重樫 鹿井

の奮戦を無にしていた。新参加のLI福原の努力を生かすOFが余計難行した。しかし最後の対明大戦では持ち味の走力を發揮して明大をシャットアウトしたのは極めて感めだつた。

◇早大 昨年からレギュラー八人を守ったこのチームの、惨状を予想したのだったが、その割には善戦した方といえよう。とくに早大を3-3の引分けにもちこんだのは今シーズン最大の番狂わせであった。その後の試合は活躍が期待されたのだが、頼れるのは、LI岡野、CH海老原をひき持ち、LIの不足は覆えず、ついに一勝もし得ずにテール・エンドに終わったのは止むを得なかつた。

(大橋)

# 第一回全国大学サッカー大会

▽期日 昭和二十八年二月二日  
 日一八日  
 △会場 明治神宮外苑競技場  
 ほか三会場  
 △参加資格 日本蹴球協会に  
 加盟の大学  
 △申込締切 二十一日  
 △申込先 東京都千代田区  
 河台日本体育協会内日本蹴球  
 協会  
 △主催 日本蹴球協会  
 後援 朝日新聞社

S27.12.18

S27.12.29

## 組合せ決る

全国大学サッカー

本社後援第一回全国大学サッカー大会は全国から二十二チームが参加して二月二日から五日間神宮競技場および同会館前競技場で行われるが二十一日抽選の結果組合せが決った。

- ◇一回戦(イ) 明大対宇都宮大
- (ロ) 東京学芸大対富山大(ハ)
- 早大対松山商大(以上A組)
- (ニ) 農大対広島大(ホ) 学習院大対鹿児島大(ヘ) 東大対京都学芸大(以上B組)

◇二回戦 慶大対岡山大、北海道大対(イ)の勝者、教育大対(ロ)の勝者、清水商船大対(ハ)の勝者、岩手大対(ニ)の勝者、立夫大対(ホ)の勝者、東京医大対(ヘ)の勝者、静岡大対中大

(準々決勝までA組の試合には神宮競技場、B組は松園館前競技場準決勝から神宮)

## 関東OB一勝一敗

対慶大一、二軍サッカー

来月十、十一両日西宮で行われる朝日招待サッカー大会に出場する関東OB選抜軍は二十八日午後二時から東大球場で慶大一、二軍と対戦、二軍を破り、一軍に惜敗した。OB軍は練習の日が長くコンディションに欠けたが、各手一言、加納らが現役をしのぐ好技を見せた。

関東OB 3 - 2 慶大二軍

【慶大一軍】

崎田	澤松	村屋	野中	川角
GK	山吉	出小	古大	土山
FB	肥田	山石	石松	
HB				
FW				
11	OK	4	1	8
2	FK			
6	GK			

慶大一軍 2 - 1 関東OB

【慶大一軍】

木田	井村	木井	島川	沢
GK	茂井	北長	植輪	酒竹
FB	坂	松		
HB				
FW				
2	OK	3	0	5
1	FK			
5	GK			

# 昭和28年

## 気をはく鹿見島大

### 全国大学サッカー

第1日

本社後援第一回全国大学サッカー大会第一日は二十午前十時神宮競技場で参加二十チーム選手が整列する中を本社遠山企画部長が日本ヘリコプター輸送会社機で飛来、競技場中央に着陸、トロフィーとボールを渡して五日間にわたる大会の幕を切った。この日東京は霧度に近い寒さにもめげず各チームは健闘したが、中にも遠来の鹿見島大は鋭い出足と巧みなショット・パスで学習院大を1-0で圧倒、敗退した地方チームのうち一人勝ち残って気を吐いた。

▽第一回戦

明大	4	3	1	0
広島大	4	3	1	0
鹿見島大	5	3	2	0
東京大	5	2	3	0
学芸大	5	2	3	0
東大	5	2	3	0

近畿大 3 0 1 1 1 1 0 1 1 1 1 1 2  
 中部大 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 0  
 愛知大 3 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0  
 刈谷大 3 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0  
 兵庫大 5 3 2 0 3 2 0 0 1 0 1 0 1  
 西中道 3 3 2 1 3 1 3 1 2 0 0 0 0  
 修徳大 3 3 2 1 3 1 3 1 2 0 0 0 0  
 秋田大 3 3 2 1 3 1 3 1 2 0 0 0 0  
 三北大 4 4 3 1 3 1 3 1 2 0 0 0 0  
 上野大 8 6 2 1 2 1 2 1 0 0 0 0 0  
 明大 8 6 2 1 2 1 2 1 0 0 0 0 0  
 大星大 8 6 2 1 2 1 2 1 0 0 0 0 0

熊本工 (九州)  
 真岡 (北関東)  
 岡山朝日 (北関東)  
 東海大 (東海)  
 浦和 (東海)  
 南関東 (東海)  
 金沢大 (北陸)  
 北陸大 (北陸)  
 函館商 (北海道)  
 北海道 (北海道)  
 高知農 (四国)  
 豊多摩 (東海)  
 東大 (東海)

S 28 / 3

S 28 / 3

### 清水商船大学惜敗

#### 全国大学サッカー

第二日

本社後援全国大学サッカー大会第一日は三日午前九時から神宮および絵画館前競技場で二回戦八試合を挙行、地方チームは広島大を除き全部敗退した。

▽二回戦

慶大	3	0	1	0
明大	7	5	2	0
教大	5	3	2	0
早大	2	2	0	1

岡山大 1  
 北海大 0  
 東海大 0  
 学大 0  
 清水商大 1

原原川田川栗 田本近  
 笠原 森  
 小上関四下早小 薄岡藤  
 GK FB HB FW  
 GF HB FW  
 井井木崎路 水田野井田  
 三永青宮山 清吉杉白石  
 【早大】

立大 4 1 3 0 0  
 東大 9 4 5 0 0  
 中大 棄権 静岡大

島大 0  
 鹿見大 0  
 東医大 0

2 10 21  
 2 0 21  
 9 2 2

【評】一回戦にはシード・チームも全部出場してにぎわったが、予想どおり関東チームが全部ベスト・エイトに勝ち残った。この中の優勝候補と目された早、慶が共に苦戦しており、反対にリーグ戦では下位の立大や東大が好調を示し優勝の行手をわからなくさせている。

地方チームは若手大を降した広島大だけ勝ち残ったが、この広島大も期待されたほどのチーム力なく四日の準々決勝では立大の速攻に抗し得ないだろう。敗退した地方チームの中では優勝候補の早大を最後まで苦戦させた清水商船大は、今大会の最好ゲームを展開した。清水は体格とフアイトに優れた全員がその鋭い体当りで中盤でも互角に早大と戦い、守っては厚層のオール・メン・ディフェンスを布いて早大のチャンスを抑えた。後半タイムアップ五分前に至るも両軍得点なく、延長戦は必至と見え、しかし32分に至り清水は早大陣左のコーナー・キックからRW小栗ひつかけて早大ゴールを割りリードに出たにわかに戦況は清水に有利となったが、34分早大は商船ゴール前の混戦からRW吉田のシュート成り同点、さらにタイムアップ直前の35分には右からのセントーリングをL1伯井がキーパーのボールを止めんとする寸前に強引にひっかけ決勝ゴールとした。期待された鹿見島大は速攻の立大に対し余りに警戒し過ぎ後退守備を布き、中盤のことごとくのボールを立大に奪われ全然お粗末に終わった。(大橋)

S 28 / 4

# 東大、中大を破る

## 全国大学サッカー大会

本社後援第一回全国大学サッカー大会第三日は、四日前九時から神戸競技場で準々決勝を挙行、予想通り早慶立が勝ち進んだが、最終試合では関東大学リーグ最下位の東大が二位の中大を延長戦の末破る番狂わせがあった。

東大 4 0 1 2 1 3  
中大 3

【中大】  
田尾川 沢村 村浦 井野 崎中  
福松 石宮 三中 三麗 日吉 田  
GK FB HB FW  
石田 原 兄 井 野 勇 本  
立 塚 海 茂 柴 石 崎 中西  
【東大】  
慶大 3 2 1 0 1 0  
早大 3 2 1 0 1 0  
1 教 大

立大 3 2 1 0 0 0 広島大

【評】慶大は三軍を用いスピードなパス・ワークを展開、右サイドがチャンス・メーカーとなり、W佐々木が一点、OF石川が一点を入れ明大を降した。明大はコンビに劣り慶大の速攻に押され、後半4分新井のゴールで零敗を免れた。

前日清水商船に苦戦した早大はよく動き、後半10分までにL-I伯井の連続好シュートで2-0とリード、30分教大LW宮原にゴールを許したが、31分LW石田が加算して危げなく勝った。FWの優秀の差が試合の分れ目だった。立大は終始広島陣でプレーを進める優勢を示したが、両翼の不調でものにし得ず、L-I高林が独り3点をあげたに止まった。地方チームのうちただ一校準々決

勝に残って期待された広島はチーム力に劣り、ことにインナー、ハーフの動きのしぶいのが目についた。もしもGR重松の好守がなかったらもっと差は開いたであろう。東・中戦はこの日のベスト・ゲームであった。後半25分OF日比野が三度目のゴールをあげ、1-1とリードした時は中大の勝ち間違いないと見られたが、東大は31分と32分にOF岡野の好センターリングをLW西本がブツシュとヘッドイングで連続きめて3-1の同点とした。延長戦に入ってから東大は4分半に西本からのセンターリングをRW柴沼兄よくミートして決勝の1点をあげて勝った。好調の波に乗っている東大に対し、リーグ戦では4-1で勝っている中大は後半2点のリードで安心したのと、右バックの拙守が東大の思うツボとなった。(大橋)



大学サッカー立大対広島大会後、早大分広島大陣ゴール前で立大L-I高林シュートした広島大GR重松には劣る(神戸競技場)

### 明星高敗る

全国高校サッカー

【大阪発】第三十一回全国高校サッカー選手権大会第一日は四日前十時半から西宮競技場で準々決勝を挙行、第一試合で三蔵代表上野高は優勝候補の大阪代表明星高

に対し予想外の健闘を示して接戦の後、抽選で勝つ大きな番狂わせを演じた。

▽準々決勝  
刈谷 3 2 0 1 1 兵庫  
(慶知)

上野 2 0 0 2 0  
(三蔵) 0 0 0 1 1  
明星 2  
修道 2 0 0 1 1  
(東中) 1 0 0 1 0  
秋田商  
非崎 3 2 0 0 0  
(中部) 0 0 0 0 0  
西京  
(近畿)

### 関東大学OB軍決る

明日招待サッカー

来る十一日西宮で行われる朝日招待サッカー大会で関学と対戦する関東大学OB選抜軍の陣容は四日次の通り決定した。

▽監督松丸氏(慶)▽マネージャー横山氏(東)▽GK津田(慶)

佐野(早)▽FB堀口、田村  
(以上早)鈴木(立)▽HB山口  
(明)有馬(東)松岡(慶)▽  
FW松永(早)則武(神奈)二  
宮(慶)大釜(東)加納(早)  
高橋(東)

# 早、東の決勝へ

## きょう 全国大学サッカー

本社後援第一回全国大学サッカー大会第四日は五日午後一時から神宮競技場で早大対慶大、東大対立大の準決勝を挙行、早大は一軍の慶大に快勝、前日大もの中大を降した東大はタイムアップ真際OF

### 【慶大】

崎窪 松田村島角川中木

山田 小吉古竹西石山佐 10 6 8 0

GK B B K K K K  
GF H B F W O F G P

井木井 路崎田田野井田 2 6 1 1

福實長 山宮桑吉杉伯石

### 【早大】

東大 1 0 0 立大

### 【立大】

城田泉村杉田崎木坪林村

玉白小 小浜沼 鈴石高申 6 5 1 0

GK B B K K K K  
GF H B F W O F G P

石弟田 原兄井野島本 3 1 0 1 5

立柴輝 海後柴石岡中西

### 【東大】

岡野幸運なゴールをあげたも強敵立大を破り、六日の決勝は早大と東大の間に争われることになった。

早大 4 3 1 0 0 慶大

大玉城キーパーの頭上を越えて幸運なゴール成り決勝の一点となった。岡野の得点後東大は自陣右に連続二つのコーナーキックをとられるピンチに襲われたが辛うじて食い止めた。(大橋)

【評】早大は前半13分慶大RB出陣のトリップングでPKを得たが、LI伯井がバー上にあげて優位に立つ好機を逸した。しかし18分伯井左から持ち込み好シュートを放って一点をリードした。後半早大は七分の球をとり14分OF杉野、28分には左コーナーキックから山路が32分にはRI吉田がRW桑田のセンターリングをひっかけ、着々ゴールをきめて三点を追加、優勝候補を突き抜けた。

○：東、立両チームとも互角で、何れもFWの両翼が不調で、両軍パス・ワークは前日より拙劣で徒らに両ゴールを往来して得点に至らなかつたが、タイムアップ直前の33分不調だった東大RW柴沼兄が、立大陣右30分辺から中央へあげた好センターリングを前進していたOF岡野がロビング気味にシュートすれば、前進守備の立

# 東大が初優勝す

## 全国大学サッカー大会



全国大学サッカー決勝 早大対東大戦、前半38分早大FW石田のシュート惜しくもゴールのバーに当たって成らず

本社後援第一回全国大学サッカー大会最終日は六日午後零時半から神宮競技場で慶大の三位決定戦

戦が行われ、準々決勝で強豪中大を破って以来好調の波に乗ったリーグ戦最上位の東大は優勝候補早大と堂々互角の戦いを進め後半早大RB青木の自給ゴールに恵まれ2-1で勝ち初の優勝を挙げた。

△三位決定戦

立大	5	1	慶大
東大	2	1	早大

【早大】

井木 隆崎	田野	井田	4	8	14		
福青長 山崎	桑吉	杉伯石	4	8	14		
GK	石田	原見	井野	島本	1	5	14
FB	沼原	沼	立柴	坪	海峯	柴	岡中西
HB	石田	原見	井野	島本	1	5	14
W	石田	原見	井野	島本	1	5	14
OG	石田	原見	井野	島本	1	5	14
FK	石田	原見	井野	島本	1	5	14
GG	石田	原見	井野	島本	1	5	14

S 28 / 7

れしも予想しなかった。試合は風下に陣した東大のキック・オフで開始され、早くも16分東大は中盤から持ち込んだRW柴沼のパスをOF岡野右正面からシュートしてきめリードに出たが、風上の有利で七分の優勢を示していた早大にとつては当然返点出来るものと見えた。だが早大FWはゴール前の鋭さに欠け、RW桑田やLW石田がバーやポストに当たる惜しい逸機があったが、そのままするすると東大のリードで前半を終った。後半15分つまり早大はキック。

オフから一時間かかってやっと同点にこぎつけた。桑田の右からのセンターリングをLW伯井が左正面からジャンプしてヘッディングできめた見事なものだった。しかしこの同点もつかの間、17分東大柴沼のパスを受けた岡野が右から放ったシュートを早大RB青木判断を誤り自陣右すみにけ込み東大に勝利点を与えてしまった。

クスの子想外の好フィードに助けられ早大バック・ラインを衝いて得点機をつくらした。バックスも攻守に奮戦し東大の勝因となったが、問題視されていた立石キーパーも何ら破たんを見せなかったのが大きく、かえって早大の福井の方が見劣りしていた。

### 東側第一次候補決る

学生選抜サッカー

東西学生選抜サッカー試合は来る二十五日西宮で行われるが、関東蹴球協会では六日次のとおり関東側第一次候補選手二十八名を決定発表、このうち練習の結果十五名を選抜する。

- △監督 横山陽三(東大出)▽M R 村岡(教)玉城(立)福井(早)▽FB 土井田(慶)石川(明)青木(早)▽HB 長竹(慶)松木(教)大村(立)山路(早)海老原(東)三村(中)宮崎(早)浜田(立)中村(中)水島(教)▽FW 鈴木得、重松、早川(以上慶)伯井(早)鹿井、吉崎、八重樫(以上中)鈴木潔、高林(以上立)岡野(東)能勢(明)福原(教)

雨上りの悪いコンディションのフィールドも手伝って両軍のパス・ワークは困難を極め、試合内容は貧弱であったが、フアイトの東大には巨大のシュートが伯井の一本のほかはわずかのところでそれるといって、まったく東大にとっては終始恵まれた試合であった。それにしても大会中東大の得点に最もあつたOF岡野のエネルギーキックな動きは最優秀選手として賞賛されるべきだろう。(大橋)

S 28 / 7

# 慶大、関西OBを破る

## 朝日招待サッカー第一日

【大阪朝日】第十二朝日招待サッカー第一日は十日西宮球場で午後一時から慶大対関西OB選抜戦戦を挙げ、慶大は元気に動きで前半一点の差をつけ、後半になって関西OBの猛攻を受けながらも一点の差に食い止めて制勝した。

慶大 2-0-1 関西OB 選抜

【評】勝敗はきつげなくキーパーとRB山形の凡ミスで慶大が勝った。故障のGK松田に代って十何年振りに受持った加藤(東大出)は前半8分酒井の寄せに対して飛び出したが判断遅くもろくも右スミにきめられリードを許し、またRB山形は4分早川のヘッディングをミスしきめられてしまった。雨でぬれたフィールドとベストメンバーを布き得なかったとはいえ、関西はさすがに日本代表級のFWを集めただけにHBの好フィールドに助けられて七分のゴールを手ブプして慶大を圧したが極め手を欠いて慶大のリードにひき

戻された。慶大は最初バック스가気遣れししていたが、終始よく動いて堂々OBと対抗、よくチャンスをものにした。ことに新人ながら得点をかせいだ酒井と松田の出足の鋭さはよく大試合に好防を見せる土井田の美技とともに光っていた。廿八本に上った関西の猛シュートを好防したキーパー茂木の好プレーも見逃さない。関西はワザに勝って試合に負けただの感が深かった。(大谷)

### 【関西OB選抜】

出出出 出出出 出出出 出出出  
 大大大 大学大 大学大 大学大  
 (東大) (早大) (関大) (関大)  
 藤形田 角本田 川谷田 田  
 加山岡 西杉宮 湯賀岩泉和  
 GK FB HB FW  
 木田島 井竹川 木井松川 沢  
 茂井 坂  
 茂井北 小島荒 鈴木重原 松  
 (慶大)

# 関東(OB)関学を破る

## 朝日招待サッカー第二日

【大阪朝日】第十二朝日招待サッカー大会第二日は十一日午後一時三十分から西宮球場で関東OB選抜対関学大の試合を挙げ、関東OBが勝った。

関東OB 4-3-1 関学 選抜

【評】関東OBは前半10分RW則

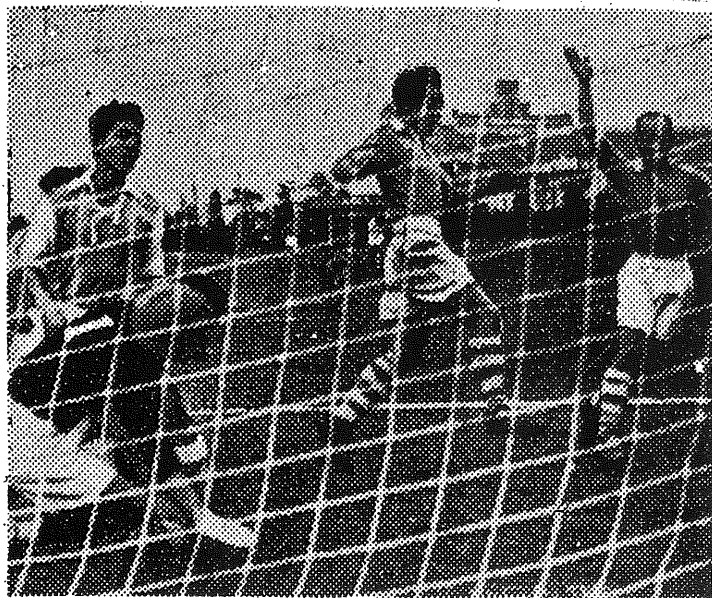
武が右コーナーの近くから大きく送ったセンターリングを関学のGK生駒がゴール・ラインギリギリで上にはじこうとしたが、姿勢がよくずれてその場に戻上げたところをLI大藤突っ込んでゴールをあけた。劇的に早い得点でリードした関東は楽な立場に立ち、後半は二宮の個人技が大きくものをいって27分には左コーナー・キックからヘッディングで、29分にはシュートで、30分には再びヘッディングで見事な得点を彼が重ねて優勝した。関東OBは学生にも劣らぬ動きを見せ、前半はR山口、RB堀口の出来が悪いが後半にも立ったが、OF二宮が早い出足でボールを拾い相手バックスの布陣をみて左右にさばり球はきかチャ

### 【関東OB選抜】

出出出 出出出 出出出 出出出  
 大大大 大大大 大大大 大大大  
 (早大) (東大) (神大) (早大)  
 田口村口馬岡 武永宮藤  
 建堀田(山有松)則松(二大加)  
 GK FB HB FW  
 駒木井 本木田 村沼 藤島 武  
 佐立志 岡佐村 木長佐中徳  
 (関学)

### 【関学】

S 28 / 1 / 12



前半10分関東OB大藤のシュート成る

ンスを生んだ。後半は関学鋭い出足に遭ってオープンへの展開が少くなったけれども、二宮の個人技がものをいっていた。またLI大藤は彼らしい多様な動きで二宮を良く助けていた。関学は出足も良く中盤では昨年末の対慶大戦より活発であったが、それからの展開に有効なパスが少なかった。LW徳弘は速いパスでしばしばチャンスを生み、後半28分LI中島からの大きな縦パスを突っ込んで得点したが、センターリングがうまく度重なる突進も実を結ばなかった。(大谷)

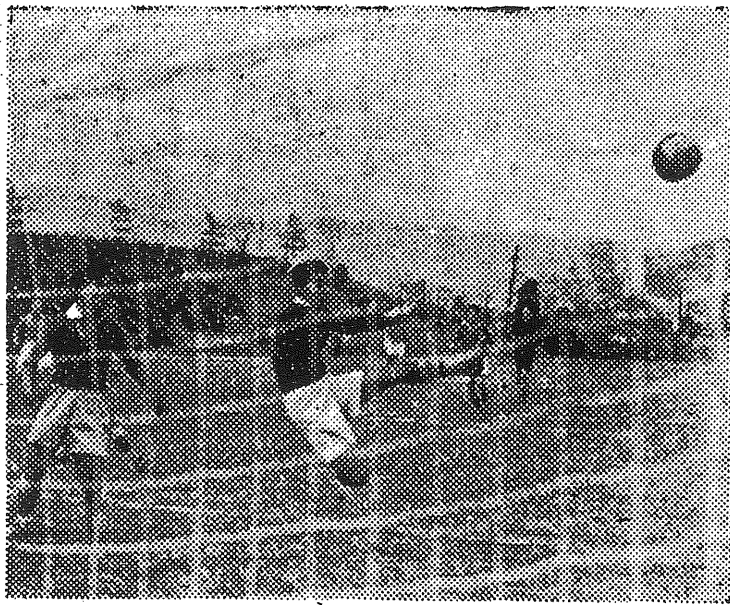


# 関東軍辛勝

## 東西学生対抗サッカー

【大阪発】東西学生選抜対抗サッカー戦は二十五日午後二時から西宮球場で挙行、優勢を予想された関東は終始攻勢を続けながらも関西の必死の健闘に全うして思わぬ苦戦の後辛勝した。

【西】個人技に優れた関東は前半風下でもボールを多くキープしたけれども技の劣勢を覚悟していた関西は動きでこれを補おうとする



前半15分東軍の攻撃を西軍GK生駒パンチで防ぐ

### 関東側選手決る

対関西サッカー

二十五日西宮で行われる東西学生選抜サッカー試合に出場する関東側選手は次の十五名に決定した。

- △GK村岡(教)玉城(立)▽
- F B 土井田(慶)青木(早)石
- 川(明)▽H B 鹿井(中)松本
- (教)三村(中)山路(早)▽
- F W 鈴木(慶)早川(慶)重松
- (慶)伯井(早)岡野(東)高
- 林(立)

S 28 / . 21

闘志が鋭く、数少ないチャンスをよく活かして前半をリードした。31分関西守勢の時GK生駒のキックが

大きく中央線を超え、関東GH松木がゆつくりクリアしようとした瞬間OF徳弘が猛烈に突っ込んでかっさらい、中央を約五十ヤード走して極めたのは、関西の闘志が徳弘に結集して現われたプレーだった。関東は41分関西GK生駒が関東右からのパスに判断を誤って流した球をL I 伯井シュートして返したが、後半も八分以上の圧迫を続けながらも最後のシュートの機会に気合抜けの感があつてなかなか得点できずに苦戦した。後半32分FKからLW岡野もこみ同点とし、34分再びFKをOF重松クリーン・シュートしてようやく勝った。

F W の右サイドの慶大三人とRH 鹿井が攻撃の主力となつてチャンス度々作つたから、シュートに鋭さがあればこれほど苦しまなくてもよかつた。関西は前半徳弘をOFに倒した布陣は確かに新味をもつたもので大きな、早いパスで攻めた。しかし時間の経過とともに個人技の差は次第に現われた。病気の仁木(関学)にかわつたGK生駒は前進の時機悪くタツチも不確かを際々、バックスの不器用さくさいが、失点にはいさげない。

この欠点が影響していたとみえる。勝負は美力の差であり、また東西両リーグ戦の激しさの差でもあった。(大谷)

### 【関西】

- (学)学大(大)学学大(大)
- (関)関大(関)関大(関)
- 駒木井遠田村田弘 先
- 生志信信三木村徳 新
- GK FB HB FW CKKPK
- CFGP
- (教)早(中)教(慶)慶(早)東 143110
- 岡田木井木村木川松井野
- 井
- 村土青鹿松三鈴早重伯岡
- 【関東】

### 3-3で引分け

全関東選抜対YCACサッカー

今月末西宮で行われる東西対抗サッカー戦に備え編成された全関東選抜は一日前十一時半から横浜YCAC球場でYCACと対戦3-3で引分けした。

- 全関東 3 2 1 2 1 3 AY 00

### 【全関東】

- (大)出出出出出出出出
- (教)早(早)教(慶)慶(早)東
- 岡口村口木岡木川松整納
- 村堀田山松松(鈴)早重(大)加
- GK FB HB FW CKFK GK
- 7 9 15
- ナルク リンナルン
- ドイッソ ナオラグシ
- マロデヤドフフブエス
- YCAC

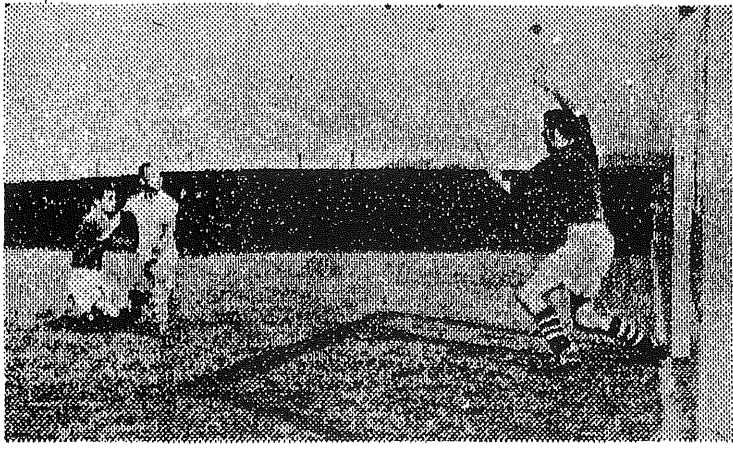
S 28 . 3 . 2

### 全関東が快勝

対在留外人選抜サッカー  
全関東対日本在留外人選抜のサッカー試合は十五日午後三時から横浜YCAC球場で挙行、全関東が5-1で快勝した。

- 全関東 5 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1 0 1 0
- 【関東】

【西】名手二宮を中心とした関東FWは全員はつらつと動き、18分LW加納のヘディングから始まり、23分早川、26分大巻、32分加納、43分大巻と連続外人ゴールを攻め立て、早くも前半で勝敗を決定



- (横)横(横)横(横)横(横)
- ドスストケンズケン
- ルクレリ シンツッ
- ナックリ ミンゲン
- ドッソネ レッソ
- マデアドハフスロヤバ
- GK FB HB FW CKFK GK
- 7 6 7
- 出(大)出(大)出(大)出(大)出(大)
- (慶)早(早)文(慶)慶(早)東
- 田田路口兄岡木川宮整納
- 井
- 津上川山松松鈴早二天加
- 【全関東】

【西】この前半の圧倒的ゲームに引きかえ後半はOF二宮、L I 大巻が追々重松、松永弟が入ったが前半ほどスムーズにパスが通らず加点し得ずに終った。外人軍は前日のインナーポト戦のあとだけにYCACが3-1で勝つて元気がなく、ゴール前の鋭さに欠け一方的に押され、わずかに後半24分L I パッカーのゴールで辛くも敗戦を免れた。

(大橋)

関東は前半32分ごろ中央辺のパスを受けて加納がすみにシュートなる。GKはマクドナルド

S 28 . 3 . 16

全関東優勝

対東大サッカー

全関東選抜軍対東大のサッカー試合は十七日午後三時半から東大球場で進行、全関東はベスト・メンバーを布くことが出来ず、東大の健闘の功め若狭一太が後半末にマキと見せし下重松が二点、シロ

鈴木が一点を挙げた。
【東大】 3 0 1 東大

石川田 原良 本島野沼本
立中坪 海津 藤中 岡柴西
GK FB HB FW
大(大出)大(大出)大(大出)
教(慶)明(早)慶(慶)立(立)
岡(田)木(口)路(城)木(川)松(林)木
井
村(土)青(山)山(玉)鈴(早)重(高)鈴
【全関東】

関東選抜勝つ

対中大サッカー

関東選抜軍対中大のサッカー試合は二十六日午後三時四十分から東大球場で進行、関東FWは七分の球をキープしたが、ゴール前の鋭さに欠け2-1の辛勝に終わった。
【東大】 2 2 1 中大
選抜軍 2 0 0 中大

メンバー決る

全東西選抜サッカー

【大阪発】来る二十九日西宮球場で行われる全東西選抜対抗サッカー試合の両軍メンバーは十八日関西蹴球協会から次のとおり発表された。
【東軍】▽監督 松丸貞一(慶出)
▽マネージャー 横山陽三(東出)
▽GK 津田(慶出) 村岡(教出)
▽FB 堀口(早出) 田村(早出) 土井田(慶) 青木(早)
▽HB 松永信(教出) 山口(明出) 松崎(慶出) 山路(早) 鈴木吉(立出)
▽FW 加納(早出) 二宮(慶出) 大益(東出) 重松(慶) 早川(慶) 鈴木得(慶) 松永碩(早出)
【西軍】▽監督 川本泰三(大阪)
▽マネージャー 牧野悠治(関学)
▽GK 生駒、仁木

S 28. 3. 19

関東選抜軍勝つ

対東大サッカー

関東選抜軍対東大のサッカー試合は二十四日午後三時四十分から東大球場で進行、前半関東は出足の鋭いしかも組織力に富んだ慶大に苦戦したが、後半地力を発揮両野大益、重松が連続シュートを決め5-1で大勝した。
【慶大】 5 1 1 慶大
関東選抜 4 0 1 慶大

S 28. 3. 25

四月五日に日延べ

東西対抗サッカー

【大阪発】二十九日西宮球場で行われる予定の全東西選抜サッカー試合は都合により四月五日に延期された。
【東大】 2 2 1 中大
選抜軍 2 0 0 中大

一、二回戦組合せ決る

全日本サッカー関東予選

全日本サッカー選手権関東予選は十八チーム参加で十二、十八、十九の三日間武蔵野、東伏見両球場で行われるが、一、二回戦の組合せは一日次のようきまつた。なお三グループの勝者三チームが本大会(五月上旬京都)への出場権を得、昨年大会に優勝した全慶大は推薦で予選を繰り出して出場する。
◇Aグループ(二回戦から出るのはシード・チーム)
▽一回戦(A) 教育対日産化学(B)
東大(B) 対学芸大
▽二回戦(A) の勝者対W.W.(B) の勝者対中大
◇Bグループ
▽一回戦(A) 全立大対慶大(B) 教大対豊島

関東選抜軍勝つ

対立大サッカー

関東選抜軍対立大のサッカー試合は一日午後三時半から東大球場で進行、関東が8-1で大勝した。
【東大】 8 0 1 立大
選抜軍 8 0 1 立大

五月五日に日延べ

東西対抗サッカー

【大阪発】二十九日西宮球場で行われる予定の全東西選抜サッカー試合は都合により四月五日に延期された。
【東大】 2 2 1 中大
選抜軍 2 0 0 中大

▽二回戦(A)の勝者対日本本社(B)の勝者対早大
◇Cグループ
▽一回戦(A) 東芝府中上場対東京蹴球団(B)
学習院対立大
▽二回戦(A) の勝者対中大(B) の勝者対明大

カギはFWの調子

東西対抗サッカー予想

東西サッカー対抗試合は五日午後二時から西宮球場で行われる。両軍の実力は互角で何れにも優勢をつけ難い。まずFWでは関西は右から全日本代表の堀田、賀川、川本、岩谷に関学の名ワインク御弘を配しての申し分ない布陣。ただ年齢的に見て四十歳の川本を最高にOBが多く九十分の長試合を大過なくこなせるか危ぶまれる。このことは二週間前の全岳島と東洋工業の対戦でも現われ、思わぬ敗北を喫している。
そこへ行くとも関東の方は今シーズン関東大学、東西学生二位対抗に優勝した慶大の名トリオ鈴木、早川、重松が並んで右サイドを固め、これに連携を見せている大益(東出)老巧加納が配

されて個人技にも関西は劣らざらに若さと動きに期待出来る。強力なラインを形成している。従って関東FWが関西の老巧ペースに引込まれずしっかりと球を追えば勝機をつかめよう。
バックスは関西に有利で特に田、杉本、高田のハーフ・ラインは全日本級で強い。関東はOJは本兄の確実性が見られるのみで、他はスピードもキックも劣る。だしキーパーは全日本の津田(出)が依然堅実なフィードバックを示し関西の仁木より勝っている。

↑ S 28. 4. 3

S 28. 4. 4

# 東西引分け

## 選抜対抗サッカー戦

【大阪発】東西選抜対抗サッカー試合は五日午後二時から西宮球場

### 【関西】

学出出出出出出出出学  
大学学大学学学学学学  
関関関関関関関関関関関  
駒木由木由木由木由木由

生平岡紫杉宮崎宮川徳  
GKB HB FW KKKK  
GF HB FW OGGP

出出出出出出出出出出  
大大大大大大大大大大大  
慶慶慶慶慶慶慶慶慶慶慶  
田田田田田田田田田田田  
井水 水 水 水 水 水 水

津土山山松松松松松松大加  
【関東】

場で行われた。関東は前半攻勢に立ってリードしたが、後半関西が立直って強庄を加え逆転するのではないかと思われたが、PKが一点に止りついに引分となった。これで関東は十一勝六敗三分の成績となった。

関東 1 0 1 0 1 関西

【評】関西はキック・オフとともに攻め込んだが関東も間もなく攻勢に転じて前年は大関東の圧迫のうちに過ぎた。7分LW加納のシュートがポストに当たったのをきっかけにチャンスは続き13分になつてリードを奪ったRL早川が縦パスを受けて右寄りに関西バック

でもゴールは引っかけ得点した。関西は41分右から大きく回してL山本がゴール前を流しLW徳弘が切り込んでシュート、関東 GK津田がOKに逃がれたのがた一つのチャンスだった。関西はヘッドインクに努力、またRWの動きが弱くキープ出来ず、関東の早い出足にほとんど球を奪われていた。

○：後半になり関西は立直った。16分関東 GK津田のホールディングからPKを得て同点にした。後半は逆に関西の強い圧迫が大半を占め、また得点する機会も多くあったが、関東バックスの密集中を突破するほどの鋭さが見えなかつたのが欠点だった。同点になつて試合は急に激しさを加え、ようやく東西対抗らしい空気になつたが終りに均衡は破れなかつた。(大谷)

## 東大勝つ 対京大定期サッカー

第三回東大対京大のサッカー定期戦は七日午後二時から東大グラウンドで行われたが東大が8-2で京大を破った。

東大 8 2 京大  
2 6 1 1 2 京大

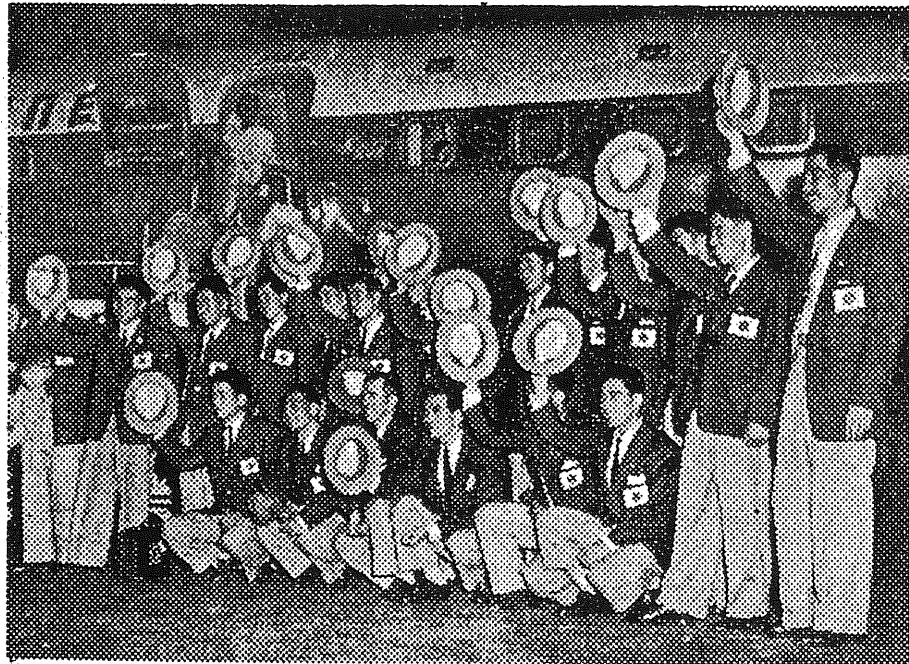
S 28 . 6 . 8

## 昨夜、西独へ出発

学生サッカー・チーム

八月ドルトムントで行われる国際学生スポーツ週間大会に出場する日本学生選抜サッカー・チーム一行二十名は竹腰豊吉に引率され二十四日午後九時二十分羽田発のF

S 28 . 7 . 25



乗込りに集まる学生サッカー・チーム (羽田)

## 十月四日から開く 関東大学サッカー

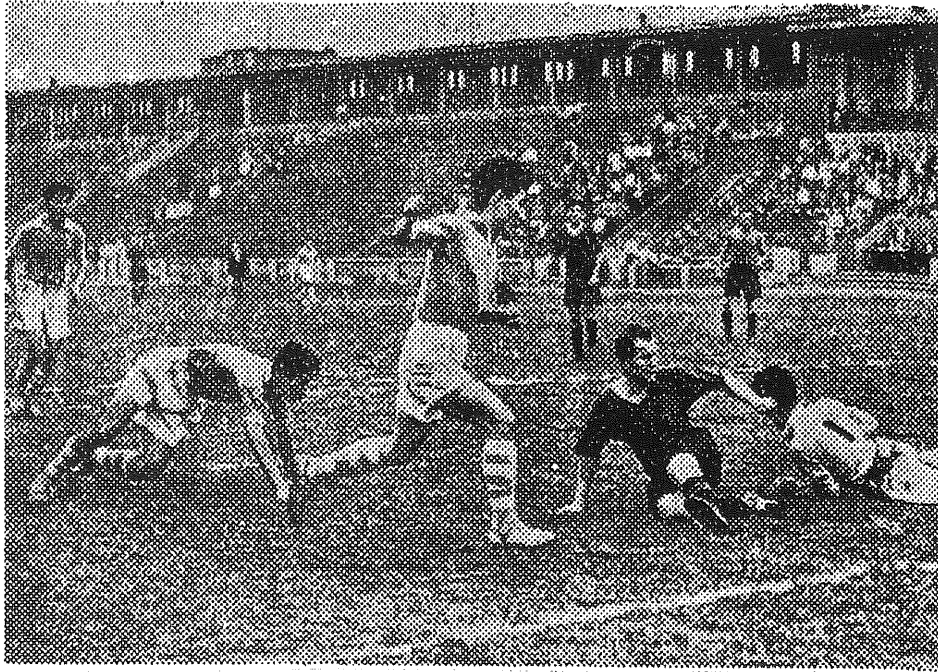
秋の関東大学サッカー・リーグ戦は十月四日から開幕するが、二十四日関東サッカー協会からスケジュールが次のように発表された。

▽十月四日 大対東大マ二十一日 中大対東大、早大対数大、立大対東大マ二十五日 中大対東大、大対明大マ二十八日 中大対東大、早大対数大、立大対東大マ十一月一日 早大対数大、立大対東大、慶大対数大マ十四日 明大対東大、中大対早大マ二十一日 数大対東大、中大対早大マ二十二日 早大対慶大マ二十八日 明大対数大マ二十九日 早大対立大、慶大対中大、なぞグラウンドは十月十一日の武蔵野を除き全部神宮競技場を使用、また試合開始時刻は一試合の場合午後三時、二試合の場合は午後一時、三試合の場合は午前十一時。

S 28 . 8 . 25

# 全日本学生軍惜敗す

## 2-0 対西独キッカーズ戦



キッカーズ対全学生軍、後半二分キッカーズゴールに侵入したがGK村岡の活躍でシュートの精度を失い、後半キッカーズはゴールを奪取できなかった。

オツンペンパツハ・キッカーズの第戦、対全学生軍は神宮競技場で十一日午後四時半から挙行。

これに先立ち國旗掲揚、花東贈呈の後、ナント交換がシュライナー、山口両キャプテンの間で行われた。空は一面の雲におおわれて太陽光線に悩まされることとなりラウンド・コンディションも快適であった。試合は学生軍のキックオフで開始され、GKの教が不すとおり、終始キッカーズは巧みなヘディングを足らざる一方的な優勢裏に攻めた。学生軍は防備一点ばかりで、とついで得点は取れなかつたが、よく健闘して前半無得点に抑えた。後半も三十分に至るまで得点なくキッカーズは30分、40とシュライナー、ウェーバーがあげた二点で決着した。

キッカ 2-0 0-0 全学生  
1-0 2-0 0-0

【全日本学生】

- 大B) 学B) B) B) B) B) 大B) 大B)
- 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
- 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大
- 教 教 教 教 教 教 教 教 教 教
- 岡 岡 岡 岡 岡 岡 岡 岡 岡 岡
- 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田
- 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井
- 村 村 村 村 村 村 村 村 村 村
- 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土
- 平 平 平 平 平 平 平 平 平 平
- 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山
- 井 井 井 井 井 井 井 井 井 井
- 鈴 鈴 鈴 鈴 鈴 鈴 鈴 鈴 鈴 鈴
- 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小
- 岡 岡 岡 岡 岡 岡 岡 岡 岡 岡
- 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長
- 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳 徳
- GK B B B B B B B B B B
- GF F H F W O F G P
- ニ ル ト ム ト ス テー
- マ ラ ナ ッ ル フ
- ー グ イ ホ ヴ ル
- マ ト ミ イ セ ー
- ン ナ ャ フ ラ セ
- ン ャ ニ ユ ウ イ
- チ シ マ シ シ カ カ ク ア フ ワ
- 【キッカーズ】
- △交代【キッカーズ】マ F W キル
- ハ イ W F B ケ ン メ ラ ー【学生軍】
- マ H B 岩 田 (関 六) 三 村 (中 大)

### GK村岡活躍

【解】キッカーズは五分まで左右三つのコーナー・キックをこる優勢を続け九分学生軍OH山路のハンドでPKを得たが、ゴール左をホラったR1クラウスのキックをGK村岡左ボスト際で好守、ピッチを逃がれた。その後キッカーズは依然優勢を続けRWカウフホルト、OBフライセンデルフアーR1クラウスが交互にロング・シュートを浴びせたがいずれも村岡の善戦に会い空しくなった。

学生軍はゴール前にもって行なはげがせい一杯でスピードあるランニングとヘディングの有利なキッカーズに敵せずチャンスを生み得なかつた。キッカーズの攻撃はゆるまらず三シュートを浴びせたが、この日当たっていた村岡の美技に阻まれ得点にいたらなかつた。R1クラウス、GK村岡とぶつかり左眼の下を切り退場、キルハーと交代、一点のリードを争う両軍は熱戦を展開したが得点にならなかつた。

うやく三十分になり、ゴール正面でOFフライセンデルフアーが右へ流したのをFW線に参加していたRHシュライナー主将がすかさず右からシュートして0-0の均衡を破った。さらに四十分シュライナーの中央へのパスをLWウェーバー見事にヘディングで決め2-0で辛勝した。

スコアは2-0だが内容はさく開いた。仮に両軍のシュート数を見てもキッカーズの七十九に対し学生軍は十一で、この十一の中でも自立したのは前半24分のRW鈴木と後半25分LH三村の二つだけだったとはいえず学生軍の好防は七十五分に至るまでキッカーズに得点を許さず大出来だった。殊にGK村岡は運もよかつたが、まったくすばらしい出来を示した。キッカーズは鋭い出足、巧みな球さばき、無理のないパス・ワークで学生軍を圧したが、意外な学生軍の好守に阻まれ、さらにクラウスの負傷退場でコンビを乱され得点機を逸した。しかし後半に入ると学生軍バックスの疲弊に乗じてシュライナー、ウェーバーが得点して面目を保った。学生軍は前半の不振に引きかえ後半かなり対等に戦ったが、両ウィングやOFの活躍に引きかえ両インナーのフォロワーが足らず、キッカーズ・ゴールをゆさぶるにも至らなかつた。キッカーズのニゴールは少し期待外れの感があったが、彼らの学生軍を終始押し切った攻撃のうまさにはさすがであった。同時にがっちりがんばり少放得点に止めた学生軍バックスの健闘は注目された。(大橋)

# キツカーズ快勝す

## 全日本、遂に圧倒さる

西独サッカーチーム、キツカーズの最終試合、対全日本は十四日午後二時半から観衆二万余を集め神宮體育場で行われた。試合に先立ち両国国旗の掲揚、川本シユナイナール両主将の間でペナント交換、ハリコフターから五色のテープを引けたボールの落下があつてキツカーズの先しゆで開始された。キツカーズは慎重にして確実な球ばかりで全日本軍を圧倒し前半早くも二対〇とリードした。全日本の攻撃は惜しまれるチャンスも二、三あつたが散発に終り、九対〇でキツカーズの快勝に終つた。

### 試合経過

キツカーズ 2-0-0 全日本 7-0-0

①：風下のキツカーズのキツクオフで開始、キツカーズのキープ力強く最初から日本ゴールを圧倒、11分から17分にわたりR1クラウス、RWカウフホルト、OFナライゼンデルフアー、RHシユナイナールが交互に強シユートをあびせたが、わずかにゴールをそれて得点に至らなかつた。全日本は川本、岩谷、加納の左サイドがチャンスをつとめたがシユートするまでに至らずキツカーズバックスの鋭い防壁に防がれた。とくに期待されたRW二宮には開始から20分まで球が渡らないという脅威ぶりであつた。

②：キツカーズは21分まで第一点を取らなかつた。左からLWウェーバー持込みゴール前に出ていたOFナライゼンデルフアーにパス、ナライゼンデルフアーは頭で止めてすぐ左からなめにクリンシユートをきめた。28分全日本は中央を動いたR1齋川から右へ好パスが出たがRW二宮堪く惜しくもはずして好機を逸した。

③：キツカーズは依然優勢をつつた。41分中央線からRHシユナイナールは鋭いパスでRWカウフホルトに左ヘンセンターリングすればOFキルハール(負傷退場したナライゼンデルフアーの代りに出場)がみごとにかめて前半をキツカーズ2対0とリードした。

④：後半に入り風上に向つたキツカーズの攻撃は鋭さを増し、14分R1クラウスが三度目をあげ、21分、OFキルハールのパスすれば、クリンシユートで4-0と開かれてからは全日本はゲームを捨てた格好でキツカーズのじゆうりなを許してしまつた。

⑤：かくてキツカーズは日本ゴールの圧迫をつつてR1クラウスが三本、RWカウフホルト、L1ウェーバーがそれぞれ一本ずつゴールをきめて5-0に五点を追加、9-0で大勝した。

【評】学生軍に苦戦をしたキツカーズは始めから慎重かつ積極的の攻め、完全にゲームを自己の手中に取つて快勝した。威力あるFW

の寄せ、忠実なバックスのマークは鋭い出足と相まって全日本を圧倒したが、中にも攻防に広いカパーリングを見せたRHシユナイナール主将、シユートにキープ力に断然強さを示したRWカウフホルトR1クラウス、OFキルハールのプレーは印象的である。

期待された全日本は一点もとれず惨敗した。これは実力に劣る上にさらに平均年齢六歳の違いが大きいものをいい、後半にはバックスはゴール前に立ったきりてはずとこぼるなく、キツカーズFWのシユートを許してしまつた。

それでもシユート数はキツカーズの48に對して11となつて居るが、全日本で見られたシユートは前半44分RW二宮がキープの腹を襲つたのと、後半15分L1柴田のぐらゐであつた。R1齋川などは後半キツカーズのバックスを抜いてフリーとなりながらもシユートの機

この全日本の惨敗は対キツカーズ戦に一番期待された日本チームだけにスタンドを失望させた。顔あげ並べて、チームワークを捨てたも九十分をまともに対抗出来ないようではこの惨敗も止むを得ない。

全日本チーム中八名までが昭和二十三年以来変更のことない古顔の第一線選手で、ヨーロッパの強敵を迎へてもそのままでの顔ぶれで対戦させたのが失敗といえよう。よからしくヴェテランは新進の選手にバトンを譲るべきで、若い学生チームが同じチームをわすれる点で食いとめた健康ぶりを見逃してはならない。(大橋)

#### 西独派選選手決定

八月九日から十六日まで西獨バルトント市で行われる國際學生競技大会に派遣するサッカーの日本代表選手が十四日日本足球協會理事から発表された。

- 監督 藤重丸(東大出) 副監督 松丸(慶大出) ママネシヤ(大谷四郎) 東大出) マフオワト(木村現) 関学出) 鈴木(徳大) 長沼健(中上) 岡野俊一郎(東大) 小林(立大) 寛晃一(関大) 徳弘隆(関学) バックス(小田) 三之助(早大)

※ 左のページに写真

※右から、左へ、右へ、左へ



西独キッカーズ対全日本サッカー、後半20分、日本ゴール中央前がらCFキルハのゴールシュートなる。右二人目からCFキルハ、CH松永、FB加藤、GK津田——神宮護技師。

S28.6.15









# 学生サッカー 欧州を往く

④

イギリスは、サッカーの強国である。その強さは、戦前から戦後まで、常に世界のサッカー界をリードしてきた。特に、戦後の欧州選手権では、イギリスは常に優勝候補の筆頭として挙げられてきた。その強さの秘密は、長い歴史と伝統にある。イギリス人は、サッカーを単なる娯楽ではなく、一種の文化として大切に守り育ててきた。その結果、彼らは常に世界最高の選手を輩出してきている。そして、その強さは、これからも衰えることなく、世界のサッカー界をリードし続けるであろう。

イギリスのサッカーは、戦前からの歴史がある。その強さは、戦後の欧州選手権では、イギリスは常に優勝候補の筆頭として挙げられてきた。その強さの秘密は、長い歴史と伝統にある。イギリス人は、サッカーを単なる娯楽ではなく、一種の文化として大切に守り育ててきた。その結果、彼らは常に世界最高の選手を輩出してきている。そして、その強さは、これからも衰えることなく、世界のサッカー界をリードし続けるであろう。

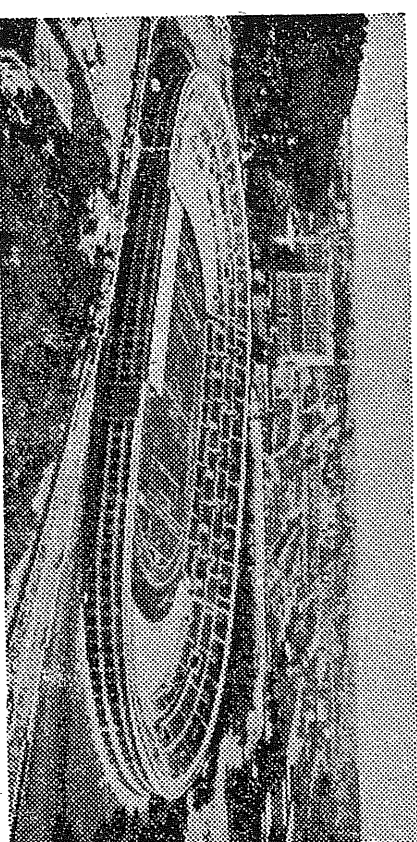
## 物すごい観衆の熱狂

イタリア・リーグの試合をみる

新聞紙に火をつけてふる

イタリアのサッカーは、戦後の欧州選手権では、イタリアは常に優勝候補の筆頭として挙げられてきた。その強さの秘密は、長い歴史と伝統にある。イタリア人は、サッカーを単なる娯楽ではなく、一種の文化として大切に守り育ててきた。その結果、彼らは常に世界最高の選手を輩出してきている。そして、その強さは、これからも衰えることなく、世界のサッカー界をリードし続けるであろう。

イタリアのサッカーは、戦後の欧州選手権では、イタリアは常に優勝候補の筆頭として挙げられてきた。その強さの秘密は、長い歴史と伝統にある。イタリア人は、サッカーを単なる娯楽ではなく、一種の文化として大切に守り育ててきた。その結果、彼らは常に世界最高の選手を輩出してきている。そして、その強さは、これからも衰えることなく、世界のサッカー界をリードし続けるであろう。



# 教大、優勝候補へ

## 関東大学サッカー 慶大を零敗に退く

関東大学サッカー・リーグ早大対明大、立大対東大、慶大対教大の

関東大学サッカー	成績
立大	100
早大	222
明大	222
東大	222
慶大	222
中大	222
立大	222
早大	222
明大	222
東大	222
慶大	222
中大	222
立大	222
早大	222
明大	222
東大	222
慶大	222
中大	222

# 慶大、東大に勝つ

## 関東大学サッカー開幕

関東大学サッカー・リーグは四日午後二時から神宮競技場で慶大対東大戦で開幕、優勝候補の慶大は昨年と比べて劣ったが、後半東大の疲労に乗り連続得点4-0でシリーズ第一戦をかきった。

立大	中野	山藤	岡島
GK	FB	HB	FW
4 CK 1	2 FK 19	9 GK 27	

三試合は一日午前十時半から神宮競技場で進行。早、立が順当に勝ったあと教大は昨年の優勝校慶大を零敗させる番狂わせを演じ、有力な優勝候補となった。早大3-0、明大0-0、東大0-0、立大0-0

野間保	島塚	井野	勢木	沼久
GK	FB	HB	FW	
8 CK 11	8 GK	6 CK 12	14 FK 14	

【評】早大は前半風上の有利から10分LR加計のあげたチャージボールを明大キーパー牧野ミスして一点。さらに33分にはLW西本のシュートを牧野がはじいたところをRW吉田きめて加点、44分には吉田からRI織田に渡ったパスをLI平林フツシュートで前半に計三点をあげ勝利を決定した。両軍の力量は五角だったが明大は強風下に適しないシュート、パスを用いて失敗し、さらにキーパーの再度にわたるミスがたたって自滅した。早大はRH小田島を中心とするハイフ陣が活躍、FWもよく球を追って勝利をつかんだ。

立大	3-2
早大	0-0
明大	0-0
東大	0-0

【評】東大は立大に二点を先取されたあとLH浅見がきれいなハッディングで一点を返して前半をよく2-1と食いついた。後半には東大は風上に立ってよく攻め六分の球をキープして24分RB柴沼の好センターリングからチャンスを生み、OF岡野がきめて2-1の同点として試合を面白ものにした。しかし東大の備闘もつかの間タイムアップ五分前立大LI浜田

【評】前半は両軍の激しい攻防戦に始まり慶大は10分ごろより地力を出しキープ力よく一方的に東大陣を圧したが、岩淵、松沢、重松らが連続東大ゴール・ポストやパーに当てる不運あり、17分混戦から重松がシュートしてあげた一点にとどまった。後半は東大ががんばり接戦を見せたが、両軍とも凡シュートに終始した。しかしタイムアップ前六分間に東大バックスの疲れに乗り慶大は山中、松沢、重松が連続シュートをきめて三点を追加した。慶大FWは小林、鈴木のゴール・ゲッターを失って昨年のような威力なく、重松、岩淵、松沢の強い左サイドに比べて右側が劣り苦戦していた。それにスピードとキープ力に優りながら余りにもOF重松に頼り過ぎたのは当を得ていなかった。

【評】教大は風下ながらよく攻め20分左コーナー・キックからの好送球をRI福原弾射に突込んで先取点をあげ、さらに34分慶大ゴール前の混戦からこれれ球をRW保坂巧みにひっかけ前半を2-0とリードし、このまま押し切った。

【評】教大は風下ながらよく攻め20分左コーナー・キックからの好送球をRI福原弾射に突込んで先取点をあげ、さらに34分慶大ゴール前の混戦からこれれ球をRW保坂巧みにひっかけ前半を2-0とリードし、このまま押し切った。

勝った。期待された慶大FWの寄せはさすがうまくいったが、頼みのOF重松は教大バックスの厚いディフェンスにつぶされ、またLI岩淵、LW松沢もかなりのチャンスを迎えたが、持ち過ぎがたつて空しかった。それに右サイドの弱いのが慶大のフレイキとなっていた。教大の勝因はハイフ、フルバック陣が攻防に慶大に勝っていたのに加え、新人で固めたFW陣がよくがんばりて球を追ったところにあった。バックスではOH小宮、RB小沢の広範なカバーリングがキーパー村岡の好守と共に光っていた。教大はこれまで対早、立、慶の三戦に失点0という好ディフェンスを示した。番狂わせとはいえない教大の堂々たる勝利であった。

立大	2	0	0	0
早大	3	1	0	0
明大	0	0	0	0
東大	0	0	0	0

S 28. 10. 11  
サッカークエスト 関東大学リーグ一部 (武蔵野)



早大対東大サッカー後半15分、早大コーナー・キックからFW堀沢(中央10番)ヘッドインでゴールをならすも後援してゴールならず(神宮球場撮影)

# 早と慶が勝つ 関東大学サッカー

関東大学サッカー・リーグ第三回は十八日午後一時から神宮球場で早大対東大、慶大対明大の二試合が行われた。

早大	3	0	1	東大
早大	3	0	1	東大
島井井島	田林野沢本			
中長敏小	田岡朝	吉平杉堀西	16	6
GK B				
GK B				
GF HB	FW	CF GK		
石田沼本	見本野野口	CF GK	4	9
立福築山	浅藤島崎中浜	CF GK	14	

【早大】東大は開始こそにもよく攻め廿五分RW藤本の好パスをOFD岡野が決め前半リードした。東大の攻法は縦パスをリカーの岡野に合わせる一点張りだった。岡野がアシミに持ち込んだも中央に決め手がいないのは致命的であったが、前半この攻法が結果的に見てもよかった。この一点は十数本の縦パスのうちの一本が早大バックスのちよとした気のゆるみから得たもの、ウラを返せば早大にとつては寸分の心のゆるみがかえしのつかぬものになるかも知れぬよい標本になったといえる。しかし早大のこの不覚はバックスの過失というより責任はどちらかといえは六分四分の優勢に攻めていた

FWにぶるといえる。しかし後半ほとんど一方的に攻めた早大はさすがであった。

【慶大】前半ほとんど防戦を余儀なくされGK立石の好守も見逃せないが、フィードが悪く岡野を中央突破させることのみを焦り胡小田島のHJ陣にまんまと止められていた。ウィングに一度はききそれからOFD岡野に合せていたら後半完敗しなくてはならぬ。早大は十二分平林のセンターリングを堀沢が東大バックスと競り合いつぼれ球を西本が、三十一分敏井が中盤からきれいな縦パスをとおし、中央に入ってフリーになった平林が、さらに四十分敏井が混戦からフツシュでそれぞれ決め三対一と勝利を不動にした。(中条)

【早大】前半昨年の優勝校慶大に対し、気力あふれた明大FWは良いところまで行きながら球を持った

慶大	2	0	1	明大
慶大	2	0	1	明大
崎崎島井澤川野中松淵沢				
山宮北小出荒土山重岩松	4	9	14	
GK	HB	FW	CF GK	
野岡保村塚場沼	勢木井	2	12	0
牧赤大松大斎稻	能村新			

【明大】前半昨年の優勝校慶大に対し、気力あふれた明大FWは良いところまで行きながら球を持った

# 三チームメンバー決る

## 対ユールゴルデン・サッカー

十九日來日するスウェーデンのユールゴルデン・サッカー・チームと対戦する全日本および全関東のメンバーは九日、日本蹴球協会から次のように発表された。なお未定だった対全関東戦の球場は二十五日夜後楽園球場と決定した。

◇全日本第一戦(22日大阪球場)▽

# 教大、中大にも勝つ

## 関東大学サッカー 慶大は立大に敗る

関東大学サッカー・リーグ慶大対立大、中大対教大の二試合は八日午後零時半から神宮競技場で挙行、不調の慶大はこの日も立大に敗れ、前週慶大を破った教大は強敵中大を降して優勝候補ふりを発揮した。この結果、立は三勝一

立大 3 2 1 0 1 慶大

(主審村形)  
(歴大)  
崎田島井 澤川野中山 淵松  
山吉北 小出 土山 石岩 重  
GF FB HB FW  
CF GK  
城坪山 村野岡 森木 島林中  
玉石 景大神 村横 鈴坪 高田  
(立大)

教大 2 1 1 0 0 中大

(主審二宮)  
(中大)  
林尾村島 村原 賀野 沼山  
小松三孝 中吉 芳日 長内  
GF FB HB FW  
CF GK  
岡沢津 原富山 坂持 沢木 中  
村小弥 宮小畑 保富 深 鈴山  
(教大)

(中大)

野井保島 塚場 井沼 勢木  
牧(中大) 大久保 斎新 相能 村  
石田 沼本 見口 田本 島本  
立福 梨山 浅浜 島西 中藤  
(中大)

# 東大と中大が勝つ

## 関東大学サッカー

関東大学サッカー・リーグ東大対明大、中大対早大の二試合は十四日午後零時半から神宮競技場で挙行された。東大は明大の圧迫を受けたが、前半のチャンスをよくものにして2-1でシーズン初の白

S 28 . 11 . 15

東大 2 0 2 1 0 1 明大  
中大 4 1 3 0 0 0 早大

(中大)  
島井 計島 林田 沢崎 本  
中長 加小 平吉 堀 富西  
林尾 村島 村原 賀野 沼山  
小松三孝 中吉 芳日 長内  
(中大)



# ユールゴルデン快勝

## 対全日本 サッカー 第一戦

スウェーデンのサッカーチーム、ユールゴルデンの来日初の試合である対全日本の第一戦は二十一日午後二時から大阪球場で一万余の観衆を集めて行われた。ユ軍は初

の試合らしく定刻一時間前には全員球場に現われ、これまでの外国チームにはめずらしく三十分前には練習を開始するという慎重さで、一時五十五分ユ軍主将R・アマムはユ軍、これに対し赤の舎日

ンタルンと舎日本主将加藤との間にペナントの交換があつて二時市権主審のホイッスルで試合開始、プールの紙シマのユニフォームはユ軍、これに対し赤の舎日

### 【全日本】

出山 田島 田島 田島 田島  
大 大 大 大 大 大 大 大 大 大  
大 大 大 大 大 大 大 大 大 大  
大 大 大 大 大 大 大 大 大 大  
大 大 大 大 大 大 大 大 大 大  
大 大 大 大 大 大 大 大 大 大  
大 大 大 大 大 大 大 大 大 大

DF	OK	6 21
FB	KK	
HB	KK	
FW	KK	
	KG	9 12 10

【交代選手】ユ軍—リノオ、ルシ、ベルク、舎日本—R、岡村、R、B、山形（観戦試合の前夜半二名、以内の交代が許された）



ユールゴルデン対全日本—前半23分ユールゴルデンゴール前、舎日本徳弘在すみよりシュートした球を木村へツディングできぬとしたが成らず

ユールゴルデン 5-1-10-1 全日本 1-4-10-1

【解】前半のユ軍は全日本の選手のうち捕見というわけな慎重であつたが、全日本もよく戦つて観衆をわかせた。全日本はスターつか、アインツ、賀川、岩谷のキープ力とOF徳田を加えた中央三人のコンビが比較的良かったのでFWラインは五人をそろけて攻める正攻法でボールをまわり手想以上の攻撃が出来、チャンスとなりかけた

ユ軍は数回起つた。しかしユ軍のRBラインを抜くつとするペナルティエリア付近の最後の地域でそれまでの緩い調子が早い調子に切替へられず決定的なシュートに移れなかつた。このためせっかくの中盤の展開に美を結ばなかつたのは惜しい。だがRWがこのように球をキープできたのでバックスにも余裕が生れてその守備もそれほど苦しいようには見えなかつた。RW木村が36分、38分この二度は絶好のパスを受けこれをむりなシュートははずれ中央へ確実に回して行ったならばこの正攻法にさらばな成果をさらしたかもしれない。

ユ軍はむしろ大きなプレーで進もうとしていた。全日本GK渡部の好守やOH山路、RH宮田が果敢なスライディング・タックルで逃れたが、反対側への大きなクロスパスで舎日本守備陣を壊しては切り返しゴール前に流れ込みもつとする意図には相手を困らせるが見えた。32分OFヨハンソン、35分LIのJ・エリックソンが放つたシュートはこのFWの猛烈なシュート力をうながした。ユ軍は全

日本の健闘で前半は25分左ORから長身のJ・エリックソンがヘッドینگで決めたもので、身長の高くなるゴールだった。後半に入りリノオを小さいが鋭い選手のリオルシベルグに代え舎日本はRB加藤、RH宮田を退け山形と岡村が出場した。ユ軍は後半に入るとその強さを加えはじめ、確心に高い球を中央に送って身長の高いOFヨハンソンを活かそうとしたらあるいは早い位置の交代で機敏な両インナーに走りこませようとしていた。11分ユ軍はOF—RW—RI—LIと見事にまわりながらリオルシベルグの決めたユールにはじまり15分OFヨハンソン44分LWエドワード、44分RIエクルンドと四ゴールを挙げ本領を発揮、OFヨハンソンの猛烈なシュートは評判通り。またRHステマンは見事なロングシュートを見せていた。全日本は前半並々と対したが、後半は完全に圧倒された。体力差がやはり大きい。このため後半やはり逆襲の速攻を目標とせねばならなくなり、その意味では30分RB山形のロングパスを受けたOF徳田がLBをくつつけながら長いドリブルにぐくたえ、その中央送球をRW木村がGKとさせて決めたのは貴重な一点となって美を結んだものだった。

前半の正攻法を後半もいさ少しも緩げられないのか。それにしても後半になってグングンプレーが力強くなって行くユ軍はやはり大したものだ。（大谷）

※ 次のページの下段につづる





# ユールゴルデンの第一戦を見て

スウェーデンのサッカー・チームユールゴルデンは来月初の試合を二十二日大阪球場に特設されたフィールドで行った。全日本が後半一点を奪いたのも貴重なものだったが、正攻法で堂々とわたり合った前半はとくに、試合としてはこれまでの欧州チームに対してはとくに見られなかった面白さがあった。

この一試合に関する限りユールゴルデンは期待とほぼよと違った性格をもつ印象を受けた。西独のオッペン・エン・バツ・キツカーズに見られたような精密な機械のように組合わされたパス・ワークを基礎としたプレーでもなく、さらに一昨年のヘルシングボリーのような意表を衝くプレーもなかったが、練の本まよが、スケールの大きさとかいらぬでこのチームが優っているからである。

## 雄大なスケール

### 優れたパスとシュート

前半に見せた攻撃のパスはこのチームが得意とするといわれた短いパスよりもむしろ、長距離のパスが多く用いられ、割合に平凡なパス・ワークだった。シュート・パスを得意とするというのな

彼ら自身は「スウェーデンのサッカーはイタリアやスペインに比べてスピードに劣り、ゆっくりにしている」というが、球を受けて抜く瞬間や、自由な位置を占める時のスピードには日本チ

ックスは抜かれる心配が多い。日本のバックスとしてはつまり、二軍の三番手、三番手の早い動きを素早く見つけることが問題だ。後半の第一点目がその典型であったし、前半左から大きなパスを右ウィングに送って

いる間に左のインナーやセンターがゴール前に同時に流れこんで右ウィングが直ちに中央へ切

らば、後半の一点目の得点がそれだろう。右に流れかけたOFが軽くRWに払い、RWが中央のRIにすぐ切返し、さらにその前へ走り込んだLに直接授けて完全にフリーになったLが決めたもので、これは見事なシュート・パスの組合せといえよう。しかし全体としては大まかなパスが主調で、ただそれが正確であることにはやはりとがを思わせる。

ームに見られないおそろしいものがある。一見もたまたましているように、他のものがパスを受けようとして日本バックスの裏に走る時はすべり込むようにならぬのである。それは結局カンソン、LのG・エリックソン、の良さによる判断が正確なため

返すパス、これは成功しなかったがその一例で危険な場面だ

守備面という点、どの外国チームにもいえるようにサイド・ハーフがやはり強いが、3F Bラインはヘルシングボリーほどの強さとは思えない。スピードも全日本の鶴田、木村、徳弘あたりならひけめを感じない。後半は前進して盛んにオフサイド戦法をとっていたが、日本チームがこの裏をかけた面白い。評判にあつたように低いシュート

力は見事で、ことにヨハンソンが大きな体で似合わぬ早い動作と足首の強いスナップで放つ矢のよう

力には日本選手と大きな差で、きれいな細かさはいが、ズンと伝えるような重量感と力強さは圧倒的だった。(大谷)

守備面という点、どの外国チームにもいえるようにサイド・ハーフがやはり強いが、3F Bラインはヘルシングボリーほどの強さとは思えない。スピードも全日本の鶴田、木村、徳弘あたりならひけめを感じない。後半は前進して盛んにオフサイド戦法をとっていたが、日本チームがこの裏をかけた面白い。評判にあつたように低いシュート

守備面という点、どの外国チームにもいえるようにサイド・ハーフがやはり強いが、3F Bラインはヘルシングボリーほどの強さとは思えない。スピードも全日本の鶴田、木村、徳弘あたりならひけめを感じない。後半は前進して盛んにオフサイド戦法をとっていたが、日本チームがこの裏をかけた面白い。評判にあつたように低いシュート

## 全国大学サッカー選手権組合せ決る

本社後援第二回全国大学サッカー選手権大会は明年一月二日から六日までの五日間神戸高麗球場、神戸絵画館前で行われるが、その組合せが二十三日サッカー協会から次のように発表された。

- ▽一回戦 A 東京教育大対清水商船大、B 宇都宮大対早大、C 鹿兒島大対東北学院大、D 岡山大対立大、E 北海学園大対広島大、F 東大対青手大、G 中大対甲南大
- ▽二回戦 北海道大対Aの勝者、名古屋大対Bの勝者、横浜市大対Cの勝者、明大対Dの勝者、学習

# ユール 1対0で再勝

## 全関東、最後まで好守

来日スウェーデン・サッカー・チーム、ユール・ゴルデンの第二戦、対全関東は二十五日午後六時から後楽園球場で進行された。ナイターの照明下ユール・ゴルデンは真紅の、全関東は白のユニフォームで薄もやをつけて全関東のキック・オフで開始。ユール・ゴルデンは終始優勢を続けたが、全関東の好守に会い、得点一点にとどまり1対0で勝った。

(主審) 柯形繁樹  
ユール 1  
全関東 0  
スコア: 1-0

評) はじめかかっては晴れ上り、やや前半中ごろからは晴れ上り、申し分ないナイターだった。ユール・ゴルデンは主将RBのK・アンデルソンとRHステンマンを前にゴールゲッターのS・ヨハンソンを休ませ、やもチーム力をおとっていた。一方全関東は渡歐選手五名を入れケガをしたCF高野(東)

大) に代って全日本の二宮(慶大)を入れた。このFWは昨年生徒選手権に勝った慶大ラインに二宮を加えて強化したものとになった。前半ユール・ゴルデンは体力と個人技の有利から七分のボールをキープし全関東陣を圧したが長身センター、エリックソン、RWアンデルソン、LFフォルシユベルグらの再三のシュートはGK村岡の好防もあって惜しいところを外れ空しかつた。全関東もグラウンドの小さいのに

### 【全関東】

- 大出(大) 大出(大) 大出(大) 大出(大) 大出(大)  
 教員(早大) 中(慶大) 慶(慶大) 慶(慶大) 慶(慶大)  
 岡田(大) 木宮(林) 木林(宮) 淵(松)  
 井(士) 青(小) 三(高) 鈴(小) 二(岩) 重  
 GK FB HB FW  
 GF B HB FW  
 CF FK GK  
 CF FK GK  
 1 1 0 2 8 4 5

▽交代 R.H.荒川(慶大)

恵まれバックからの縦パスをCF二宮に送ってチャンスをつくったがユール・ゴルデンの長身バックスにつかまってくるぶられていた。しかしこの無得点の均衡も20分GK村岡がゴール右スミでジャンプして取ったRWアンデルソンのシュートを不覚にも前に外したのをLFフォルシユベルグにアシッユを許してリードを与えてしまった。

後半に入ってもユール・ゴルデンの優勢は続き20分関東ゴール中央前20分FWを得る好機を迎えたがOHイウエグレンのシュートを村岡によく止められ加減の機を逸した。45分にはRWアンデルソンからの好パスを村岡がミスしエリックソンに決められたがこれはオフ・サイドと柯形審判に判定され得点とはならなかった。全関東は懸念された後半の崩れも見せずユール・ゴルデンの強襲を全員防衛の形よく防いで前半の失

### 点一つにとどめた。

シュート数四十九を浴せたユール・ゴルデンが得点一点に止まったのは期待外れの観があったが、これには全関東バックスの好守のほかユール・ゴルデンの巧みに寄せながらFWエドランドが一人一球を止めて関東バックスに守備を厚くさせていた、まさきが目立っていた。

しかし中盤でのユール・ゴルデンの動きは全関東を教段離していた。ユール・ゴルデンは確実なリフト・パス(ロビング)より小さい高いボールを盛んに用いて全関東陣を突きと押ししていた。個人技に優れたユール・ゴルデン選手のパスは正確でムダがなかった。ただ彼のシュートが不運にもパーやポストをわずかにそれて多く実を結ばなかった。

全関東は予想外の善戦をし、しかも後半に疲れも見せず失点一点に止めたのは大出来だった。学生の精銳を集めただけに動きが多く、しかも速攻を多用し前半

半はOF二宮のキープ力をよく活かして成功していた。

また後半に入るとは岩淵、小林、鈴木がよく動いてスタンドをわかせたが、ゴール前の決定力に欠けていた。バックスもOH三河の果敢な守備やRB土井田の得意のゴール・カバリングが村岡の好守とともに光っていた。(大橋)

アストレー・コーチ談 全関東は大阪で戦った全日本よりはシステムもあろうしかった。特にCF二宮、OH三河、LB青木、GR村岡はよかった。グラウンドは依然小さくて感心しなかったが、ボールは申し分なかった。

ユール・ゴルデンのFWは眠ってはいわれわれの期待を裏切った。後半エリックソンの入れたゴールはオフ・サイドにされたが、ゴール・ラインに全関東のフルバックがいたから自分はオフ・サイドとは思わない。

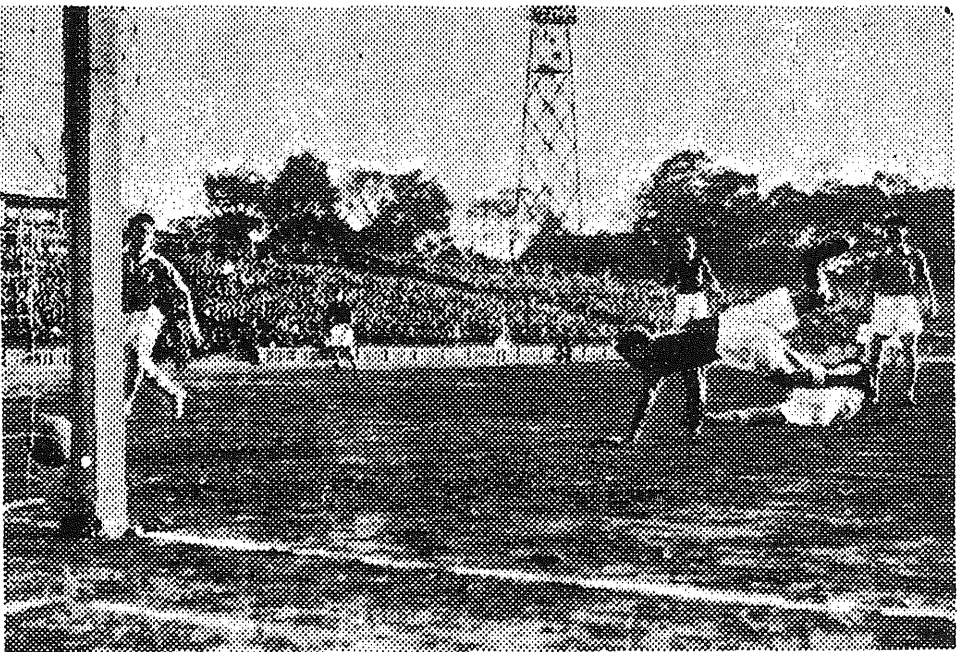


※右ハインズからつくく（日本対ユーレゴレデン戦）



前半四十三分全盛期ゴール前、ユウゴレフォルシムスルツ（左がウレデン）のシキアア置前のズ社  
ツ（右）ハインズからつくく（日本対ユーレゴレデン戦）  
（左）ハインズからつくく（日本対ユーレゴレデン戦）

同上 日本対ユーレゴレデン戦



シキアア置前のズ社（左）ハインズからつくく（日本対ユーレゴレデン戦）  
（右）ハインズからつくく（日本対ユーレゴレデン戦）

# 教大優勝まず不動

## 関東大学サッカーきょう閉幕

関東大学サッカーリーグは六日午前十時半から神宮で行われる明大対教大、早大対立大、慶大対中大の三試合で幕を閉じる。

マ：リーグ前はAクラスに中大、立大、Bクラスに慶大、教大、Cクラスに早大、東大、明大というのが一般の予想であった。現在一位は予想を破って中大を降し立大と引分けた四勝一分の教大で優勝の色が濃い。全員むらのない動きと柔軟な体の持主で、とくに、バックスの小宮、小沢の進境が著しく先週の前大戦の時に不覚の二失点を許すまではシーズン初めから無失点でダークホースぶりを発揮している。

中大は四勝一敗、体力にすぐれ、質量とも他校を圧していたが、対教大戦に完敗し初優勝の夢を破られた。立大は中大に敗れ教大と引分け、三勝一敗一分で優勝から見放されてしまったが三位は動くまい。

▽：六日の第一試合教大対明大戦は明大は全敗で最下位となり、極度の不振に悩んでいる。教大の勝利はまず確実。教大の優れたバックスに対し得点することは難しく、教大の比較的弱いFWの決定力を徹底的に封じれば引分の場合も想像出来ぬこともない。そうなるって中大が慶大に勝てば中大、教大が同率となり優勝決定戦という

S 28-12-6

ことになる。第二試合の早大対立大は早大がばらばらチームだから組織立った攻撃を持つ立大の実力が数段上。第三試合中大対慶大は昨年の一、二位の対戦で最後を飾るものだが慶大のバックスは浮き球に弱く、体力にすぐれる中大が終始ジリジリと押し続けるだろう。中大にはるかに分のある試合である。(中条)

# 教大が明大破り優勝

## 高師時代から28年ぶり

【大学一】 関東大学サッカーリーグ最終日教大対明大、早大対立大、慶大対中大の三試合は六日午前

十時十分から神宮競技場で挙行。教大対明大は教大が終始押し続け6-2で大勝し、前身の東京高師が大正十四年に勝つて以来二十八年振りに優勝した。早大対立大は早大が前半健闘したもの後半わずれ大量五点を許し惨敗した。

慶大対中大は前半リードされた慶大がよく後半反撃したが及ばず惜敗した。なおこれでリーグの全日程を終了し試合後各部優勝校にカフスが授与された。

教大 6 3 3 1 1 2 明大  
3 3 1 1 2 明大

岡沢津原宮川坂原沢木中 10 6 9

村小弥宮小畑保福深鈴山  
GK FB HB FW  
CF GK

野城保島木嶋野塚勢木  
久 宅 3 0 10  
牧若大広鈴斎高木能村

【明大】 教大FWにはまともな個

人技にとほしく攻撃のタイミングが悪かった。しかしその強力なバックスは、はるかに明大を押しその余力が常に好フィードを生み、得点のチャンスをつくらせていた。

前半十一分明大は押されながらもCF能勢が左にもちこみ村木に渡り、RI大塚が決めて1-0としたが明大としてはこれが精一杯でそれ以後は実力の差がハッキリと現れ、中盤では時たま鋭い当りをみせていたがゴール前で腰が浮き上り、身を捨てて教大のシュートを防ぐ強引さがなく、それほど強くない教大FWにフリーで球をもたせ得点をかせがれて完敗した。(中条)

立大 7 2 1 2 2 早大  
5 2 1 0 2 2 早大

関東大学リーグ成績

チーム	勝	分	負	点
明大	6	0	0	18
早大	5	1	0	16
立大	4	2	0	14
慶大	3	3	1	11
東大	1	3	6	6
中大	1	3	6	6
教大	0	1	6	2

- ▽二部順位 ①法大5勝1敗②慶大4勝2敗③上大4勝2敗④横浜大⑤青学⑥一橋大⑦千葉大
- ▽三部順位 ①学芸大6勝②日大5勝1敗③都立大4勝2敗④国大⑤駒大⑥慶大⑦慈大
- ▽四部優勝成蹊大5勝1敗

S 28. 12. 7

【立大】 城坪山村杉田森木島林中 5 9 9  
玉石景大小森横鈴木高田  
GK FB HB FW  
CF GK

【早大】 中條徳長 安吉小清加杉 5 7 18  
岡田 田島水計野

【中大】 林尾村崎 村原野野沼山 3 13 6  
小松三野 中吉内日長内  
GK FB HB FW  
CF GK

【慶大】 木田藤村島川野中松淵沢 5 8 4  
茂吉神三北帯土山重石松

# シュート力の強化を

## 教大、非力を闘志で補う

### 関東大学サッカー総評

関東大学サッカーリーグ戦はタイクホース教大の二十八年ぶりの優勝に終わった。今季は常将軍、慶が不調で、ユマの豊富な中、立の首位争いが激しく現われたが、この両チームのムラを衝いて教大がよく制勝を挙げた。

関東大学サッカーリーグ戦はタイクホース教大の二十八年ぶりの優勝に終わった。今季は常将軍、慶が不調で、ユマの豊富な中、立の首位争いが激しく現われたが、この両チームのムラを衝いて教大がよく制勝を挙げた。

#### 教大

得点力のないあのFWラインで優勝したとはちよつと意外であるが好キーパー村岡を中心としたバックスの好守が大きくものをいっていた。従って試合は常に相手に圧倒されながらもバックスの好守でピンチを逃れ、逆襲でゴールをあびるという場合が多かった。立夫と苦戦して0-0で引けたあと、強敵中大との対戦では深沢、山中が共にラツキーなゴールをあびて優勝を確定した。バックスの好守に比べ、非力なFWの善戦も見逃せない。他チームがムラのあるプレーを見せていたのに反し、多和監督の念ずるオール・メン・アタック、オール・メン・ディフェンスがよく表現されていた。

このチームには新人が多く起用されたが、福原の穴をカバーしたR1倉持(浦高出) LW山中

中、LB弥津が光っていた。

#### 中大

開幕当初中大は7-0と大勝したあたりは優勝候補の實録十分であったが、以後試合を重ねるに従い頭脳の欠陥を暴露して王座を逸した。特にひどかったのは首位決定戦となった対教大戦で、試合の大半の指導権をにぎりながら攻撃に緩急の度を見せず、またバックスが持ち過ぎたFWの機を逸し相手に容易にゴール前を固めさせる愚を繰返していた。

さらに対慶大戦を除いてはマークするOFなしとしてツウ・パツクを布いて教大得意の逆襲にOH李の帰陣がおそく敗れたのは一考を要される。しかしチーム力は教大をしのぐものがあり、ヨーロッパ帰りの進境を見せたOB三村やOH李の広範なカバリング、L1長沼、LW山中のゴール・ゲッターぶりは印象に残る。

#### 立夫

キック・エンド・ラツのチームが上田新監督を迎えて横のシュート・パスを交えた新攻法は一応成功を収めていた。体力に優れた新人を多く起用してま

まどうま味の点ではリーグ一の力を見せていたが、弱点の「気分」のチームが災いして肝心な中大戦に2-1で惜敗したのは痛かった。しかし全日本に出場の栄を得たL1高林の活躍は光り、復讐に次いでR1大村がよかった。また新人ではFWで横森、坪島、HB村岡弟、FB景山の将来が期待される。ヨーロッパ帰りのGK王城には軽卒さが見えて感心しなかった。

#### 慶大

昨年優勝したチームから全日本級選手を失った捕手は大きかった。FWは頼みの重松を支援する両サイドに人なく試合ごと編成替えという苦戦ぶりであったし、さらにバックスの弱体は目に余るものがあった。わずかに宿敵中大に勝って慰められたが、開幕当初から岩淵、松沢を重松に配した左サイドに攻撃点を委ねたのはあまり苦戦しなかったのではなかろうか。慶大の転落にさびた汚点をぬったのはリーグ戦後半に再三示された故意のフアウルであった。相手にFKの時機をおくらせたり、不利になると相手のシ

ヤツを引っぱったり、トラッピングを犯したりしていた。もっと学生らしくフェアに試合して欲しい。

#### 早大

工藤監督の五カ年計画の成績も止むを得ないだろう。強敵に対して見せていた伝統のがんばりも体力に劣る新人バックスでは如何とも仕様がなかった。期待されていた欧州帰りの小田島もスゲルが小さくなり、ただOF吉田の進境が光っていた。

#### 東大

最下位必至と見られていたこのチームは前半の不調にかわらず後半力戦して中大を倒してよくBクラスに留まった。対明大戦ではOF岡野に負傷して休まれる不利はあったが、全員涙ぐましい努力がものをいっていた。

#### 明大

シーズン半ば監督の交代などありまじり弱くなっていた。わずかに最終戦で教大GK村岡を攻略して二点をあげたのがせめてものめつけものだった。しかしGK牧野、RH広島、R1大塚の活躍は来シーズンを築きませよ。

上位の教、中、立は力量角で甲乙はなく、わずかに、ついでいた。試合の出来た教大にカイ歌があがったところをた。総体的に見て今年はドイツとスウェーデンの二チームを迎えたあとだけに昨年よりはやや向

上のもとが見られた。特に高林(立)長沼(中)はトラッピングがうまくなり、全体にスピーディな攻撃ぶりが目立ってきたし、バックスでは三村(中)の攻撃のタイミングのよさが注目された。だが全日本チームが外国チームに大敗を招いたように、将来全日本の骨幹となる学生選手は現状で満足は許されない。ユールゴルデンのコーチも指摘していたようにシュート力の強化(ユールゴルデンのFWはゴール三十ヶ所からシュート出来る)中盤でのハーフ、インナーの指導権確保、バックスの確実なマーキング、キーパーのキック力強化などに今後努力すべきだ。

また国際試合に比べてリーグ戦では非常にラフなプレーが目についた。これは外国チームに対しては投量が落ちるのでフェアにしかプレー出来ないが、リーグ戦では審判の甘い辛いが大きく支配していた。これには協会にも責任があり、審判統制委員会を設けて研究する必要もある。そうすれば試合後ペナルティをとらなかつたと抗議する無茶な監督も教育出来よう。

(大橋)

# 東京勢で優勝争い?

## 全国大学サッカー予想

本社後援第二回全国大学サッカー選手権大会は二月二日から六日まで神宮競技場、神宮絵画館前で全国から二十三校を集めて行われる。関西リーグの一部の大学が参加しないのはさびしいが平素大会らしい大会からほとんど見放されている北海道、九州、中国、東北などから、この大会に参加する。しかしその内容はシードされた四校のうち教大、中大、立大は関東大学リーグの一、二、三位であり、もう二つは昨年予想をくつがえして初優勝した東大であることが示しているように東京勢が圧倒的に強い。準々決勝あたりになれば地方勢は姿を消し、このシード四校で優勝が争

われることは中八九間違いない。そうならば優勝争いは関東リーグの再戦といったかたちになる。この四校の準決勝進出を阻むかまたは苦しめる目ぼしいチームが出てくるかどうか。まず教大のいる第一グループで期待されるのは清水商船大だ。東海地方の実業団の雄清水商船に4-1で惜敗した以外はこの四日以上の対戦成績は全勝、その中には東大を2-1、東海の大学トナメントの優勝者名古屋大学を1-0で降した二つの金星がある。この清水商船大には教大も相手とするだろう。

立大のいる第二グループでは四月以来立大に4-1で敗れ中

大に2-1で惜敗したが青学大を2-0で破った東北学院大がいる。これと二回戦で当る鹿児島大も四月から九州の各大学に全勝している。この両校の対戦は第一日の好カードとなるだろう。東大のいる第三グループは東大が非力なため地方勢が一番進出し易い所だ。その可能性の多いのは広島大、粒がそろっておろスピードも馬力もある。今年の広島大は全く油断ならない。

中大のいる第四グループは地方勢にこれといった大学がなく、重松のいる慶大がいるだけでシード校が一番柔な所だ。中大の準決勝進出は確実だ。

こうみると中大が優勝候補の第一に浮び上ってくる。教大、立大は準決勝で顔が合ひ、互に星をつぶし合うので中大が非常に楽になつてくるからだ。

(中条)

### 関東側の陣容決る

朝日招待サッカー  
朝日招待サッカー大会は明年一月十六、十七の両日西宮サッカー場で第一日関東学生選抜対関西OB選抜、第二日関東OB選抜対関西学生選抜の二試合で行われるが、これに出場する関東側のメンバーは次のとおり。

▽監督 松丸貞一(慶出) マネージャー 横山陽三(東出)

◇OB選抜 GK 津田(慶出) 岸本(早出) MFB 土井田(慶出) 青木(早出) 田村(早出) マ

HB 松永信(教出) 松岡(慶出) 山口(明出) 高橋(早出) MFW 鈴木(慶出) 小林(慶出) 加納(早出) 二宮(慶出) 大莖(東出) 吉崎(中出) 以上十五名

◇学生選抜 GK 村岡(教大) 玉城(立大) MFB 小沢(教大) 三村(中大) 北島(慶大) 松尾(中大) MFB 高林(立大) 荒川(慶大) 大村(立大) 李(中大) 中村(中大) 小田島(早大) MFW 黒松(慶大) 岩淵(慶大) 長沼(中大) 岡野(東大) 福原(教大) 鈴木(立大) 日比野(中大) 浜田(立大) 吉田(早大) 内山(中大) 以上二十三名

# 昭和29年

## 東京勢勝進む

全国大学サッカー

新春を飾る第二回全国大学サッカー選手権大会は全国から三十三校を集め、二日前午十時神宮競技場、神宮絵画館前のグラウンドで開幕。東京勢はさすがに強く、試合かけ引きもまく勝調に勝ち、

地方勢では広島大鹿兒島大が北海学園、東北学院をそれぞれ破り二回戦に進んだ。

▽二回戦

教育大	2	0	1
早大	5	2	0
広島大	3	2	0
清水商	0	0	0
船大	0	0	0
宇都宮	0	0	0
北学	0	0	0
海大	0	0	0

東大	3	1	2
鹿兒島大	4	0	0
中大	6	3	3
立大	5	2	3
岩手大	0	0	2
東北学	0	0	0
甲南大	0	0	0
岡山	0	0	0

S 29 / 3

## 圧倒的な東京勢

### 全国大学サッカー大会

第二回全国大学サッカー選手権大会第二日は三日前九時から神宮競技場で行われ、東大が東京学芸大のしぶとい防壁陣の前に敗れ早くもシード校の一角がくずれた。

地方勢では前日健闘した鹿兒島大、広島大がそれぞれ横浜市大、学習院大に辛勝し第二戦に進んだ。ほかは全部姿を消し第二日も東京勢が圧倒的な強みを示した。

▽二回戦

鹿兒島大	3	2	1
早大	4	3	1
数大	9	3	6
北道	1	0	0
海大	0	0	0
市横	2	0	0
大浜	0	0	0
大古	0	0	0
大北	0	0	0

東京学芸大	1	0	0
中大	1	0	0
立大	3	2	1
広島大	2	1	1
東大	0	0	0
千代田大	0	0	0
山梨大	0	0	0
明大	1	0	0
学大	2	0	0
院学	2	0	0
習大	0	0	0

抽選勝

【評】地方勢は基礎技術が完成されておらず、戦術的にも東京のリーグの上位校にはほとんと歯が立たずに一方的に敗れ、わずかにくし運に恵まれた鹿兒島大、広島大が辛勝したに過ぎなかった。鹿兒島大は前半始め早くも先取点を奪、よきすべり出したが後半横浜市大の組織立った攻撃に一時は2-1とリードされ、後半21、22分R1外國が殊勲の連続二点をあげ勝った。鹿兒島大は戦術的に未だしの感が強いが気力において横浜市大をはるかに上回っており後半の反撃は実によかった。広島大は前半学習院大のOF高橋のマークが悪く2-0にリードされ苦しい試合ぶりだった。前半タイムアップ直前広島大CF河原が見事なシュートを決めた勢に乗じ後半ほとんど押し続けたがプレーに鋭さがなくしばしばチャンスが失っていた。後半31分W箱田が辛うじて決めようやくタイに持ち込んで危うく抽選勝をした。よく攻めながら苦戦したのは中足が悪く決定的な瞬間での決断力が不足なためでの勝ちではなく幸運という外ない。東大はグラウンドの悪いせいもあったが全くだらしないかった。試合開始直後一点先取されたためあせりも生じ無謀な攻撃をくり返していたのはリーグ一部校らしくなかった。一方東京学芸大はパスの当りは鋭く東大の完敗といつてよい。(中条)



鹿兒島大対横浜市大後半十一分横浜市大RW須藤(宗)



# 教大、早大に敗る

## 全国大学 サッカー 東京四校で準決勝

第二回全国大学サッカー選手権大会第三日は四日前十時から神宮競技場で準決勝四試合を挙行、関東リーグの勝者教大が早大の果敢な攻撃に敗れる番狂わせがあったが、立大、中大、東京学芸大はそれぞれ順調に勝ち進んだ。期待された地方チーム鹿兒島大、広島大はよくがんばったが実力の差が大きく健闘及ばず姿を消し、東京勢四校で準決勝が争われることになった。

【教大】 岡沢津原宮山羽原沢木中村小弥宮小畑区福深鈴山 GK FB HB FW 4 12 2

【早大】 中加松安 岡胡 杉吉織小石 GK FB HB FW 1 6 10

【早大】 1 6 10

【評】 功したものが早大のゴール前の寄せは鋭かった。教大FWの決定力不足はリーグ当時からいわれており、大量得点は望めなかったがリーグ随一といわれたバックスが不調で要所要所がしめ切れず敗戦に拍車をかけた。早大のねほり強さ、突進力の鋭さという長所が総て実を結び、教大の短所たる気の弱さが教大にわざわいした試合だった。

【評】 鹿兒島大はこの日も元氣一ぱいだった。強豪立大に全員防御を余儀なくされほとんど攻撃出来なかつたが前半は立大のシュートを早め早めに強引につぶし得点のチャンスを与えなかつたのは上出来だった。後半10分から以後の25

分間に立大に大量6点をたたき込まれ大敗したが技術的に未熟な地方にありながら元氣一ぱい全力を尽した試合ぶりは好感が持てた。

【鹿兒島大】 水松山元原藤下中子木道重小喜松川外松田金佐下 GK FB HB FW 0 5 3

【立大】 玉川景木榎浜横鈴田高坪 GK FB HB FW 8 0 0

【早大】 松山 越島本和兼面船田 西 多 重片 大大松大区河木箱 GK FB HB FW 3 3 8

【早大】 山口上居田戸沼山沢村坂笠山坂土会石昭沖梅木武 GK FB HB FW 3 4 8

【東京学芸大】 笠山坂土会石昭沖梅木武 GK FB HB FW 3 4 8

【評】 大のBI沖山がGKのハンブル・ボールをブツシュして試合を決めた。

【中大】 林尾村崎 村原賀野沼山 李 比 小松三野 中吉芳日長内 GK FB HB FW 5 7 8

【早大】 木田藤川島角野中井淵沢 茂吉神荒北岡土山酒岩松 GK FB HB FW 3 4 11

【早大】 木田藤川島角野中井淵沢 茂吉神荒北岡土山酒岩松 GK FB HB FW 3 4 11

【早大】 木田藤川島角野中井淵沢 茂吉神荒北岡土山酒岩松 GK FB HB FW 3 4 11

【早大】 木田藤川島角野中井淵沢 茂吉神荒北岡土山酒岩松 GK FB HB FW 3 4 11

【評】 グラウンドが悪く足を取られがちであったが中大のスリー・バックスは慶大をほとんど寄せつけず見事だった。試合開始直後RB松尾がバック・パスを損じて慶大は思わぬ拾い物をした。中大FWは前半半ばから徐々に地方を出し始め28分OF日比野が決めて1に持ち込みまでは一進一退を続け面白試合だった。後半慶大はほとんど攻めることが出来ず試合はたれたが、実力からいって中大の勝は順当であった。(中条)

# 中大・立大決勝へ

## 全国大学 サッカー 東京学芸大、早大敗る

本社後援第二回全国大学サッカー選手権大会第四日は五日午後零時半から神宮競技場で準決勝が行われ、中大、立大が東京学芸大、早大をそれぞれ降し六日の決勝は関東リーグの二、三位の間で争われることになった。

▽準決勝

立大 2-1-1-0-0 早大

【早大】 野田田本 島計井田

【中大】 岡朝 中加敏安 杉吉織西石

GK FB HB FW 2888

城口山村野田森木中林島

CF GK 2192

【立大】 玉川景大神佐横鈴田高坪

【評】リーグ戦当時の早大はまごまりがなくひよわい感じが持たれ

ていたが、パス・ワークも出足もよくなりスケールが少し大きくなってきた。実力の上ではまだまだ立大に及ばなかったが正攻法で正面からぶつかって行きよい試合をした。ただ得点コースに持込む前のチャンスは立大とほぼ同じ数だけありながらコースに入ってくるの処置が悪く得点にならなかった。

これに反し立大は高林、鈴木などの強い突進力とキックで前半6分後半24分に一点ずつあげて勝敗を決した。早大がゴール前でこの処置が悪かったのはグラウンドが悪くまたきめ手がいないためではあるが、あせりのため向う見守の強引さで攻めたて、また反則が多かったのは一考を要しよう。立大は新人景山の進境が著しく両FB、両ウィングの四人が一年生ながらよくやりこれが勝利の原動力となった。今年

【中大】 林尾村崎 中原賀野沼山 小松三野 田吉昇日長内

【学大】 山上下居田沼山沢村政 等坂山土合照押梅木武

GK FB HB FW 2715

【中大】 中六の楽勝が予想された試合であったが、後半学大のがんばり

で中大は意外な苦戦をした。前半中大は余裕を持ち過ぎて攻め、二点に止まったが10分にあけた一点目の得点は学大GKの自失による拾いもので、その試合ぶりはおよそ強豪の名に相応しくない響り出しであった。しかしだれも中大の後半の苦戦を予想するものはない。むしろきりりとした中大らしいところをスタンドは期待していた。

後半の学大は5分に三得点を失ってから前半もそうであったがゴール

ル前のつぶしはますます激烈になり身体の動きのなかに中大FWにシュートをさせなかった。少々もたもたしていたが、身体ごとぶつけて行くような激しい強さで球を拾って前へ前へと送り、9分には中大LB三村のピンチ・キックが中大のゴールを割って一点を拾い、さらに31分LB木村が混戦からブツシュして3-2と追いついたが及ばなかった。中大は決勝に備えて力を抜いたのであろう。結果として勝つたわけであるがこのような試合をしている中大の精神的な不安定はほめられたものでない。(中条)

# 立大、中大を破り優勝

## 学芸大、早大ともに三位



優勝杯を受ける立大鈴木選手

**全国大学サッカー選手権大会**  
 終日は六日午後零時  
 半から神宮體育場で  
 三位決定戦および決勝を挙行、早大と学芸大は3-3の同点のまま延長戦に入るも勝敗せず両チームとも三位となり、決勝戦では立大が中大を4-2で降し初の優勝

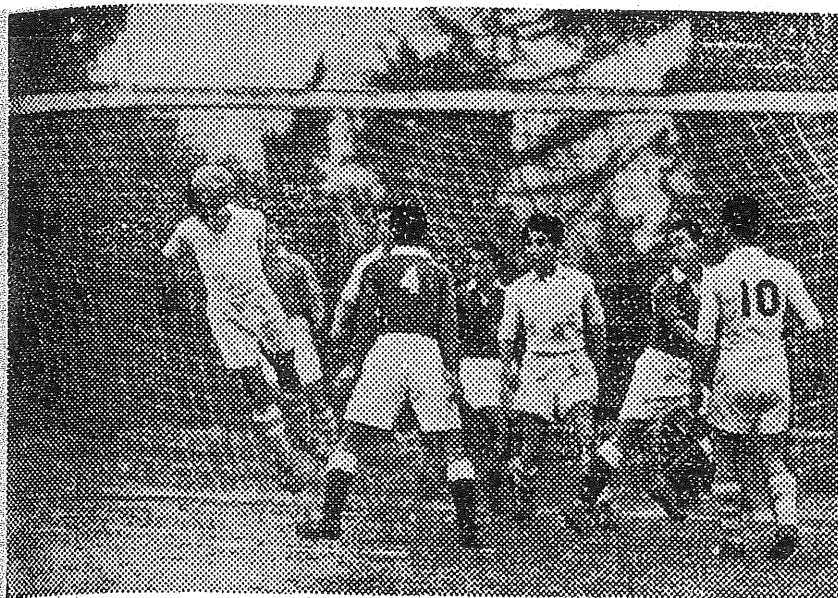
をどけた。  
 △三位決定戦  
 早大 3 0012  
 学芸大 3 0030  
 △決勝  
 立大 4 1131  
 中大 2 1111  
 【評】風上に立った立大FWは鋭い出足と快調なパス・ワークでキックオフから中大陣を圧倒、2分IW坪島、20分RI鈴木のシュート

【中大】  
 林尾村崎 村原賢野沼山  
 小松三野 中吉芳日長内 21081  
 GK B B KKKK  
 GF H B CFFPK  
 城坪山村野田森木中林島 45130  
 玉石景大神浜横鈴木高坪  
 【立大】  
 トがそれぞれ中大ゴール右ポストに当たる惜しい接触があったのち、25分RW横森の右よりの好センタリングをSH高林巧みにヘッディングできめて先取。さらに42分にはRI鈴木が十五ヤードのロング・シュートがきまり、44分には

中大GK小林が横森のシュートをはじくのをOF田中引っかけた加減、3-0と離れ早くも勝敗を決めた。中大は前半終り真逆の逆襲でLI長沼のパスをRW吉原がゴールして一点を返しただけだった。後半に入ると中大の反撃が期待されたが、風上の有利にもかかわらず立大の快調に押されて前半と同じく不調に終り、わずかに2分立大RB坪島の反則でPKを得、長沼がきめて一点を加えたのみに終わった。一方立大は30分LB景山のセンタリングを横森がシュートしてため押しの一点を加えて快勝した。秋の大学リーグ戦で二、三位に終わった両チームの対戦だけに、この接戦を予想されたが、これほど差が開くとは思われなかった。中大は前日学芸大との接戦でゴールゲッター長沼、OH李が共に足を痛めて振わず、さらにLIH中村の不調も加わって全然よいところなしに終わった。立大はFWが好調で終始スピーディなパス・ワークを展開、殊に横森、坪島の新人が見事なウイング・プレイを示し、ゴールゲッターの高林、鈴木の両インナーをフルに支援していたのが光っていた。パッ

クスもこの快調のFWに100%のフィードを与えていた。スリーバックスはディフェンスではマークが不確実で甘いところを見せてはいしたが、中大FWの生彩を欠いた攻撃とGK玉城の好守でさしたるボ

口も見せなかった。何れにしても立大のすばらしい出来には中大は余りにも劣勢で、シュート数も立大の12本に対して本という脅威さでこの結果も止むを得なかった。  
 (大橋)



関東学生選抜軍対関西OB選抜軍サッカー—前半20分関西陣ゴール前、右コーナー。キックの球を両軍ヘッドイングで攻防展開(西宮)

# 関西OB選抜勝つ

## 朝日招待サッカー

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

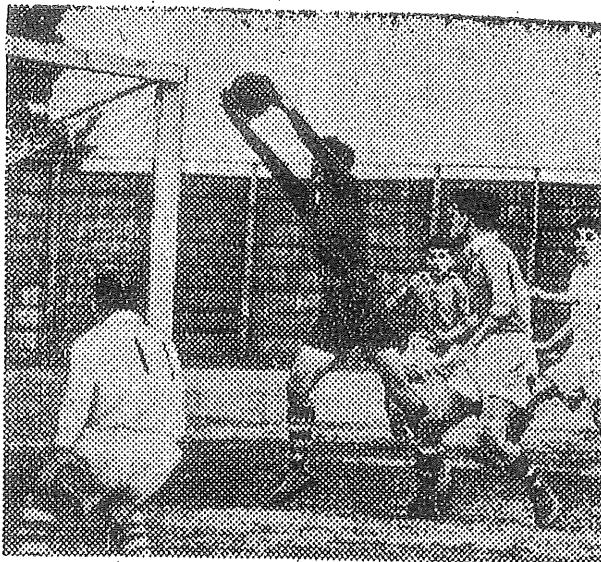
【大阪発】第十二回朝日招待サッカー第一日は十六日西宮緑地場で

# 関東OB選抜勝つ

## 朝日招待サッカー終る

【大阪路】第十二回朝日招待サッカー最終日は十七日西宮緑地場で、午後一時から中学模範試合を行い、二時から関東OB選抜対関西学生選抜の試合を関西学生のキック・オフで開始、前夜の雨でグラウンドは非常にすべりやすくコンディションは悪かったが、激しい熱のある試合を見せて関東OBが勝った。これは二日間にわたる成績はOB側の三勝となり東西はそれぞれ一勝一敗となった。(主審岡村、線審瀬戸、工藤)

関東OB 3 2 1 1 2 選抜  
選抜 2 1 1 1 2 選抜  
M 中学模範試合



関東OB選抜対関西学生選抜サッカー、後半5分関東のLW加納のセンターリングを関西GK生駒見事につかむ (大阪電送)

【評】関西学生は鋭い出足で非常に滑り出しを見た。OBの動きも判断もよく中盤を優勢に進め、また岡本、寛の両インナーの出来もよく、関東OBを攻めかけた。しかし一つのたてパスでうまく

【関西学生】  
 学学 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大  
 関 関 関 関 関 関 関 関 関 関 関 関 関 関 関 関 関  
 駒 木 弟 藤 田 山 本 広 弘 9 8 4 1  
 生 平 前 佐 菅 三 徳 岡 末 寛 徳  
 G K F B H B F W K K K K K K  
 G F B H B F W O F G F P  
 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出 出  
 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大  
 廣 慶 早 慶 明 廣 慶 廣 慶 早 4 4 9 1  
 田 田 木 橋 岡 口 徳 林 宮 益 納  
 津 井 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山  
 津 井 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

さまゴールに迫ろうとしたので球は関東OBゴールへ流れ過ぎて前進したGR津田に拾われた。37分になってR佐藤のパスが関東OBのO松岡の足もとを抜けてR岡本突込みシュートしてようやくゴールを先取した。関東OBは前半中から次第にパスが通りはじめ39分LW加納のセンターリングをL大壘がヘッドアップして同点にした。後半になって奪えるかと思えたOBはOB二宮の中盤でのキープ力と球さばきでかえって優位に立ち、激しい動きがそろって攻勢に出、10分には二宮の突込みで2-1と逆転した。さらに24分にはPKを得て関東OBは3-1と離し、勝負は決った。しかし30分ごろからOBの奪えが見えたところへ学生は再び攻勢をとりもどし32分ハンドのPKで3-2と迫りなおもバックスの強い支援で攻めた。44分には右にまわった藤弘のセンターリングで絶好のチャンスとなったが、辛くも防がれて関西学生は勝った。

悪いので細かい技は期待出来なかったが、試合は終始迫力がみなぎっていた。関東OBは矢張りDF二宮の好技が基礎となった攻撃であったが、FWの左サイドにそろった老巧さが勝負を決めたという感じだ。

(大谷)



# 日本、韓国に敗る

## 世界サッカー選手権大会 極東予選一回戦

S 29 - 2 - 8

世界サッカー選手権大会極東予選日本対韓国の第一試合は七日午後二時から神宮競技場で行われた。両国国旗掲揚のち、花束贈呈、ペナント交換があり赤シャツ、黒パンツの韓国チームに対し青のユニフォームの日本チームのキックオフで試合が開始された。前後来の雪が融けてグラウンド・コンディションは非常に悪く、全日本はパスが思うにまかせず、体力に優れた韓国チームが終始押しつづけ、全日本は前半十六分長沼が先

取点をあげたのに止まり結局韓国は前半二点、後半三点計五点をあげ五対二で大勝した。(主審ハラシイキリス人)

韓国 5 2 1 日本 3 0 1

【評】グラウンド・コンディションが極めて悪く、球のパウンドが不規則で日本の細かいプレーはほとんど功を奏さず、よく腰の入った韓国の確実なディフェンスと足技にほんろうされ、ほとんど日本は押しつぶされた。しかし韓国も試合開始からよく攻めながら日本のゴール前で、やはり球が思うに

大出	出出	出出	出出	出出	出出
大出	大出	大出	大出	大出	大出
教早	早	関	関	関	関
岡路	岡路	岡路	岡路	岡路	岡路
村山	村山	村山	村山	村山	村山
川	川	川	川	川	川
GK	FB	HB	FW		
6	1	4	0		

【日本】スはなく、かえって初めは日本の細かいプレーがしばしばチャンスを生み、ゴール前で球あつかいのうまい日本FWは先ず16分長沼が左から持ち込み両FBのタックルの伸び切った時、ペナルティエリアの外から見事なロングシュートを左すみに決め、先行した。このあたり戦争前の試合によく見られたように韓国は押しているが、決定力がないため敗れていたのと同じ経過をたどるのではないかと思われた。事実、日本は前半押しながらも韓国に比べ得点のチャンスはほぼ同数あった。

韓国は悪いグラウンドながら、センターリング、ロビングは足首の強さのせいかわるで日本はしばしばピンチに見舞われていたがそれをよく防いでいたのはまだ元気があったからだ。それも前半の初めだけで、活動力が落ちるに従って強いながらもあらゆる韓国の力の攻法が徐々に功を奏し始め、22分LI鄭南溟がGK村岡のはじき球をきめ、34分同じくLI鄭が山路とぶつかり、そのこぼれ球をRW崔光石が決め早くも2-1と韓国は優位に立った。韓国はこのあたり、こぼれ球を拾ってしつこく攻めたてた単純なキックアンドラッシュが実を結んだもので悪コンディションが韓国のお家芸を非常に楽にしていたといえる。後半初め、ちよつとの間日本は五分五分に渡り合ったが韓国の体力は後半になつても衰えず前半と同じテンポで一見無茶な攻撃が26分、32分に、左OKと左センターリングをセンタースリーが押し込むようにして得点、更に35分日本バックスガドロ沼に足を取られている時、LI鄭が完全に抜きフリーとなつて決め試合を決してしまつた。

◇日本チームは全体としてよい所がなく、特にバックスはぬかるむが、特に過激なことを常にびくびくしているようで、マークするにしても最短距離を行かず大回りに相手に近寄っていたため常に一歩ずつ韓国におかれていた。一方韓国は腰が低く、あまり足をとられず安定したプレーに終始していた。韓国の得意のプレーを日本が老巧さと運攻で自己のペースに引き入れることが出来なかつたのはグラウンドのせいではやはり最大の敗因であらう。(中条)

※左ハーンにフック

※右へズームアウト



日本対韓国サッカー極東予選一回戦

後半35分、韓国RW崔(右端)のシュートは一たん日本ゴール前に止まったが、LI鄭(中央)ダッシュに韓国五度目の得点なる

S 29.3.8



# 韓国が出場権を獲得

## 第二戦は引分けに終る

### 世界サッカー 極東予選

韓国一勝のあとをうけた世界サッカー選手権極東予選日本対韓国の第二戦は十四日午後二時神宮體育場で進行。日本は十五分先取点を得たが前半に二点を返され後半十五分一点をあげ同点となったもののその後韓国は日本の追撃を振り切つてついに引分けとなった。

この結果規定により韓国は第一戦の勝点二点と引分以下の一戦の勝点三点となり日本の引分点一点に優り世界選手権への出場権を得た。

【解説】日本は雪辱の意気をもえ前(審判 ハラン氏)

日本 2-1-0-2 韓国

出学(出)出出出出出出出出

大 大 大 大 大 大 大 大

【日本】部木田林水益田川本谷納

【韓国】洪(鐘)成(貞)鄭(日) 2-2-9

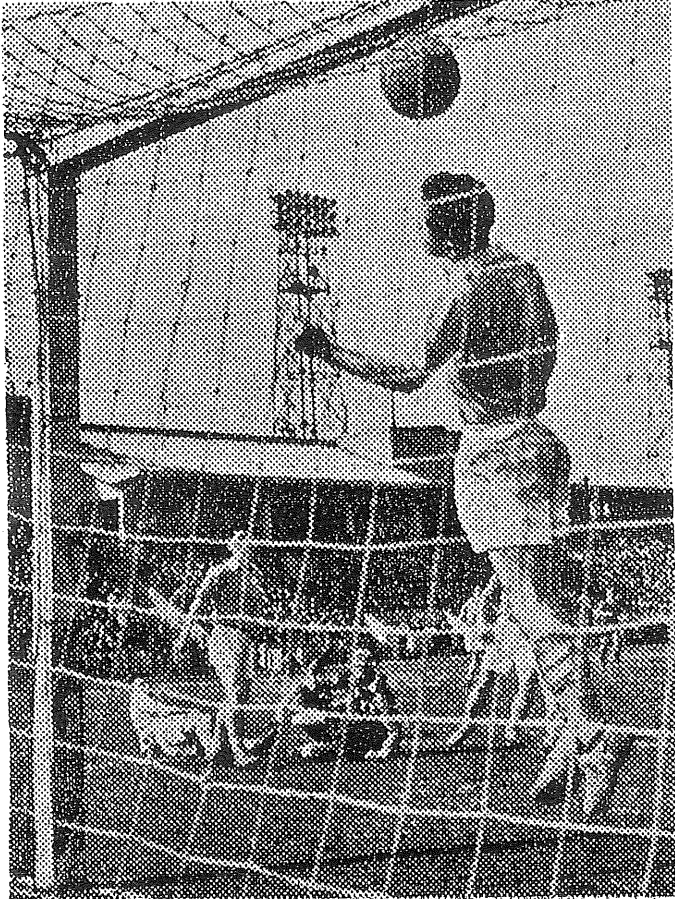
【韓国】朴李李 崔 崔 朴

半ははじめから積極的キープし、六分四分の押し込みの滑り出しであった。鴻田がフリーになつていたので日本の攻撃は鴻田からしばしば美を結びかけていたが韓国バックスのバックアップが早く、人ガキを作つて防ぎ決定的なチャンスは少なかった。しかし日本のパスはよく通り、調子は上々で日本の運攻戦法はグラウンド・コンテディションがよかつたので成功していった。13分鴻田のセンターリキングを加納がヘッドキング。シュートし韓国GK洪の好防にあつた。15分川本が加納、岩谷とわたり岩谷が決め、前の試合同様先取点をとつた。その後韓国の猛攻

をきりぬけた日本は押し気味であっただけに有利に試合が進べると考えたが24分R.Hの抽引な縦パスをL.I.鄭がよく突っ込みG.K.渡部をハンプルもあつて意外な得点を許し日本は半分おせつた。後半にも20分右O.K.を韓国の捨身に突込まれるなどのピンチがあり韓国は得意のコースOH↓OD↓L.I.↓Wをさかんに使つて攻めた形勢は逆転しはじめた。これは韓国FWの反則に近いフロッピングに日本バックスが悩まされ韓国の攻撃を誘にしたと見る方が妥当であらう。しかし韓国のゴール前の突込みは鋭く4分RW↓R.I.から左に入ったODが見事に

決め韓国がリードした。全般的に見て韓国は、その後から後半にかけて少しはチャンスがあつたがそのリードのあと意外な差をみせた。日本はその頃から後半にいくつてもよく攻めた。後半15分川本が左に持ち込み、そのパスを加納がシュート、G.K.ハンパルで日本は同点に追いついた。これはG.K.のミスだが得意のコースとしては日本が得意のもので、さらに加点することが期待された。特に二十分過ぎから速攻、運攻などを折り返し韓国ゴールをおひやなすこと数度、30分には齊川、加納、川本とわたり、川本が全くフリーとなりながらG.K.の好守には

はまされたのは全く惜しかった。攻めていて、しかもチャンスがあまりながら日本が得点出来なかつたのはシュート力がないせいだが、韓国も必死に防いでいた。運攻にあり勝ちなゴール前の捨身の突込みが辛くなかつたのが日本の勝てなかつた原因といえる。(中条)



日韓サッカー第二戦前半24分、日本G.K.渡部(左端)のハンブル・ボールをL.I.鄭ひっかけてシュート、R.H.平木(手前)ヘッドキングで防がんとするも及ばずゴール

◇サッカー全日本選手権関東予選  
第一日(東大)

早大	1	0	0	0	0	0	0
日社立	4	2	0	0	0	0	0
慶大	2	1	0	0	0	0	0
東大	6	6	1	0	0	0	0
東大	12	6	6	1	0	0	0
教大	14	6	8	0	0	0	0
早大	3	0	0	0	0	0	0

S29.4.25

◇サッカー全日本選手権関東予選(東大)

全立大	1	0	0	0	0	0	0
日社立	4	2	0	0	0	0	0
慶大	5	0	0	0	0	0	0
東大	2	2	0	0	0	0	0
東大	4	2	2	0	0	0	0
中大	7	4	3	0	0	0	0
教大	4	2	2	0	0	0	0
早大	3	1	2	0	0	0	0

S29.4.26

代表四チーム決る

全日本サッカー関東予選

全日本サッカー選手権大会の出場  
チームを決定する関東予選は二十  
九日午前十一時から東大農学部  
グラウンドで行われ全立大、慶大B  
R、中大、教大の四チーム  
の出場が決った。

全立大	2	1	1	0	1
慶大	10	7	3	0	0
東大	6	3	3	1	0
教大	3	1	0	2	0

S29.4.30

# スケジュール決る

## 関東大学サッカー

関東大学サッカー・リーグ戦のスケジュールが決つた。十月三日開幕戦、大対明大(神宮)マ十日慶大対明大、立大対早大、中大対東大(武蔵野)マ十七日教大対慶大、中大対明大、立大対東大(神宮)マ二十四日教大対東大、早大対中大(神宮)マ三十一日慶大対東大、立大対明大、教大対早大(神宮)マ十一月七日早大対明大、中大対慶大、教大対立大(神宮)マ十三日東大対明大、中大対立大(武蔵野)マ二十日慶大対早大(神宮)マ二十八日早大対東大、立大対慶大、教大対中大(神宮)

# きょうから関東大学サッカー

S 29. 10. 3

関東大学サッカー・リーグ戦は三日神宮競技場で行われる蹴球祭での教大対明大の第一戦で約二カ月にわたる日程のフタを賭ける。今年も昨年の東大と七位

の昨年以上に安定して二連勝をねらう教大を第一と考えるのが相当のようだ。

### 教大

全責が柔軟な体の持主でフット・ワークが良く、ムラのないのが教大の強味だ。GK村岡の卒業というただ一つの痛手も吉沢で十分補える。昨年HBで活躍

## 連勝ねらう教大

### 迫るものの中、立、慶

した小沢をOHに、HBの小宮をLIに上げ今年はその攻撃力をつけておろしFWラインの主力深沢をはいれIW山中、OF福原の突込みも鋭い。FWから下った倉持と弥津のFWラインがちょっと気になるがこれにて他校に比べずんばなな。

### 中大

小野監督の「ウチはバックスが弱いので三点は失う可能性があるが攻撃は自信があるので必ず四点はとれる」という言葉そのままだ。FWラインは強さ。おそろくリーグ一だろう。全日本代表選手で主将の長沼がLIにおり、内山、内野のIW、BIの進境も著しい。だがバックスは監督の言葉どおり非常に弱い。くすれ

すばらしい。その点FWの強い中大と全く対照的。

### 慶大

FWのリーマンだった重松の卒業が、なえてチームのまとまりを良くし、若返った。主将のOF岩淵はなかなか味のあるプレーをするしRI山中が負傷したあとに入った両角はLI酒井とともに強引に突込むプレーヤーで面白い。新人脇川(明星)も大いにプラスだ。しかし何かしら今年の慶大はじじいまりとまると通愛の力がなげ感だ。

### 早大

FWの吉田、塩沢、石田、FBの桜井が負傷している。だが他校のたれも早大は強うていと言っている。伝統の最後まで試合を捨てないがんばりがあるためらしい。事実HBラインの朝、岡、安田、FWの主将加計、杉野などは小柄ながら実にかんばる

### 明大

FWは高林、鈴木のおとを滝田(亜崎高)井沢(藤枝高)の両新人で補っているが、その他のDFWも二年生で若く、リーマンがひなす。GK玉城はじじい主将深田、大村のOH、景山、石塚のFBなどのバックスは

が、フィードが悪くラインも不ぞろいだ。FWに入重樫と新人大橋(広島付高)が加わったが技術的にはバックスの点でまだまだ。

### 東大

昨年比べ全体的に技術は向上して来てはいるが強くない。技術的に頼れるのは岡野一人。RH浅見がこれまた負傷しておろ不安もあるが、それにもまじてどうせ優勝は出来ないという気分的沈滞が強引なプレー、思い切った突進をばはんでいる。

### 明大

リーグ経験者も多く、東日本で活躍した亜崎の小林が加わったので今年も最下位になるとはなさそうだ。GK阪野をはいれバックスも良くなっている。主将能勢を中心としたFWも動きが烈しく、中々まはるは行かないが早慶とは十分対等に戦えるだ(中案)

# 教大、明大に楽勝

## 関東大学サッカー開幕

関東大学サッカーリーグは三百年後、三時より、神宮競技場で行われた第二十回蹴球祭の開幕式、小中学生などの模範試合につき、教育大対明大の試合でシーズンの幕をあげた。前年度優勝の教大は前半

【明大】

野場保木塚付山林島野井	5	0	6
牧流大久			
GK 鈴木大田徳小川龍			
FB 原山沢木原富中			
HB 沢持津			
FW 吉倉弥宮小畑深録福小山			
【教大】	9	7	4

第七回関西実業団サッカー選手権  
最終日は三時午後三時から西風球技場で挙行。さきの全国実業団に五連勝した田辺製菓がこの大会でも五連勝して昭和二十五年春以来の公式試合に七十六連勝した。

▽決勝

田辺製菓	10	5	1	0	1	湯浅
【教大】	5	1	1	1	1	電池

# 教大、慶大に敗る

関東大学サッカー

関東大学サッカーリーグ第二週慶大対教大、中大対明大、東大対立大の三試合は十七日午前十一時から神宮競技場で行なわれ、前年度優勝の教大が慶大のしぶといバックスを攻めあぐみ、2-1で敗れる番狂わせがあった後、優勝候補の中大と立大はともに明大、東大の果敢な試合ぶりに苦しんだがそれぞれ一点差で辛勝した。

慶大	2	1	1	0	1	教大	
中大	4	1	3	1	2	3	明大
立大	2	2	0	1	0	1	東大

S 29-10-25

【教大】

沢永津原沢山沢木原富中	14	6	8
GK 吉松弥宮小畑深録福小山			
FB 田口田本田風見田野島本			
HB 桶浜福山倉五浅島岡中藤			
FW 田口田本田風見田野島本			
【教大】	1	6	22

【早大】

島計崎田	11	14	4
GK 中加宮安			
FB 野橋田林極			
HB 中加宮安			
FW 杉大織平八			
【早大】	1	9	13

関東大学サッカーリーグ第四週 教大対早大、中大対早大の二試合は二十四日午後一時から神宮競技場で行なわれ、第一試合、東大は元氣

# 早大、中大を破る

関東大学サッカー

なく昨年度優勝の教大が6-0で楽勝、優勝候補の中大は攻守に振わず予想外の大暴落で早大に敗れた。

教大	6	2	4	0	0	0	東大
早大	5	2	3	1	1	2	中大

# 慶、立、中勝つ

## 関東大学サッカーリーグ

関東大学サッカーリーグ第二週、慶大、早大、東中の三試合は十日午前十一時から神宮競技場で行なわれ、慶大、立大、中大が勝った。

慶大	2	1	1	1	1	明大
立大	1	0	1	0	0	早大
中大	9	5	4	0	0	東大

# 維和、全関東に敗る

サッカー

日本サッカー協会に招かれたタイ国華人サッカーチーム維和足球队の日本での第一戦、対全関東選抜軍の試合は十六日午後三時二十三分から後楽園競技場で行なわれ、維和は個々にはなかなかのうまみを見せてはいたが、全体的にまとまりが無く、3-2で敗れた。

【維和】

東華書蘭茂民志申豊勳興	6	12	8
GK 少国琴			
FB 維和胡作陳錦輝			
HB 鄭双鐘張陳			
FW 6			
【維和】	4	9	3

攻めていたがバックス全員が早目に退り人ガキを作り混戦に持ち込む作戦の関東を抜き切れず、わずかに後半終了早目にロングシュートする戦法に変え20分RH作、34分LI張がきめ1点差に追いついたが、これも関東バックスが力を抜いたため、戦術的に見るべきものはなかった。またバックスは関東の松永一加納一三宮のコンビによる単純な攻法でめざまされる始末、これはマンツウ・マン守備

を用いないため。もし用いたとしても激しいタックルが無い維和は防ぎ切れなかっただろう。一方関東も上出来でなく運が良かったといえる。開始三分松永の縦パスを二宮シュート、これが一度RBの足に当たりゴールインという幸先の良いスタート、前半13分後半5分には桑田、二宮の絶好のセンターリングとともに加納がきめ3-0とリードしていたため危うく逃げることが出来た。(中条)

S 29. 10. 17

### 慶大、順当に勝つ

関東大学サッカー

関東大学サッカー・リーグ慶大対東大、立大対明大、教大対早大の三試合は三十一日午前十一時から神宮競技場で挙行、慶大は順当に勝ったが、次の二試合は無得点のまま引分けに終わった。慶大は前半東大に苦戦したが、後半松沢が二点目を加えてから地方を回復して楽に勝った。東大はわずかに岡野のクリーン・シュートで一点を返したのみ。立大は凡戦して下位の明大に引分けた。早大戦はこの日の好試合で、両軍FW

よく動き接戦を展開、早大は八重樫、教大は福原が共に惜しいシュートを逸し0-0で引分けた。

慶大 4 (1-1-0) 1 東大

(東大)

田口 田本 田野 嵐 本島 野

横浜 福山 倉浅山 五藤 中岡  
0 11 11

GK FB HB FW  
CK CK  
FK FK

岡田 崎川 島村 川角 淵井 沢  
15 3 6

山吉 宮北 三脇 岡若 酒松  
(慶大)

立大 0 (0-0-0) 0 明大

(明大)

野井 木付 保塚 沼林 島勢

牧新 鈴田 大久保 相小 大能  
3 9 17

GK FB HB FW  
CK CK  
FK FK

城坪 山 村野 田 森 橋 田 田 中  
8 4 11

玉石 景 大神 浜 横 高 坪 滝 田  
(立大)

早大 0 (0-0-0) 0 教大

(早大)

島計 崎田 野橋 田 林 徳

中加 宮安 岡 胡 杉大 織平 六  
7 14 0

GK FB HB FW  
CK CK  
FK FK

沢川 津 原 沢 山 沢木 原 宮 中  
5 20 7

吉瀬 根 宮 小畑 深 鈴 福 小 山  
(教大)

### 教大、優勝圏外に

関東大学サッカー

関東大学サッカー・リーグ第六週早明、中慶、教立の三試合は七日午前十時半から神宮競技場で挙行、教大は敗れて優勝圏内から落ち立大は一位に推出した。

早大 2 (1-1-0) 0 明大

中大 3 (2-1-0) 1 慶大

立大 1 (1-0-0) 0 教大

S 29.11.8

### 全関東、全関西と引分け

東西対抗サッカー

第二十四回東西対抗サッカー試合は四日午後二時半から神宮競技場で超OB東西対抗に続いて行われた。全関東は前半予想外の不調でそれほど好調とも思われぬ全関東の個人プレーにかきまわされ前半二点を失い後半よく追ったが及ばず引分となった。

▽超OB対抗

四十雀 4 (2-2-0) 0 鹿嶋  
(関東)

▽東西選抜対抗

全関東 2 (0-2-0) 2 全関西  
(引分け)

▽東

岡田 木 村 葉 木 林 宮 沼 納  
井 李 4 3 24

▽西

村 土 青 三 天 鈴 小 二 長 加  
5 1 17

▽西

部 木 田 田 本 上 村 川 田 谷 弘  
5 1 17



十月三日に開幕した関東大学サッカー・リーグは合計九週のうち廿日の早慶戦、廿八日の早東、立慶、教中の四試合を残すのみとなった。

今年のはじめ優勝候補といわれた昨年二位の教大が第三週に慶大のねほりに敗れ、昨年二位の中大も第四週に早大の果敢な攻撃になすところなく完敗するという、上位二校の予想外の不振で近來にないほどの混戦を続け日程の三分の二を終えても優勝の行方が全く分らないという始末である。

十三日の第七週になり立夫が中大をゴールで辛くも破り、やっと立夫が大きく優勝の線に浮び出て来た。現在立夫は4勝1分でトップにあり対慶大戦のみを残している。

立夫はリーグ後半にめきめき力をつけて来た早大に一番最初当りゴールで勝つというよい滑り出し、最下位の東大はゴールとい

# 立大、優勝の色濃し

## 関東大学サッカー・リーグ

### 技術より闘志の早慶戦

う危い試合をし、六位の東大には0-0で引分、教大にはRW横森があげた一点を必死に守り切つて辛勝、中大の主力の長沼、野崎が

ンも後半にはまとまった動きを見せて来たが、若い選手が多く得点があまり期待出来ない。全体的に失点を少なくするため、自陣ゴールでは極めて慎重、また攻撃にはRWのカバーをつとめ、中盤では球を追わねばバックスが崩れるという自覚のもとに必死で動いている。その点では今年の立夫はRWが弱いため、各自が責任あるプレーをし団結してここまでこぎつけられたという感が深い。

3勝1敗の慶大、2勝1敗1分の早大が立大に次ぎこの三校が優勝圏内にある。教大、中大はすでに二敗したため圏外に落ちてしまつた。

早慶は目立つた選手はいないが伝統的な強さを持つている。小ツブながらそれぞれ中、教を破つた闘志はたいしたものだ。どこが優勝するか現在上位の立、早、慶三校について個々に当って見ることになるだろう。(中略)

負傷欠場したためゴールで中大に勝ち何れも一点差で勝つという幸運に恵まれて来た。

立夫はサイト・ハーフの大村、浜田とLB景山がよい。FWライ

立大は対慶大に勝つか、また引分けても文句なしに優勝。慶大は残す対早大、对立大の両方に勝てば優勝、早大に引分、立大に勝てば立大と同率、優勝決定戦となる。早大は残る対慶大、対東大の両方に勝ち、しかも慶大が立大に勝つた場合のみ立大と同率となり優勝決定戦にもち込める。

早慶戦はどちらが勝つか予想は難しい。この春のナイター定期戦はわずかにRWによる得点で3-2で慶大が勝っているが、伝統に彩られた早慶戦は技術より闘志が勝負を決する。また今年優勝にひびくだけに見てたえのある試合になるだろう。(中略)



早慶サッカー 後半30分、慶大ゴール左前から早大L1平林(右端)シオフサイドがあつて得点とならず。左から慶大R日吉

# 早大、慶を振切る

## 関東大学サッカー 前半の得点を守り

サッカー協会に手渡された。

東京キ	5	2	1	1	2
サッカー	3	1	1	1	2
早大	2	0	1	0	0
慶大	0	1	0	0	0

【早大】

島計崎田	野橋田林極	1	15	12
中加宮安	岡胡	GK	FK	FK
GK	杉大綱平八	3	7	21
GF	重			
HB				
FW				
FW				

【慶大】

早慶サッカー協会会長で、同国のオリピック国際委員のバレン・ゼーラー博士が日本サッカー協会にあってメッセージが、来日中のアルゼンチンタンゴ踊りオケルゲスタ・ティピカ・カチーロのマネージャー、サラス氏からサ

【評】止みかけていた雨が試合開始とともに降り始め、それだけでなくグラウンドの悪い神宮は最悪のコンディションとなり泥まみれの早慶戦だった。前半、慶大は立上りから中盤で長く拾って六分

攻め入り、慶大RB吉田のミス。キックをR1大橋がきめ、10とリード、後半余裕のある試合で慶大を押し切った。

この試合、前半押していた慶大の不運といえは不運、しかし全般的には早大のキックとラッシュユキくり返す戦法が、パス戦法を得意とする慶大に比べ悪コンディションに適していた。

(中冬)

四分の優勢だったが、6分早大はゴール前で得たFKをR日安田キック、それをOF織田がバック・ヘッドイングして幸運の得点を取った。これは早大がはじめて慶大陣に攻め入ったのが実を結んだもので、慶大に与えた精神的打撃は大きかった。このため慶大バックスは浮足立ち、ストップが悪くなり、ロビングをあげてゴールにたれ込む早大FWにすつかりつけ入れられてしまった。それに加えてFWはタイに持ち込もうとして確実な得点をねらい、早大ゴール前で軽快なパスを連発しようとしたため、悪いグラウンドに足をどられシユートが弱く、早大に比べてはるかに多いチャンスを生かせなかった。それに早大バックスも必死で守り、加計、宮崎の両RB、サイド・ハーフの安田、胡はノー・ストップで早目にけり出し、強引なキックを身くくり返していた。37分早大は数少ないチャンスで







# 気力で勝った立夫

## 教大・中大は自滅の形

### 学大東関 サッカー総評

○：関東大学サッカーリーグは上位五校が実力互角で接戦のうち二カ月にわたる日程を終了、立夫が一戦一戦を慎重に戦

い、早東教中を何れも一点差で辛くも降し明慶とは引分け、四勝二分で二位の早大を勝点一点差で抑え、大正十三年リーグ開設以来初めての優勝という快挙をなし遂げた。

○：立夫には次のようなことが幸いしていた。初め優勝候補の筆頭にあげられていた教大、中大が予想外の不振だったこと、何時もシーズン後半に強くなる早大に第一戦で当たったことなど、技術的には六名のバックス中五名が最上級生で守備力が比較的安定していたこと(六試合で失点0)後半FWの横森、高橋、田中が一心見られるようになったこと、などだ。したが正直のところ優勝した現在でも技術的には他校に較べず、抜けて

た力を持っていると思えない。総得点は六試合で7点、得点量順位は六位)個人の方ではむしろ教大の方が脚、体、技などの機動力でははるかに優れている。優勝は奇跡的であるといえるかも知れない。

○：それでは何故勝ったか。技術的に優れ、公式とおりの軽妙なパス、キックを持つチームは強いがそれだけでは必ずしも勝つとは限らないからだ。今年の立夫は一つのまとまった気持のもとに動いていた。FWが下級生ばかりでリーグ経験が少なくあまり得点が期待出来ずわずかの失点が致命的になるため上級生の身を捨てても守り切るという気持が下級生に力を与え、それが毎日の練習にまで徹底していたのだ。この気持が選手たちに責任を与え、積極的な球を追う自覚と一つのことを徹底的にやるという気力とチームワークを生んだとみたい。

○：昨年以上位の教大、中大は持てる力を出し切れず期待はずれの試合をした。弱い相手には大勝したが互角のチームに敗れている。個々の優れた力をチーム力にまで高めることが出来なかったのだ。両校とも勝つつもりで戦い、出来るだけ失点を少なくしようとはした

が、立夫に劣らぬ守備陣を持ちながら結果は逆だった。気力不足が不振の原因だが好意的にみれば個々が優れているので勝つ方法が余りにも多過ぎ、一つのことも徹底的に実行出来る自己の力を過信し過ぎ自滅してしまっただけだ。

○：今年の早慶はメンバーはそれほど優れていると思えないのに伝統あるチームの闘志をみせ実力以上の試合をした。とくに早大は第一戦の調子が悪い時に立夫に惜敗

し優勝をのがしてしまった。立夫に引分でもしておけば文句なしの優勝だったのだが、後半快調だっただけに惜しまれる。シーズン始め早大は選手自身あれほどまでやれると思わなかったのだろう。優勝出来るという自信がないため第一戦を失ったのだと思えない。早慶は第二戦で教大を降し、最終戦でも悪コンディションの中で立夫と互角にわたり合ったがその元氣はたいしたものだった。今年のように技術的なレベルが接近しておればちょっとした好不調が勝負を決してしまふ。早慶は闘志によって好調の波をもたらし、あれほどまでやれたのだと思ふ。

な色でも良いからカラーを着けて来て欲しいものだ。

○：今年にはリーグで近來珍しいことが二つ起った。第七週の立夫対中大の試合開始間もなく中大のGK小林が立夫FWのチャージを受け負傷、審判はGKの交代を認め、二部の法大対一橋大の試合でもこれと全く同じようなGK負傷の場面があり、その時の審判はGKの交代を認めず十人で試合して問題になった。規則によればどちらの処置も正しいらしいが、協会やリーグがはっきりした規則の細則を決めていたら、これほど問題にならなかつただろう。もう一つは最終日の教大対中大が悪コンディションのため中止となったことだ。聞けば教大の方は試合をやるものと決めては切り切っていたそうだが、選手の健康上思わしくなから中止したのだそうだが、それならば同じコンディションのもとで行われた、前の優勝にひびく立

大対慶大の試合は何故やったのだろう。こころあたりも選手自身のコンディションの調整の都合もあるだろうからはっきりと大会規則に明示して欲しいものだ。

大対慶大の試合は何故やったのだろう。こころあたりも選手自身のコンディションの調整の都合もあるだろうからはっきりと大会規則に明示して欲しいものだ。

大対慶大の試合は何故やったのだろう。こころあたりも選手自身のコンディションの調整の都合もあるだろうからはっきりと大会規則に明示して欲しいものだ。

大対慶大の試合は何故やったのだろう。こころあたりも選手自身のコンディションの調整の都合もあるだろうからはっきりと大会規則に明示して欲しいものだ。

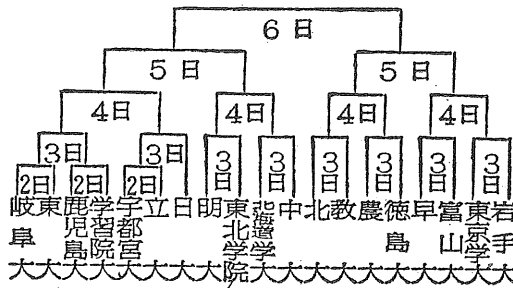
大対慶大の試合は何故やったのだろう。こころあたりも選手自身のコンディションの調整の都合もあるだろうからはっきりと大会規則に明示して欲しいものだ。

大対慶大の試合は何故やったのだろう。こころあたりも選手自身のコンディションの調整の都合もあるだろうからはっきりと大会規則に明示して欲しいものだ。

大対慶大の試合は何故やったのだろう。こころあたりも選手自身のコンディションの調整の都合もあるだろうからはっきりと大会規則に明示して欲しいものだ。

全国大学サッカー 一月  
I 選手権組合せ 二日

から五日間神宮球場、同絵画館前で行われる全国大学サッカー選手権大会の組合せが二十七日次のように決った。



S 29  
12  
28

S 29-12-31

全国大学  
サッカー

立と早で決勝か

地方チームの進出期待

第三回全国大学サッカー選手権大会は十九校の間で新春の二日から五日間神宮球場、同絵画館前球場で行われる。大学のサッカーは関東、関西にリーグがあり、この両地域の諸校は試合に恵まれている。この大会はほとんど試合らしい試合のチャンスがないその他の地域の普及のため三年前に発足したものの。しかし例年東京の大学の参加が多く、しかも圧倒的に強く関西のリーグは費用の関係でほとんど参加しなかった。その点本年も参加十九校のうち東京が十校、関西は不参加でその他が九校でちよつと多いが、鹿児島大、富山大、東北学院大、北大などが今年も顔をみせ徐々にこの大会も成長しつつある。そして昨年まで準々決勝に進むのが精一杯だった地方チームが今年ほどの程度の試合ぶりを見せるかが期待される。

第二ブロックの地方チームは鹿児島大、岐阜大、宇都宮大がいる。鹿児島は九州では八戦全勝、五月の全日本では優勝チームの慶大BRBに3-0で敗れたが健闘している。このチームの特徴は地方特有の体力と闘志に優れていることだ。一回戦でこれに当る学習院大は昨年リーグに加盟しリーグは五部で優勝、入替戦で東海大を降して四部に昇格した新進。恐らく第一日の一番の好試合となるだろうが、鹿児島にとっては他の圧倒的に強い関東大学に較べると比較的恵まれたかもしれない。勝てるような気がする。二回戦では東大対岐阜大の勝者と当ることになっており準々決勝へ進出も考えられないことはない。

東大と当る岐阜大はスケールの点ではまだまだで、関東一部リーグに較べると実力の落ちる東海でしかも圧倒的に強い大学ではないので相手は関東リーグ二部の最下位の東大だがやはり歯が立たないような気がする。宇都宮大は東日本サッカー選手権で優勝の宇都宮工高をはじめ宇都宮農、真岡高、水戸一高などの名門の出身者でつくられサッカー常識も発達しており面白いチームだが一回戦で当る相手は関東リーグで優勝した立天とあつては恐らく勝味はないだろう。第一ブロックでは順当にゆけば立天の準決勝進出といつことになり

そうだ。  
第二ブロックで地方チームは東北学院大、北海道学大の二校。東北学院は戦後東京の各大学と定期戦を結び最近はめきめき力をあげ、全日本選手権では一回戦で優勝した慶大BRBに3-1で敗れたが注目に値するチームだ。一回戦で明大を降せば次に今季不振の中大と当るだけに地方チームで準決勝進出のチャンスと実力を持つ唯一のチームである。

北海道学大は北大と一勝一敗の成績、しかも北大は練習試合で東北学院に1-0で敗れているので実力的には一段下のレベルと考えられる。一回戦は不戦勝だが二回戦に中大と当るので勝味はない。以上第二ブロックでは東北学院が中大が出てくる公算が大きい。  
第三ブロックでは北大と徳島大がいる。北大は教大と当る。教大は関東で優勝を逸したが実力は

大がこのブロックで勝ち抜き準決勝に進むのが順当だが、あるいは富山大が早大に一あわふさせるかも知れない。岩手大は関東リーグ二位の東京学大とは良い勝負をするだろうが早大にはまず勝てないだろう。各ブロックの勝者と考えられる立天、中大か、東北学院、教大、早大のうちどこが優勝するかの手想は全く難しい。リーグの出来はえから行けば立天対早大が決勝となりそうだが、例年この大会はリーグ成績の良かったチームは不戦勝に終わっている。秋の後半めきめき力をあげて来た早大あたりが苦しい試合をつつて初優勝しそうな気がする。(中条)



# 東大、闘志で立大圧倒

## 東北学院、中大に惜敗

### 全国大学サッカー 準々決勝

本社後援第二回全国大学サッカー選手権大会第二日は四日前十時から神宮競技場で準々決勝四試合が行われた。前年度の勝者で昨秋の関東リーグでも優勝した立大が東大の果敢な試合ぶりに敗れるという番狂わせがあった。以外は中大、教大、早大がそれぞれ

れ順当に準決勝に進んだ。▽準々決勝

東大 1-0 立大

田口 本田 見本 野島 松

榎江 福山 倉浅 藤島 山中小  
GK FB HB FW CK CK

城井 山口 野田 森橋 島田中  
GK FB HB FW CK CK

立大 3-7 東北学院大  
王石川 大浜 横高 坪内田

中大 2-0 東北学院大  
座浦 泉本 川目 藤入 田橋 間

古三 大松 大中 須賀 土高 本  
GK FB HB FW CK CK

野高 本子 代崎 原 藤川 山  
GK FB HB FW CK CK

内小 原金 御野 吉 加北 内  
教大 3-0 農大  
内池 津持 永坂 村田 木宮 本

横小 弥 倉松 長 志原 鈴小 松  
GK FB HB FW CK CK

山村 中原 復 村高 林 部  
GK FB HB FW CK CK

景校 田藤 佐 石日 小坂  
GK FB HB FW CK CK

早大 8-5 東北学院大  
島崎 崎田 藤田 本林 田中 櫻

中野 宮吉 伊勢 西平 越石 八  
GK FB HB FW CK CK

山崎 島尾 本浦 沼崎 沢原 政  
GK FB HB FW CK CK

全国大学サッカー選手権 中大対東北学院延長三分中大LW内山からのパスをゴールキーパー(右から二人目)のシュートで防ぐ



東大のチーム・ワークと闘志である。大学リーグの技術程度は選手の間で、気を抜いた教大早大と同等に戦ったが実力の差は如何ともなし得なかつた。農大は前半教大LWの松本にロングシュートされ、一点を失い後半タイム・アップ直前連続二点を失うまではむしろ押し返したが逆転のチャンスが数度あった。学大は立上りがまずく早大FWにかき回されたが、最後まで試合を捨てず、後半のがんばりはたいしたものだった。

(中条)

【早大】  
島崎 崎田 藤田 本林 田中 櫻  
中野 宮吉 伊勢 西平 越石 八  
山崎 島尾 本浦 沼崎 沢原 政  
笠坂 五十花 三昭 新梅 小武  
【学芸大】  
1-9 11

【評】東大の出来はすばらしいかった。試合内容は五分五分の大戦だったがチャンスは東大がはるかに多く、タックルに次ぐタックルをくり返す東大のすさまじい意気込みが立大を圧倒していた。結局後半8分LW中島のシュートがCF山野の体に当たり、それが立大GK玉城の逆を衝いてゴールした幸運に近い一点が勝負を決してしまつた。リーグで最下位の東大が一位の立大に勝つた原因は

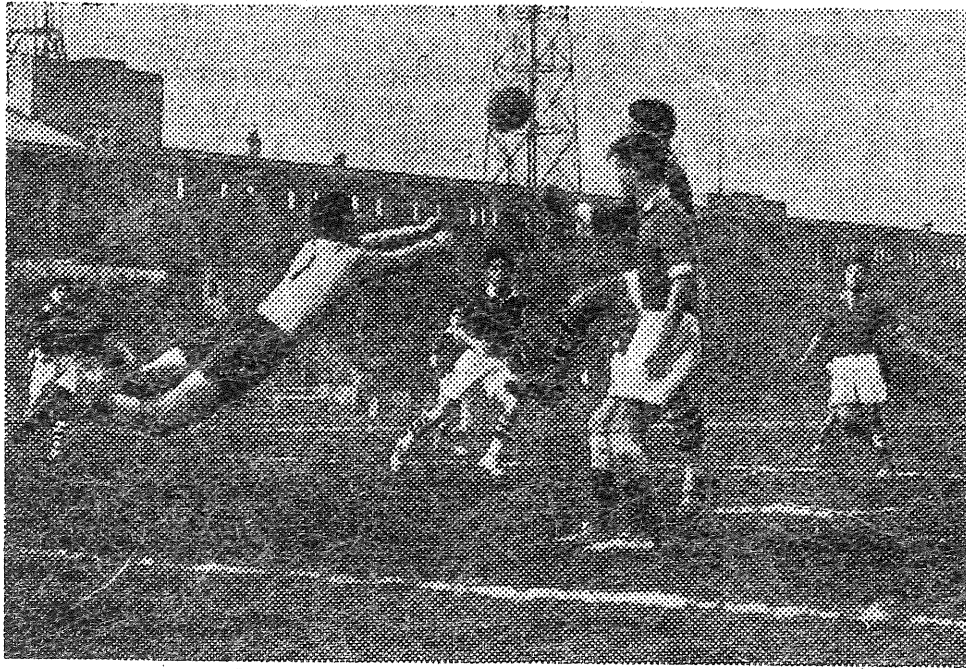
○：関東リーグ二部で二、三位だった農大、学大はいずれも良くなれば、気を抜いた教大早大と同等に戦ったが実力の差は如何ともなし得なかつた。農大は前半教大LWの松本にロングシュートされ、一点を失い後半タイム・アップ直前連続二点を失うまではむしろ押し返したが逆転のチャンスが数度あった。学大は立上りがまずく早大FWにかき回されたが、最後まで試合を捨てず、後半のがんばりはたいしたものだった。

全国大学  
サッカー

# 中大と教大で決勝

## 東・早とも抽選で敗る

本社後援第三回全国大学サッカー選手権大会第6日は五日午後零時半から神宮競技場で準決勝東大対中大、教大対早大の二試合が行われた。無風の絶好のコンディションのもと両試合とも2-2の



まま延長に入り、好試合となったが、結局抽選で決勝は教大と中大との間で争われることになった。  
▽準決勝  
中 大 2 0020  
大 東 2 0020  
(抽選)

田田見本 田田見本 野島松	1 16 15
楠 福深山 倉澤 島山中 小	1 16 15
GK FB HB FW	CK CK
林高本代 崎村 田崎 戸山	5 6 7
小小原 野中原 宮長内	5 6 7
【中 大】	
教 大 2 0020 (抽選) 0011 2 早 大	
島井 崎田 藤田 野田 田林 松	0 5 16
中 松 官 官 伊 藤 杉 石 橋 平 八	0 5 16
GK FB HB FW	CK CK
内 沢 津 持 水 坂 下 木 村 宮 本	3 6 14
横 小 弥 倉 松 長 官 銘 志 小 松	3 6 14

【評】準決勝の両試合とも一進一退で抽選となつてしまつたが、敗れたチームは全くあきらめ切れないものがあるだろう。それほど近來になり好試合だった。中大は一昨年のこの大会で東大に敗れている。東大は種々決勝で立天を破り全く好調。中大は慎重な試合運びで3FBは常に振り目だった。東大は攻められているときFWライ

ンの藤本と山野の二人しか中大のFBラインに残つておらずその上ピツタリとマークされていてほとんど攻める態勢でなかった。そのため前半はHBラインの強い中大が押しきみたが東大も良く防ぎともに無得点に終つた。だがコンドのない東大も当りはものすべく、前後半とも中大陣に攻め入つた時には中大バックスがける足もとにいくつか片端からツツし、チャンスにならないものを良くチャンスにする激しい意欲で戦つており、これが後半一時はリードするといふ意外な波乱を呼んだ。

後半3分中大RW原田の逆襲で東大は浅見、深見の左サイドがかたまつたところを抜かれ得点されたが、これを追つて6分同じく東大は逆襲からR1島田がペナルティエリア外から山なりのシュートを放ち同点。その後東大は疲れ、また押し続けられたが25分混戦からL1中島が島田からの横パスを決めるといふすばらしいさだめた。結局東大はFBが気を抜いたところを27分中大RW中村に浮き球を押し込まれ抽選負けを喫したが、リーグでは中大に9-10で完敗しており、だれが見ても技、体力に劣る東大がこの様に善戦したのは一すじに球を追う選手たちの気持の一致であつた。

【中 大】

あり、ついに若手選手の試合で球はオープンに回ると、良く走るので小気味のよい試合だった。前半早大のFWは良かった。リーグ大は後半疲れたためか動きがにぶくなり5分教大RW宮下にきめられ、22分CF織田が混戦からフツシュしてリードしたが、2分後に教大RW宮下に決められ追いつかれてしまった。(中条)



教大対中大サッカー決勝戦、延長四回目の前半、分教大W志村右からのロビンソンが押し込み決勝点をあげる(右から中大F小高、教大CF鈴木、教大FW志村、中大GK小林、中大CH幸)

# 教大、中大破り優勝

## 全国大学サッカー三位戦、早東引分け

第三回全国大学サッカー選手権大会最終日は六日午後二時から神宮競技場で早大対東大の三位決定戦

につつき教大対中大の決勝戦が行われた。教大は前半二分幸先のよい一点を挙げたが、後半終りにタイにされて延長戦となり、延長四回目の前半に決勝の一点を挙げ辛

### 【早大】

島井 崎 藤田 藤野 本田 林 榎  
中校 吉 伊 柳 志 西 織 平 八  
GK FB HB FW  
田 沼 島 田 見 本 田 野 崎 松  
楠 福 柴 中 金 浅 藤 島 小 五 小  
【東大】

くも初優勝した。  
▽三位決定

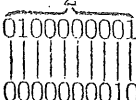
早大 1



東大

▽決勝

教大 2



中大

### 【教大】

内 沢 持 坂 永 津 村 中 木 宮 本  
横 小 倉 長 松 弥 志 山 鈴 小 松  
GK FB HB FW  
林 高 本 代 崎 田 田 崎 戸 山  
小小 原 御 野 村 原 若 長 内  
【中大】

【評】中大は立上りまき早く特にF

Bがもたつき無意味なキックで自ラピンチをまねいた。試合開始二分ゴール前の混戦となり教大FW松本がうまく決め教大は幸先のよい滑り出した。しかし教大のその後の試合ぶりは全くみじめでほとんど押し続け、後半廿分過ぎまで中大の一人舞台だった。だがその中大も数多くのチャンスを持ちながら最後の極め手なく幸、野崎などのFBが中盤で持ち過ぎて中央突破をあせりウイングを使わなかったのが自然攻めあくむ形となった。この中大のFWの無力は主としてポジションが悪く予

測したプレーの出来なかったことと原因で、球が良くコースに出た後あつては遠くつらりと走っていたので、さして強くない教大FBに簡単に止められていた。その一例は井分OFFLWと回りゴール前にセンターリングがうまく

流れたのに反対側がスタートがおくれ全く寄せがなかった等、このようなチャンスは十度を下らなかつたが一度もものに出来なかつた。好意的な見方をすれば、その後、後半九、十分に村田の絶好のシュートがバーに当り、また内山のフリー・シュートが、GKの正面を衝くなど、絶好のチャンスもあつたから、ややついていないという感じがなくてもなかつた。中大は廿五分R原田がペナルティ・エリア付近からフリーとなつて

同点とし、これを境に教大もやや元気を取りもとし試合もやつと活気を帯びて来た。三十五分から四十五分間に教大の得たCKは四本、それがいずれも中大ゴール前に好球となつて飛び両軍が混み合ったが、中大に必死に受けられ、教大にとつてのただ一度の得点機らし

いものもためた。そして延長、やや中大が押し気味のうちに一進一退をつづけ三回目を終るころは選手達も疲れた。四回目の延長の前半教大FW志村が石からのロビンソンを押し込みやつとけりがついた。(中案)





# 関東予選組合せ

## 全日本サッカー

第三十五回全日本サッカー選手権  
関東予選は来る九、十、十六、十  
七の四日間、東大農学部および神  
宮競技場で行われるが、その組合  
せが六日次のとおり決まった。

【A組】マ一回戦(十六日) I (A)  
の勝者対(B)の勝者(O)の勝  
者対東大L Bマ決勝(十七日)  
(以上いずれも東大グラウン  
ド)  
【B組】マ一回戦(九日) I (A)  
中大対B P B (B) 明大対学芸  
大マ一回戦(十六日) II (A)  
の勝者対(B)の勝者、茨城日  
立対教大マ決勝(十七日) (C)  
以上いずれも東大グラウン  
ド)  
【C組】マ一回戦(十日) II (A)  
駿台蹴友会対早大(B) 教大対

金山梨マ一回戦(十六日) I (A)  
の勝者対(B)の勝者、日  
立本社対東大マ決勝(十七日)  
(一回戦一試合は神宮競技場、  
他は東大グラウンド)  
【D組】マ一回戦(十日) I (A)  
全立大対東誠(B) 学智院ク  
対日産化学マ一回戦(十六日)  
I (A)の勝者対(B)の勝者  
W W W対日大マ決勝(十七日)  
(一回戦一試合は神宮競技場、  
他は東大グラウンド)

S 30. 4. 7

◇サッカー全日本選手権関東予選(東大農学部)

中大ク	7	2	1	1	2	日本鋼管
明大	2	0	0	0	0	教大ク
早大	3	0	1	0	1	東大
立大	1	0	0	0	0	W W W

以上の四試合の勝者は関東代表となった。

S 30. 4. 18

# 二十九日に羽田着

## ビルマ・サッカー・チーム

朝日新聞社の後援で日本蹴球協会が日本に招くビルマ・サッカー・チームは廿八日夜日本警の手定が二十四時間延び、二十九日午後七時半東京羽田警のBOAC機で来日することになった。また十月五日ビルマと東京で対戦する関東選抜軍のメンバーが二十八日関東蹴球協会から次のように発表された。

- ▽監督兼選手 菅洋一(農大出)
- ▽マネージャー 藤野若夫(立大出)
- ▽GK 岡田陽三郎(同和火災)
- 小林信秀(中大) マバックス最
- 山本勇(立大) 青木三三(千代田生命) 安井清志(法大) 高林隆(田辺製薬) 橋原三三(教大)
- 三村格一(東邦チタニウム)
- 平林俊次(早大) 浜田彰介(千代田生命) M F W 岩淵功(東京トヨタ) 長沼健(古河電工) 八重樫茂生(早大) 内野正雄(中大) 鈴木徳衛(日立本社) 田中雅和(中大) 岡野俊一郎(東大) 小林忠正(東京海上) 志賀広(浦和高)

S 30. 9. 29

# 関東大学サッカー展望

上

関東大学サッカー  
 リーグ戦は十六日から神宮競技場で約一カ月にわたる競技のフタを開ける。年一回の一番大切なリーグ戦を目ざして各校とも今年も夏の間は基礎訓練と強化をねらって約一カ月の合宿、さらに北海道から九州まで思い思いに遠征試合をして相当自信をつけて来ている。ところが優勝するか、下馬評では昨年一位の早大を筆頭に、優勝の立大、それに中大の三校が有力とみられている。だが細かく検討すれば実力は紙一重といえないこともない。立大にしても第一戦対明大に必ず勝つとは言いが切れない。むしろ逆のことも考えられる。この上位三チームといえどもちよっと油断すればたちまちB級に転落の可能性がある。こんなところでは優勝するかわらないといつてもいいのである。

【早大】昨年第一戦の対立大でつまずき1-0で惜敗し、後半のす

ばらしい調子を無にして優勝を逃してしまつた。早大はいつも滑り出しが悪い。今年も第一日にうるさい中大と当たる。卒業生による痛たる活躍のフタを開ける。年一回の一番大切なリーグ戦を目ざして各校とも今年も夏の間は基礎訓練と強化をねらって約一カ月の合宿、さらに北海道から九州まで思い思いに遠征試合をして相当自信をつけて来ている。ところが優勝するか、下馬評では昨年一位の早大を筆頭に、優勝の立大、それに中大の三校が有力とみられている。だが細かく検討すれば実力は紙一重といえないこともない。立大にしても第一戦対明大に必ず勝つとは言いが切れない。むしろ逆のことも考えられる。この上位三チームといえどもちよっと油断すればたちまちB級に転落の可能性がある。こんなところでは優勝するかわらないといつてもいいのである。

## 実力は紙一重

### 有力な早大・立大・中大

【立大】昨年はFWが弱く、守備に重点がおかれ、それが成功して優勝出来たのだが、その原動力に勝つたFW陣の浜田、神野、大村の卒業は痛い。FWに好選手梶山が残っているが守備陣のスケールはやはり小さくなったようだ。従つてFWの活躍如何が立大の運命を左右するわけ。FWは三年前、一年生ばかりで出発した高橋、内田、坪島、横森のラインも今年でコンビは三年目。下級生ばかりで弱いとはいへなくなった。昨年うまいプレーを見せたI・蒲田が前半出られないのはさびしいが順調に滑り出せばうるさいチーム。

【中大】HB陣の李、野崎の卒業は痛い。バックスは立大同様弱くなった。GK小林とH.O御代のカンの良いプレーが期待されるだけである。だがFWは日本代表の内野と田中のコンビが良く、長沼、内山の卒業もあまり痛手になつていない。この二人は最近突込みも良くなって来たし自信をつけて来たので他チームにとっては恐ろしい存在だ。昨年のように持てる力を十分出し切らず、つまらないミスをするおそれもあるが、第一戦には、強いといわれる早大と当たるだけにもし早大に勝てば優勝ラインに大きく浮き上つて来る。

(中条)

# 関東大学サッカー展望

下

【慶大】三教年来低調であつた。その原因は新入生に目がい

早大、立大、中大をA級とみたがこれに続く慶大、明大、教大、東大が実力的に劣る落ちるわけではない。一昨年の教大、昨年の立大の初優勝はともに番狂わせが積み重な

り、A級ともみられなかつたチームが優勝したものでこうしたことは大

学サッカー界の数年来の傾向ともいってよい。今年も番狂わせが相当生

まれるのではないかと気がす

る。

## 慶・明に大量の新人

### 陣容揺がぬ教大・東大

選手が入らなかつたため、一時はチーム編成も危ぶまれたほどであった。今年はどういう風の吹き回しか新人を大量に得た。高校時代に鳴らした巨野(三國)三宮(慶高)小川(北園)はずと第一線に使える。六月の新人大会でも決勝で早大を1-0で降してすぶる元気である。伝統の軽妙な短バ

【早大】全チームの中で卒業生による痛手が一番少ない。FWの岡野、中島、山野のコンビ、HBの浅見らは他校にくらべて見劣りしない。強いGKも畔柳(教大付属)が加わり安定して来た。ここ数年の珍らしいくらい充実ぶりだから面白い勝負を見せてくれる。【中条】

S 30.10.14

# 明立引分け、教早勝つ

## 関東大学サッカーリーグ開幕

関東大学サッカーリーグ戦第一日は十六日午前十一時から神宮競技場で開幕。明対立大、慶対教大、早対中大の三試合が行われ、明立戦が引分けとなった後、教育大は慶大に、早大は中大にそれぞれ快勝した。

立大 2-1-1-0 2 明大  
 (引分け)

【立大】  
 吹口山田井森島中田沼 5 13 12 0  
 矢川景武石橋伊坪高田  
 GK FB HB FW  
 坂柳水橋島田林山沼沼島 4 15 13 1  
 保曹早大広和小徳中柁橋  
 【明大】  
 教大 2-2-0-0 0 慶大

【教大】  
 内中山原津水宮勇村持中 6 4 19  
 横野畑福橋松小鈴木倉鈴  
 GK FB HB FW  
 田川藤野崎村宮川井中野 5 3 8  
 松小神土宮三脇酒山耳  
 【慶大】  
 早大 5-3-2-0 3 中大

# 教大・立大・早大勝つ

## 関東大学サッカー

関東大学サッカーリーグ第一節  
 教大 4-3-1-1 1 東大

明大の三試合は二十三日午前十一時から神宮競技場で進行、教東戦は東大がよく守っていたがミスに近しい失点もあり、一点をむくいただけで敗れ、立中戦は後半立大が押し気味に戦い吉田のあげた一点を守り切つて快勝、優勝候補の一つにあげられていた中大は先週に

【東大】  
 柳口田嵐田見野田野島松 3 13 20  
 畔浜福五倉浅山島岡中小  
 GK FB HB FW  
 田中山原津水宮勇村持中 6 4 14  
 横野畑福橋松小鈴木倉鈴  
 【教大】  
 立大 1-1-0-0 0 中大

つづいてはやくも二敗、優勝圏内から脱落した。早明戦は早大が前半38分先取点をあげ、これを追つて明はすぐPKでタイにし、後半も明の元気一ばいなプレーで試合はもつれたが、早は17分織田が勝越し点をあげ辛勝した。

S 30 . 10 . 24

【立大】  
 吹口岡田山井森島中田沼  
 矢川村景武横坪田沼小  
 GK FB HB FW  
 内小三菅御石中内岩田北  
 1 7 15  
 CKFK  
 CFKG

【明大】PK2  
 阪柳水橋島木林山島治村  
 保曹早大広鈴小徳福箱中 8 14 16  
 GK FB HB FW  
 世井崎田藤田野橋田田極  
 米核宮栗伊藤杉大織吉八  
 4 20 6  
 CKFK  
 CFKG

【早大】  
 早大 2-1-1-1 1 明大  
 世井崎田藤田野橋田田極  
 米核宮栗伊藤杉大織吉八  
 4 20 6  
 CKFK  
 CFKG

【早大】  
 世井崎田藤田野橋田田極 4 18 10  
 米核宮栗伊藤杉大織吉八  
 GK FB HB FW  
 林高浦原代黒村野中井川 10 17 23  
 小三菅御石中内田田北  
 【中大】

# 立、慶に逆転勝ち

## 関東大学サッカー 教大、明大を振切る

関東大学サッカーリーグ早慶、慶立、明教の三試合は廿日午前十一時から神宮競技場で進行、早、立、教が勝つた。早大はFWが好調で杉野、織田が巧みなシュートで前半3-0とリード、後半もLW八重樫とOF織田からのパスをRI大橋が一回シュートを決め、更にFKから平林が決めて6-0と快勝した。東大はOF岡野が光っていたが支援者なく二、三回迎えたチャンスも物にし得なかった。慶大は7分立大バックのミスでRW二宮のつかけて先行、後半にもF

Kから酒井がシュートして2-1とリード、風上の有利からそのまま押切るかに見えたが、タイムアップ直前に負傷したOH三村、LB神藤の傷陣遅く立大RW横森、OF内田に連続二ゴールを割られ逆転され惜敗した。

教大は前半風下で苦戦2-1とリードされたが後半風上に立ちよく球をキープ、4分RW小宮のシュートで同点とし、さらにLW鈴木が連続二ゴールをあげ快勝した。教大は小柄ながらパス・ワークとディフェンスに明

大より一日の長を見せていた。  
 早大 6-3-1-0 0 東大

【早大】  
 島井崎田藤田野橋田林極 9 5 13  
 中核宮吉伊藤杉大織吉八  
 GK FB HB FW  
 柳口岡田嵐田見野田野島松 6 12 26  
 畔浜福五倉浅山島岡中小  
 【東大】  
 立大 3-2-1-1 2 慶大

【慶大】  
 田川藤野崎村宮川井中野 2 10 12  
 松小神土宮三脇酒山耳  
 GK FB HB FW  
 川村吉景石橋坪内沼小  
 3 22 15  
 CKFK  
 CFKG

【明大】  
 坂田水橋柳島林田山沼間 5 7 18 1  
 保曹早大廣小和徳柁本  
 GK FB HB FW  
 内中山原津水宮勇村持中 3 6 13 0  
 横野畑福橋松小鈴木倉鈴  
 【教大】  
 S 30 . 10 . 31

# 東大、明大を破る

## 早大の優勝成るか

**学一** 関東大学サッカー・リーグ第四週慶大対中  
**大カ** 大、早大対教大、明大  
**東** 対東大の三試合は六日  
**関** 午前十一時から神宮競

技場で挙行、第一試合、慶大対中大は中大FWが相変らず元気なく慶大の防御陣を最後まで抜けず前半30分慶大酒井にあげられた一点を守りきり三連敗を重ねた。

第一試合早大対教大は無敗同士で興味を呼んだが早大は四つ目の勝星をあげ優勝の色が濃くなった。

第三試合東大対明大は東大が攻撃力振わず苦戦をつつじたが後半幸運に二本のPKを得、以後調子に乗って30分、40分に島田がよき突

**関東大学サッカー・リーグ成績表**  
 (○勝 ●負 △分)

早	教	立	慶	中	東	明	試	勝	分	点
○	○	○	○	○	○	○	4	4	0	8
○	○	○	○	○	○	○	5	5	8	5
○	○	○	○	○	○	○	4	2	1	3
○	○	○	○	○	○	○	4	1	1	0
○	○	○	○	○	○	○	4	1	0	0
○	○	○	○	○	○	○	4	1	0	0
○	○	○	○	○	○	○	4	1	0	0
○	○	○	○	○	○	○	4	1	0	0
○	○	○	○	○	○	○	5	1	0	2
○	○	○	○	○	○	○	3	3	2	2

込み々々押ししの二点をあげ明大を降す奮闘を演じた。

【評】早大は元気良く走り回っていたのだがコンビネーションが悪く、とくにリーグで一番強いとい

われるFW陣に全くパスがなく、初めから苦戦をつづけた。前半はそれほど出来が良いとも思われぬ教大の方が押しきみで、浮球に弱い早大バックスはまたもたしてピンチも多く、教大のシュートが正面をつき、また遠くはすれるなどの幸運に恵まれ、早大は失点こそ無かったが全く危い試合ぶりであった。後半になっても早大FWのバランスは悪く、いたすらにロングキックをくり返えし、相手にそのまま球をパスするなど精彩が無かった。早大は後半17分バックスからのロングキックを織田、平林のコンビでやっと得点しそのまま押切つて辛うじて勝ったが早大は全く優勝候補らしくない試合ぶり、ちよつとツイている感じにする試合であった。(中条)

東大 4 0 1 1 明大

**【慶大】**

田川藤原	原崎川	吉井野	4	17	14
松大神	田宮小	二脇佳博	1	14	6
GK	FB	HB	FW	CK	FK
GF	HB	FW	CK	FK	FK

内田三村 御菅村 内田田北

**【早大】**

世井崎	田藤田	野橋田	林	5	11	18
米松吉	吉伊	杉大	綱平	1	12	15
GK	FB	HB	FW	CK	FK	FK
GF	HB	FW	CK	FK	FK	FK

横野畑 福橋松 小松鈴倉志

**【東大】**

田風田	田見部	野島田	4	13	13	
楠五福	倉浅	服岡	山中	10	15	15
GK	FB	HB	FW	CK	FK	FK
GF	HB	FW	CK	FK	FK	FK

坂村井橋 柳島林 田山沼間

# 中大と教大勝つ

## 関東大学サッカー

関東大学サッカー・リーグ第五週 慶明、中東、教立の三試合は土曜午前十一時半から後楽園競輪場で挙行。第一試合慶明戦は明大が前半の失念に最後まで苦しんだが後半42分小林が得点し引分け、また東大対中大は中大が前半2点をあげ

**関東大学サッカー・リーグ成績表**  
 (○勝 ●敗 △分)

早	教	立	慶	中	東	明	試	勝	分	点
○	○	○	○	○	○	○	4	4	0	0
○	○	○	○	○	○	○	5	4	2	1
○	○	○	○	○	○	○	4	4	2	1
○	○	○	○	○	○	○	4	4	1	1
○	○	○	○	○	○	○	4	4	1	1
○	○	○	○	○	○	○	4	4	1	1
○	○	○	○	○	○	○	4	4	1	1
○	○	○	○	○	○	○	5	1	0	2
○	○	○	○	○	○	○	3	3	2	2
○	○	○	○	○	○	○	3	3	2	2

げて試合を決し、後半東大の反撃で一時は2-1になったが、その後追加点をあげ、中大快勝した。第三試合教大対立夫は実力は全く互角、五分五分の一進一退を繰り返していたが、前半31分教大は志村が得点、立夫は後半早く反撃したが守り切れぬ情敗した。

**【明大】**

坂村水	橋柳木	藤山林	沼	8	12	13	
保中早	大青	鈴伊	徳小	相	3	12	16
GK	FB	HB	FW	CK	FK	FK	
GF	HB	FW	CK	FK	FK	FK	

田川藤原 崎川 吉井野

**【慶大】**

松大神	田宮小	二脇佳博	4	17	14
GK	FB	HB	FW	CK	FK
GF	HB	FW	CK	FK	FK

内田三村 御菅村 内田田北

**【早大】**

世井崎	田藤田	野橋田	林	5	11	18
米松吉	吉伊	杉大	綱平	1	12	15
GK	FB	HB	FW	CK	FK	FK
GF	HB	FW	CK	FK	FK	FK

横野畑 福橋松 小松鈴倉志

**【東大】**

田風田	田見部	野島田	4	13	13	
楠五福	倉浅	服岡	山中	10	15	15
GK	FB	HB	FW	CK	FK	FK
GF	HB	FW	CK	FK	FK	FK

坂村井橋 柳島林 田山沼間

S 30 11 13



# 早大、四年ぶり優勝

## 関東大学サッカー 冷雨の中、立大を破る



早立サッカー 前44分、立大ゴール前立大GK矢吹(中央)早大GK大橋のヘディングをクリヤーする

関東大学サッカーリーグ最終日 慶東、明中、早立の三試合は二十七日午前十時三十分から神宮競技場で行われた。慶大、中大が東大、明大にそれぞれ快勝した後、今シーズンの優勝をかけた早大と立大は折からの冷雨による悪コンディションのもと前半接戦を競けたが、後半始つて早大が3-1とリード、その後も追加点をあげて立大を押し切り、四年振りに十一度目の優勝を挙げた。

早大	5	3	2	1	1	立大
立大	1	1	0	1	0	東大
中大	4	1	1	1	0	明大

【解】早大は13分までに二点先取するといふ好調な盛り出しだった。10分杉野、13分八重樫がきめたものが共に立大GKの身体に当たったのちゴールした。早大はスムーズな攻法を用いたわけではない。最後まで球を追う早大のわばりが生んだ得点ともいえるが雨のためグラウンドが悪くバウンドが不規則になったため立大GKが判断を失したものでまず幸運な二点だった。この二点差にかかわらず前半試合の興味は損なわれな

かった。それまでに立大FWはうまくオープン攻撃をしていたし、CF高橋は惜しいシュートを二本逃がしている。それに平常から余り強くない早大バックスは雨のため足をとり、戦術でも、いつかは立大の得点はあるように思えたからである。地域的に一進一退の接戦のち18分立大は東山の縦パスを高橋が中央を翻つて彼としては三度目のチャンスを得点した。しかし立大はこれ以後前半はよく攻めていたのだが後半始つて直ぐ八重樫に見事なロング・シュートをきめられてからはがっかりしてしまつた。早大は15分大橋が左に回りこんだ杉野からのパスを、40分にも杉野がそれぞれ追加点としてこれに気をよくした早大バックスも落ちついてほとんどミスなく立大の攻撃を絶つた。立大は後半雨が激しくなると共に衰えてしまつたが、勝負の分れ目は前半はじめ幸運な二点を得た早大、同時に二つ

田川 藤村 崎野 官井 井中野	4	9	11
松小神 三宮 上 藤酒山 耳	CK	FK	FK
GK FB HB FW	CK	FK	FK
田見 松島 野野田	2	13	21
補五福 倉後 小中山 岡島			

早大	立大	慶大	中大	明大	東大	勝	分	点
●	○	△	○	○	○	5	4	11
●	○	△	○	○	○	4	1	9
●	○	△	○	○	○	3	2	7
●	○	△	○	○	○	2	1	6
●	○	△	○	○	○	2	0	5
●	○	△	○	○	○	2	0	2
●	○	△	○	○	○	1	2	2
●	○	△	○	○	○	0	1	2
●	○	△	○	○	○	0	1	2

林原 浦代 田中 崎野 井川	9	10	8	1
小田 三浦 松石 田宮 内田 北	CK	FK	FK	FK
GK FB HB FW	CK	FK	FK	FK
坂村 水山 柳木 林 岡田 沼島	5	9	18	0
保中 早徳 青鈴 小本 和 相福				

世井 崎野 田野 橋田 林 堀	8	6	12
米根 菅 吉 伊藤 杉 大橋 平 大	CK	FK	FK
GK FB HB FW	CK	FK	FK
吹口 岡田 井山 森島 橋田 沼	3	10	20
矢川 村 吉 武 景 横 坪 高 浦 小			

のチャンスを失した立大、前半の微妙な得点のやりとりが心理的に試合を決したと見たい。(中条)

評 論 大 東 一 関 サ  
学 東 大 一 関 サ

リーグ戦開始前の関係者の予想は次の二つがあった。実力的に各校はほとんど差がない、ところが優勝するからなら、もう一つはFWにツブぞろいの五選手を持つ早大が優勝するところである。

フタを開けて見るとおかしな様だが、この予想は二つとも当たったような形になったのである。全くのこの実力的にはほとんど差がなかった。二位の教大は地味なねばり強いプレーで早大と接戦、立大にも後半押されながら1-0で辛勝、中大には1-1で引分けている。

昨年優勝の立大はほとんどスケールが落ちたにもかかわらずはらしいチーム・ワークで備闘したし、早大も早大と引分不調とはいえず中大を降した伝統の強味を見せて

いる。明大も勝数こそ無かったが、つひながらFWに精彩なく、1-1の後、やっと勝越点をあげて、教大にもほとんど押されつつ1-0で辛勝、早大とは引分けているなど、中対と奮い試合が多かった。

# 多かった凡プレー 運に恵まれた早大の優勝

今シーズンは全般的に余裕のあるプレーや理論通りの試合運びがほとんど見られなかった。しかも絶対的なチャンスも失し、防いでも簡単な球を失する凡プレーが余りにも多過ぎた。

一方が勝つという感じさえした。例えば一方の数多くのシュートがわずかにバーをはずれ他方の一つのシュートが運よく決まるなど、優勝した早大の場合ですら運が良かったと感われるのは対明、教、慶の三試合でこれは念心の勝利とはいえないものだった。立、中に対しても後半の快調をもたらした転回点となったものはやはり人為的でない微妙な球の回転によったともいえないことはない。早大の優勝にケチをつけるわけではなく、早大の最後まであきらめず球を追う伝統の気力、ねばりが、きわどい勝負をものにした点も合わせて強調したいが、理論や作戦が実地に移されそれが勝負を決めてゆくというケースが皆無であったといつてとをいいたいのである。審判の上手、下手によっても勝負が変る試合もあった。それらの点では必ずしも多過ぎた。それらの点では必ずしも多過ぎた。(中略)

S 30. 11. 29

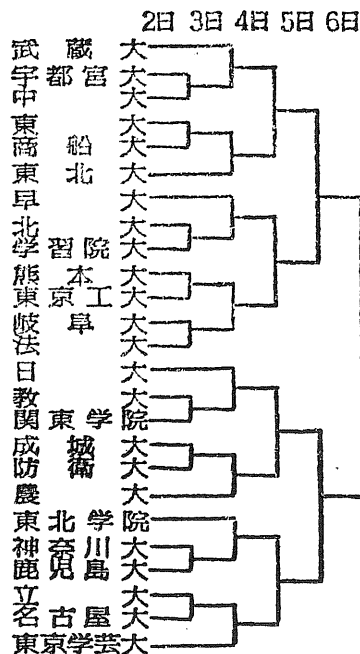
S 30. 12. 28

## 組合せ決る

### 全国大学サッカー

朝日新聞社後援第四回全国大学サッカー選手権大会は二月一日から

五日間神宮競技場と同給館前球場で全国から二十五校を集めて行われるが、二十七日その組合せが日本蹴球協会から次のように発表された。





# ずば抜けた早大

## 準決勝は教大、立大、中大の顔合せか

### 二日から 全国大学サッカー 神宮で

朝日新聞社後援の第四回全国大学サッカー選手権大会は一月二日から五日間、神宮競技場、同給園館前球場で行われる。参加廿五校のうち十一校が東京勢で、ベスト四には関東リーグで活躍の上位校、早大、教大、立大、中大が残る見込みが強い。地方勢は平常試合数に恵まれておらず、余り期待出来ない。

関東リーグで優勝した早大の組にはめばしいチームはない。関東二部で二位だった法大くらいのもの。だが、これでも早大には少なくとも五点差をつけられるだろう。むしろここでは東京チームのうちでレベルの低い学習院大や東工大と北大、熊本大の顔合せが試合としては面白いだろう。教大もその組の顔触れからは準決勝進出は楽なようである。関東リーグの

中位の実力を持つ神奈川大に四点の差で勝つたことのある防衛大がここにいる。これと二回戦で顔を合わせる慶大は今年関東リーグの一部に昇格したチームで、この組

は一番の興味ある試合を演じよう。しかしその勝者にしてもやはり教大には歯が立つまい。立大の組には東北と九州でそれぞれ無敗を誇る東北学院大、鹿児島大がいる。この両者は第一回大会からいつも出場し年々力を上げてきている。二回戦で顔を合わせ、その勝者が立大と試合する。どちらが勝ったとしても立大とは相当

接戦するだろう。中大の組には東大と商船大がいる。元気が良く昨年早大に下り下りよく戦った商船大が東大を破れば、中大も危い。ベスト四が勝ち残りず番狂わせが生れる可能性の一番大きな組である。

準決勝は順当にゆけば早大対中

大、立大対教大となる。早大の決勝進出はF.Wラインの躍の良さから見ればまず間違いないだろう。そして優勝の可能性も一番大きい。(中条)

# 昭和31年

## 中大、立大など勝つ

全日本大学サッカー

朝日新聞社後援第四回全日本大学サッカー選手権大会第一日は一日午前九時から神宮競技場、同絵画館前球場で一回戦八試合が行われ、鹿兒島大、熊本大の九州勢がそれぞれ神奈川大、東京大に快勝したのが目をひいた。

▽一回戦

中大	11	4	7	1	0	宇宮大
中大	11	4	7	1	0	宇宮大
教大	3	0	3	1	0	関東学院
東大	3	0	3	1	0	商船大
防衛大	4	1	1	1	1	成城大
学習院	1	0	1	0	0	北大
鹿兒島大	4	0	4	0	0	神奈川大
熊本大	4	2	2	1	0	東京大
立大	6	4	2	0	0	名古屋大
法大	4	2	2	0	0	岐阜大

S  
3/ / . 3

## 勝ち残る東京勢

全日本大学サッカー

朝日新聞社後援第四回全日本大学サッカー選手権大会第二日は神宮競技場、同絵画館前球場で一回戦八試合が行われた。地方勢は全く振わず、勝ち残ったベスト・エイトのうち東北学院以外は全部東京勢となった。

▽一回戦

中大	5	4	1	0	0	武蔵大
中大	5	4	1	0	0	武蔵大

東大	6	4	2	1	0	東北大
東大	6	4	2	1	0	東北大
教大	7	3	4	1	1	日大
教大	7	3	4	1	1	日大
農大	4	2	2	0	0	防衛大
農大	4	2	2	0	0	防衛大
早大	6	4	2	0	0	学習院
早大	6	4	2	0	0	学習院
法大	2	1	1	0	1	熊本大
法大	2	1	1	0	1	熊本大
東北学院	4	2	2	1	0	鹿兒島大
東北学院	4	2	2	1	0	鹿兒島大
立大	5	4	1	0	0	東京大
立大	5	4	1	0	0	東京大

S  
3/ / . 4

# 立大、東北学院に敗る

## 全国大学サッカー

朝日新聞社後援の第四回  
全国大学サッカー選手権  
大会第三日は四日前十  
時三十分から神宮競技場  
で準々決勝四試合が行わ  
れた。シード・チームの  
中大が東大の果敢な攻撃  
に敗れ、教大も農大に最

後まで苦しめられタイム・アツプ  
直前、勝越点をあげて辛勝したの  
ち、優勝候補の一つにあげられて  
いた立大は東北学院に対し終始攻  
めつづけながら得点なく、後半27  
分東北学院のOFに得点されて敗

れる大番狂わせが生まれた。

▽準々決勝

東大	4	2	2	3	中大
早大	5	2	3	0	法大
教大	3	3	0	1	農大

木村村原林	村中高部	堤	鈴枝北條小	石田日坂
GK	FB	HB	FW	FW
田野保	長瀬井保藤志倉	坂	坂	坂
教大	教大	教大	教大	教大

田口嵐田見野田野島松	4	10	12
楠(五倉)浅山島岡中小	3	6	13
GK	FB	HB	FW
林高浦	原代黒村野中井川	部	部
小三菅御石中内田田北	部	部	部
中	大	中	大

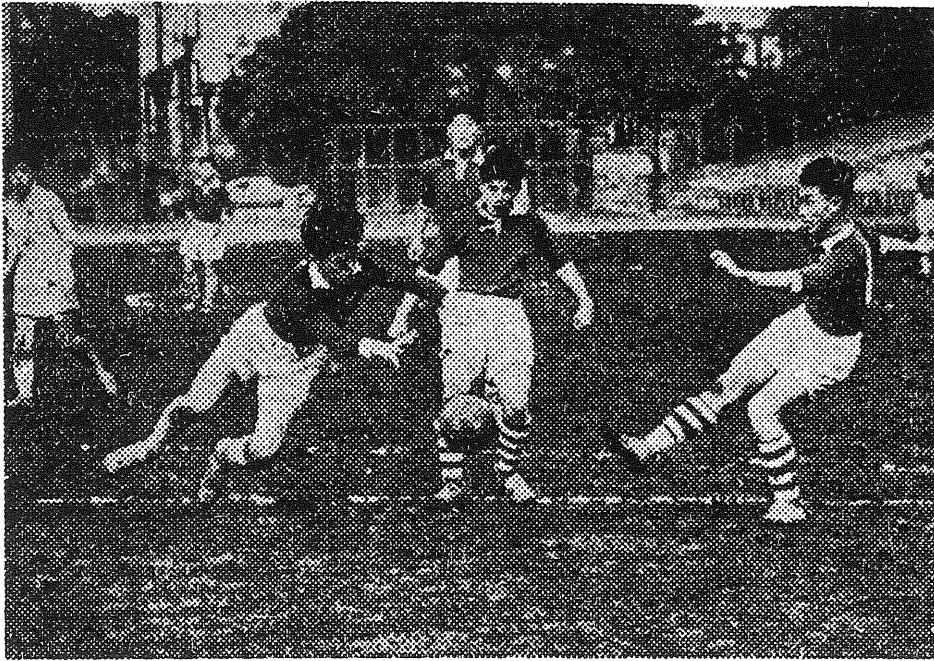
保沢	藤生田山合田井原	3	10	14
南小	安羽金米落本安梅	3	4	5
GK	FB	HB	FW	FW
島辺藤	林田田本橋田木本	中渡伊平栗柳吉大織鈴西	部	部
早	大	早	大	早

東北学院 1 0 0 0 立大

藤浦藤平川藤形入田橋間	0	5	13
加三遠松大佐山笠土高本	5	11	2
GK	FB	HB	FW
吹山岡	田井林森沢島田沼	矢景村吉武小横井坪浦小	部
立	大	立	大

【早大】立大は試合駆引き、キック力に優れ、ほとんど東北学院を一方的に押しまくった。とくに前半、東北はゴール前にクキつけにされる場面も多く、チャンスは十を下らず、立大の得点は時間の問題と思われるほどだった。東北は後半27分たつた一つの反撃を生かしそれを切り切つて勝つたものだが、幸運だったといえないこともない。その得点は立大GKのミス・キックをR1石村が受けそれをOF十田が決めたもの。しかし激しい立大の攻撃を切り抜けた東北学院のねばりは見過せない。

(中巻)



全国大学サッカー連決勝 早大  
対東大前半34分東大ゴール前、  
東大GK福田(左)のゴボレ球  
を早大L1鈴木右がシュート  
しゴールなる―神宮競技場

# 東北学院、教大を破る

## 全国大学 サッカー 早大と優勝争う

朝日新聞社後援、第四回全国大学  
サッカー選手権大会第四日は五日  
午後零時卅分から神宮競技場で準  
決勝二試合が行われた。早大が東  
大に順当に勝ったのち東北学院は  
教大を延長で降す金星をあげた。  
東北学院は準々決勝で立大を降し  
ており、関東大学リーグの二、三  
位校を連破したわけ。またこの大  
会で地方勢が決勝に進出するのも  
初めてである。

### ▽準決勝

早大 4-1-0-0 東大

【評】東大は中大を破った時に見  
せたような激しい動きと当りがな  
く、個人技が教段降れた早大の一  
方的な試合だった。早大は前半15  
分平林が先取点をあげ、なおされ  
いな球さばきで八分とりの球をキ  
ープし強シユートを思うままに  
放っていたので、この早大の先取  
点は勝負の興味を薄くした。早大  
は29分八重樫、34分鈴木と加點、  
後半は試合もダレた。東大は後半

### 【東北】

藤浦藤本川宮形人田藤間  
加三遠松大二山安土佐本  
GK FB HB FW  
CKFK CKFK  
CFGK CFGK  
5 11 7

### 【教大】

田野保原彌井斎藤志倉鈴

風上になって時折逆襲のチャンス  
に恵まれたが、この日の動きでは  
得点はおよもつかなかつた。  
東北 2-1-0-0 1 教大

【評】東北学院の勝は全く予想外  
のものだった。初め教大は好調、  
風上を利用してさかんにロビングを  
あげ東北陣になだれ込んでいたの  
で、あるいは教大の一方的な勝ち  
になるのではないかと思われるほ  
どであった。7分東北ゴール前  
の混戦のけり合いからGK加藤が  
出過ぎ、教大のシュートをLH二  
宮が手でカバーしたためPKとな  
り、東北は先取点を奪われた。教  
大はその後も良く攻め東北にはと  
んど攻めさせなかつたが、20分東  
北は三度目のチャンスをもたし  
た。教大ゴール前五十呎付近から  
のFKが風にさらされてふわりと  
浮き、ゴールのバーに当たってほと  
りと落ちるのをCF土田が見事に  
押し込んだのである。1-1にな  
って東北は見違えるほどの動き

を見せ、後半20分ごろまで、余裕  
をもって中央突破、左右のオーフ  
ン攻撃などでしばしば教大をピン  
チに陥れた。この間の個々の球さ  
ばきではやはり教大に及ばなかつ  
たが、タックルは深くコンビや  
気力では教大を圧していた。東北  
は20分過ぎや動きがにぶって来  
た。それほど疲労したとは思えな  
かつたのだが、全員が陣立ちの感  
じで教大に攻めまくられた。辛う  
じて東北は最後の防衛線のCF大  
川の長い足からのピンチ・キック  
にのがれていた。結果的には東北  
がこの波の低調なときをうまく乗  
り切れたことが勝因の一つとなっ  
た。延長の得点は後半東北がPK  
を得、CF土田のキックはGKの  
正面を衝いたが、そのはじき球を  
L1佐藤が辛うじて浮き球で決め  
たものである。(中条)

【東大】  
田口田嵐田見野田野島松  
+ 23 15  
楠浜福五倉浅山島岡中小  
GK FB HB FW  
CKFK CKFK  
CFGK CFGK  
6 3 8

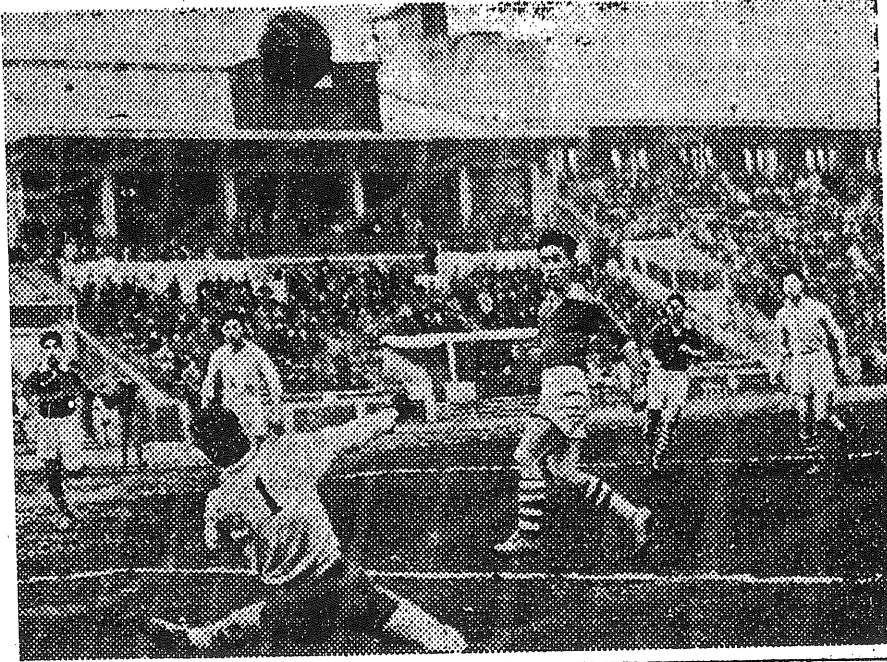
### 【早大】

中渡伊平栗巻西大織鈴八

# 早大、初優勝とげる

## 東北学院大に大勝

全国大学  
サッカー



朝日新聞社後援第四回全国大学サッカー優勝時から神宮競技場で三位決  
ツカー選手権大会最終日は六日午一定時に続いて早大対東北学院の決  
闘。左から早大の選手(右)と東北学院の選手(左)とが争っている。

勝利を行った。早大は前半三点を  
挙げ試合を決し、後半終りごろ東  
北の疲弊に乗じ大量七点をあげ10  
ー1で大勝、初の優勝を挙げた。

▽決勝  
早大 10 3 1 0 1 東北  
7 1 1 0 1 学院北

【早大】

島辺 藤林 田本 橋田 木橋  
中渡 伊平 栗 西 大 櫻 鈴 八  
GK FB HB FW

藤浦 藤本 川 宮 杉 人 田 橋 間  
4 12 19 0

加三 遠 松 大 山 登 土 高 本  
【東北】

【東北】

【解】早大は10分東北のGKが出  
すきたところへ橋田からの球を織  
田が先取点した。しかし橋田出し  
はどちらかといえば東北の方が巨  
く、単純ながら力強いキック・ア  
ンド・ラッシュをくりかえし、中  
盤のせりあいでもねほりめく東  
北にチャンスがあり、早大もたじ  
たじの場面があった。しかし早大  
は20分過ぎからすばらしいパスワ  
ークで味のよいプレーを見せ本来  
の調子を出し始め、26、34分と大  
橋がセンターリングの球とロング  
シュートをそれぞれ決めた。これ  
はGKの判断が悪かったともいえ  
るが、このあたりの早大は近來に  
ない良さで、その鋭い攻撃からい

つて当然生れるべき性質のもので  
あった。

○早大は後半8分にも西本が追  
加点をあげたが、東北は4点の負  
担にも負けず30分ごろまで固く立  
ちなおってガンバリ、HBから早  
大FBの背後を縫う縦パスが早く  
通っていた。なかなか得点にはな  
らなかつたが、今までの地方チー  
ムには見られないスピードがあつ  
た。そして30分ついに高橋が突  
込んでシャットアウトをまぬがれ  
た。しかしこれで東北は力の限界  
まで出し切った感じ。その後、み  
じめなほどの崩れ方を見た。早  
大は東北の疲弊に乗じて思うまま  
の球さばきで15分間にPKを含む  
連続六点をあげたのである。この  
あたり東北には崩れ始めるとトコ  
トコまで崩れる地方チーム特有の  
弱さが見られた。持てる力の差と  
いうよりほかない。(中略)

▽三位決定戦

東大 1 1000  
0000 0 敵 大

